大正四年四月二日
文部省檢定濟

農藝教科書

園藝篇

蔬菜・果樹・花卉

農學士 小倉延足編

東京 合資會社 六盟館

41322
教科書文庫
4
620
40-1915
20000
46542

資料室

大正四年四月二日
文部省檢定濟

農學士 小倉延足編

農藝教科書

園藝篇

蔬菜・果樹・花卉

東京 合資會社 六盟館

375.4
Og21

廣島大學圖書之印

廣島大學 教 46542 圖書

農藝教科書　園藝篇

目次

第一篇　園藝作物

第一章　園藝作物の分類……一
第二章　作物と風土……三
第三章　土壤……四
第四章　土壤の性質……六
第五章　肥料……七
第六章　施肥の方法……九
第七章　種子の選擇……一〇
第八章　整地と深耕……一二
第九章　播種……一三

第十章　播種の方法……一四
第十一章　園藝用器具……一六
第十二章　病・蟲害及び害獸の防除……一八
第十三章　採收及び貯藏……二〇

第二篇　蔬菜篇

第一章　苗床及び苗……二四
第二章　促成栽培と軟化法……二六
第三章　移植及び分植……二八
第四章　蔬菜の間作と輪作・連作……二九
第五章　間引と中耕……三〇
第六章　蔬菜の摘除……三二
第七章　根菜類……三三

一、菜服（だいこん）　二、蕪菁（かぶら）　三、胡蘿蔔（にんじん）
四、牛蒡（ごばう）　五、甘藷（さつまいも）　六、馬鈴薯（じやがいも）
七、里芋（さといも）　八、薯蕷（やまいも）　九、葱頭（たまねぎ）
一〇、百合（ゆり）　一一、蓮根（れんこん）　一二、慈姑（くわゐ）

第八章　葉菜類……五三
一、菘類（なるゐ）　二、甘藍（たまな）　三、葱（ねぎ）
四、菠薐草（はうれんさう）　五、野蜀葵（みつば）　六、塘蒿（おらんだみつば）
七、茼蒿（しゆんぎく）　八、土當歸（うど）　九、石刁柏（アスパラカス）
一〇、蕗（ふき）　一一、蘘荷（めうが）　一二、紫蘇（しそ）

第九章　果菜類……七〇
一、胡瓜（きうり）　二、南瓜（かぼちや）　三、冬瓜（とうぐわ）
四、西瓜（すゐくわ）　五、甜瓜（まくはうり）　六、扁蒲（ゆふがほ）
七、茄（なす）　八、蕃茄（トマト）　九、蕃椒（たうがらし）

一〇、豌豆(ゑんどう)　一一、菜豆(たうささげ)　一二、豇豆・刀豆・鵲豆・蠶豆
一三、草苺(いちご)

蔬菜類栽培一覧表

第三篇　果樹篇

第一章　果樹の蕃殖……九一
第二章　果樹の栽植……九七
第三章　果樹の培養……九九
第四章　剪定及び整枝……一〇一
第五章　仁果類……一〇四
一、苹果(りんご)　二、梨(なし)　三、柿(かき)
四、柑橘類(かんきつるゐ)　五、枇杷(びは)
第六章　核果類……一一八
一、梅(うめ)　二、桃(もも)　三、李(すもも)
四、杏(あんず)　五、櫻桃及び朱櫻

第七章　漿果類……一二八
一、葡萄(ぶだう)　二、無花果(いちじく)
第八章　乾果類……一三三
一、栗(くり)　二、胡桃(くるみ)

果樹類栽培一覧表

第四篇　花卉篇

第一章　花卉の栽培……一三八
第二章　花壇……一三九
第三章　花卉の移植及び管理……一四一
第四章　花卉の肥料……一四一
第五章　花卉の鉢植……一四三
第六章　促成と溫室……一四四
第七章　一・二年生花卉……一四六
一、松葉牡丹(まつばぼたん)　二、百日草(ジンニア)　三、桔梗撫子(フロックス)

四、牽牛花(あさがほ)　五、金蓮花(ナスターチユーム)六、天人菊(ガイラルヂア)
七、花菱草(エッショルチア)八、嬰粟と虞美人草　九、コスモス(はるしやぎく)
一〇、其の他の一・二年草類
第八章　多年生花卉(宿根草の部)……一五五
一、櫻草(プリムラ)　二、菫(バイオレットとパンジー)三、天竺葵(ゼラニユーム)
四、檀特(カンナ)　五、花菖蒲・溪蓀・燕子花・鳶尾草六、千鳥草(ラックスパー)
七、菊(きく)　八、其の他の宿根草類
第九章　多年生花卉(球根性の部)……一六六
一、ヒヤシンス(風信子)　二、チユーリップ(鬱金香)三、水仙とナーシツサス
四、フリージア　五、アネモネ　六、天竺牡丹(ダーリア)
七、其の他の球根性類
第十章　觀賞花樹……一七三
一、牡丹(ぼたん)　二、薔薇(ばら)　三、躑躅(つつじ)　四、觀賞花樹の分類

園藝篇目次終

陸軍大學圖書之印

農藝教科書　園藝篇

農學士　小倉延足編

第一篇　園藝作物

第一章　園藝作物の分類

園藝作物

園藝とは、萊菔・胡蘿蔔・菘・甘藍・胡瓜・茄などの如き蔬菜類、梅・桃・梨・葡萄などの如き果樹類、および菊・菫・牽牛花などの如き花卉類を栽培する手續をいひ、之等の作物を總稱して園藝作物といふ。

一般農家にて栽培する稻・麥・大豆・粟及び蔬菜の類を普通作物といひ、茶・藍・蓼・薹・蘭・楮・大麻・棉などを特用作物といふ。故に園藝作物の一部は普通作物に屬す。

蔬菜類

蔬菜類は日常の副食物として缺くべからざるものにして、その種

類甚だ多しといへども、われ等の主として需要する部分によりて、之を根菜類・葉菜類・果菜類に大別す。

果樹類

果樹類より採收する果實は、主に生食すれども、また乾果・砂糖漬・鹽漬、もしくは罐詰として良好なる食料品を得べく、或は之を用ひて酒・ジャム等を製すべし。通常果實の形質によりて、仁果類・核果類・漿果類・乾果類に大別す。

花卉類

花卉類とはその花・葉などを賞玩するために栽培する植物をいふ。この類は栽培上多少の熟練を要すれども、甚だ趣味多くして、且狹き庭園にても行ひ得るが故に、或は花壇となし、又は室内の裝飾用として、人心を爽快高雅ならしむべし。種類頗る多く、一二年生花卉類・多年生花卉類に大別す。其の他、樹木中、花のみを觀賞するために栽培するものを觀賞花樹類といふ。

園藝作物の分類

- 園藝作物
  - 蔬菜類
    - 根菜類　萊菔・蕪・青・胡蘿蔔・牛蒡・芋・葱・頭・薯・蕷・馬鈴薯・百合・蓮根・慈姑・薑等
    - 葉菜類　菘・甘藍・萵苣・葱・菠薐草・野蜀葵・芹・欵冬・土當歸・石刁柏・蘘荷等
    - 果菜類　茄・胡瓜・南瓜・西瓜・甜瓜・蕃茄・豌豆・菜豆等
  - 果樹類
    - 仁果類　苹果・梨・柿・柑橘類・枇杷等
    - 核果類　梅・桃・櫻桃・李・杏等
    - 漿果類　葡萄・無花果・須具利等
    - 乾果類　栗・胡桃・銀杏等
  - 花卉類
    - 一二年生花卉　百日草・牽牛花・天人菊・コスモス等
    - 多年生花卉　菫・櫻草・菊・ゼラニユーム・花菖蒲・ヒヤシンス・水仙・アネモネ・ダーリア等
    - 觀賞花樹類　牡丹・ばら・つつじ・杜鵑花等

第二章　作物と風土

作物は其の種類によりて、或は暖熱の氣候を好むものあり、或は寒

冷の氣候に適するものあり。また土質に於ても、砂地に住なるもの、粘重の地に宜しきもの等あり。故に若しその風土に適應せざる作物を栽培するときは、徒に勞費のみ多くして、收益の少きを免れざるべし。

從來各地とも多くは經驗上より毎年同一の作物のみ栽培せしと雖も、よく學理を應用するときは、更に多くの適應せる作物を栽培することを得るに至るべし。

第三章　土壤

表土と心土

土壤の種類

土壤は作物の根を支へ、之に養分を給する處にして、其の上層を表土または作土といひ、下層を心土または底土といふ。

土壤は其の中に含まるる細微土・砂粒・礫及び腐植質などの多少によりて、砂土・埴土・壤土・腐植土・礫土等に分つ。

砂土は約八割以上の砂粒を含める土壤にして、空氣・水の透通よく、又これを耕すこと容易なれども、水分と養分とを吸收・保持する力弱きが故に、乾燥に過ぎ、かつ養分を流失し易し。されど砂土中に細微土を含むこと多きものは、之を壤質砂土と稱し、作物の生育に適せり。

埴土は一に粘土ともいひ、約六割以上の細微土を含み、粘氣強く、耕作に困難なる土壤にして、水分及び養分を吸收する力強けれども、空氣・水の流通不良なり。埴土中、砂粒を多く含めるものを壤質埴土といふ。

壤土は砂粒と細微土とを等分に含める土壤にして、其の性質も兩者の長所のみを併有したるものなれば、最も耕作に適したる土壤なり。

腐植土は一に壚土又はクロボクともいひ、多量の腐植質に富みて、黑褐色を帶べる土壤なり。養分を含むこと大なれど、往往有害

物を伴ひて作物の生育を害することあり。

礫土は礫を多く含める土壌にして、農耕に適せず。

其の他、火山灰土と稱するは、火山噴出の灰より成れるものにして、濕へば泥土となり、乾けば飛散し易く、其の生産力大ならず。

第四章　土壌の性質

汚水も土壌中を通過するときは清水となる、これ水中の汚物が土壌に吸收・保持せらるるによる。土壌に作物の養分となるべき肥料を施すときも、亦よく吸收・保持せらるるものなり。

土壌に施したる肥料成分は、主に不溶解態に變じて保留せらるるものにして、土壌のこの性質を吸收力といふ。

土壌の吸收力

かくて不溶解態のものは、やがて風化作用又は作物の根より分泌する液に溶かされて、次第に作物に吸收利用せらるるものなれば、土壌は恰も作物の養分を貯へ置く倉庫の如きものなり。されど土

壌の吸收力は、その種類によりて相同じからず、一般に埴土は吸收力最も強く、砂土は之に反し、壌土はその中間にあり。

土壌は吸收作用の外、水を保蓄する保水力、水を下層に透過せしむる透水力、および地下水を吸ひ上ぐる毛細管引力等の性質を有す。土壌の水濕適當なるを得るは之等の作用の宜しきを得るによるなり。

埴土と腐植土とは、保水力及び毛細管引力強けれども透水性に乏しく、砂土は全く之に反し、壌土は其の中間にあり。

第五章　肥料

肥料の必要

肥料の三要素

凡そ土壌中には、作物の成長に必要なる種種の養分を含むものなれども、其の中窒素・燐酸および加里の三成分は、土壌中に含有することと少量にして、しかも作物の吸收量甚だ多きものなれば、肥料によりて之を補はざるべからず。されば作物に施す肥料の主なるものは、實にこの三成分に過ぎざるなり、故に之を肥料の三要素また

は三主要成分と稱す。

肥料百分中に合めるる三要素の量

肥料名	窒素	燐酸	加里
下肥（人糞尿）	〇、五五	〇、一一	〇、三〇
廐肥	〇、五〇	〇、二六	〇、六三
紫雲英（生草）	〇、四八	〇、〇九	〇、三七
大豆粕	六、六〇	一、三〇	二、〇〇
油粕	五、〇五	二、〇〇	一、三〇
鯡搾粕	八、三〇	五、六〇	〇、七〇
鰯搾粕	九、七〇	四、〇〇	〇、五〇
骨粉	三、八〇	二三、二〇	〇、二〇
米糠	二、〇八	三、七八	一、四〇
木灰	〇	三、九〇	一、七〇
過燐酸石灰	〇	一五、〇〇	〇
硫酸アンモニヤ	二〇、〇〇	〇	〇
智利硝石	一五、〇〇	〇	〇
石灰窒素	一九、〇〇	〇	〇

右の表中、三要素の割合を適量に含めるものを完全肥料といひ、窒素分を多量に

肥料の分類

窒素肥料ヲアタエテ悪キモノ

基肥
遅效肥料
補肥
速效肥料

含めるものを窒素肥料、燐酸分を多量に含めるを燐酸肥料、加里分の多きものを加里肥料といふ。

肥料の中、廐肥・堆肥・綠肥などの如く有機分を多く含めるものを有機肥料といひ、硫酸アンモニヤ・過燐酸石灰・草木灰の如く無機分より成れるものを無機肥料といふ。一般に無機肥料は濃厚にして、かつ直ちに作物に接觸するときは、往々有害となることあり。

第六章　施肥の方法

作物を育成する爲に肥料を施すことを施肥といふ。施肥の方法は、肥料の性質、作物の種類、氣候・土質等、種々の事情によりて異なる。

作物の栽培前または移植に先だちて施用する肥料を基肥と稱し、通常堆肥・廐肥等の遲效肥料を用ひ、作物の生育中に少量づつ數回に施すを補肥又は追肥と稱し、多く下肥・硫酸アンモニヤ等の如き速效肥料を用ふ。すべて遲效肥料は成長期の長き果樹類等に適し、速效肥料は成長期の短き蔬菜類等に適す。但し葉菜類には回數を

施肥上の注意

多く施し、根菜類には一時に多量を與ふるを宜しとす。

肥料は之を土壤に施す以前に、最も其の效力を多からしむる狀となし、又は有害分を無害物に變ぜしむる等の準備を要す。例へば粕類の如き塊狀のものは碎きて細粉となし、また有機物を多く含める肥料は十分腐熟せしめて成分を溶解性に變ぜしめ、或は腐熟する場合に生ずる有害物を除去する方法を講ずるが如し。殊に下肥の如きは、新しきものを直ちに施用するときは反つて害あるゆゑに注意すべし。

肥料の濃厚に過ぐるは、作物の生育を害する恐れあるを以て、適度に薄くすべし。又容積小なる濃厚肥料は、他の無害物を混じ容積を增加して用ふべし、例へば過燐酸石灰などには、乾きたる土壤を混じて施す如き是なり。

作物の本源

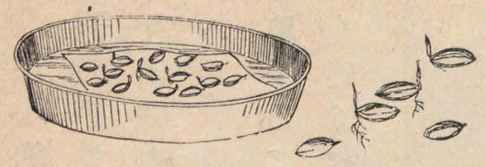
第七章　種子の選擇

作物を蕃殖せしむるには、主として種子による。されば種子は作物の本源にして、種子良好ならざれば良き作物を生ずることなし。故にその選擇には最も意を用ひざるべからず。

種子の良否

種子は、同一品種の中にても、重くかつ大なるものは芽の生育良好なれども、小粒のものは成長十分ならざるを常とするが故に、其の粒子の大小・輕重を選別するを要す。又種子は其の形狀・色澤・新古などにもよく注意せざるべからず、是れ外觀善良なりとて一概に良種子と定め難きを以てなり。故に先づ發芽試驗を用ひて其の歩合を求め、種子の發芽力を鑑定するを要す。

發芽力鑑定の方法



發芽歩合を檢するに最も簡單なる方法は、清潔なる皿又は硝子板上に、吸取紙、又は白布を敷き、其の上に若干の種子を並べ、前と同樣なる紙又は布を以て之を被ひ、適當の水濕を與へて、暖處に置き、毎日一回水濕を補ふときは、やがて發芽するを以て、その發芽粒數を數へて、歩合を定むるなり。

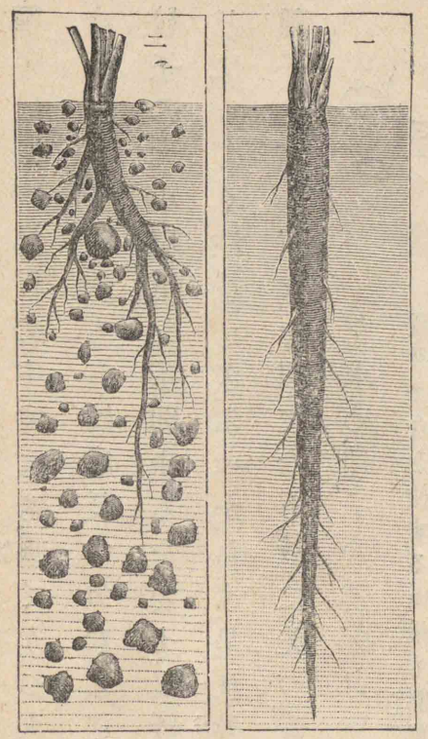
かくて發芽せるもの凡そ九拾%内外なるは大抵良種子にして、これより減ずるに隨ひて、その價値は次第に劣るものとす。

第八章　整地と深耕

種子を播き、或は苗を植うるに當りては、先づ土地を耕して軟かにし、且作物生育の害となるべき物を除かざるべからず、これを整地といふ。

整地するには、礫・根株などを除き去り、土地を深く耕して、土塊を細かく碎くべし。かくすれば、根は十分に蔓延することを得て、地中より養分を取ること多く、空氣及び水の流通も良好にして、作物はよく繁茂するものなり。殊に菜蕪・胡蘿蔔・牛蒡などの如き作物にありては一層の注意を要す。通常表土深き土壌は、その

一、整地をなしたる畑の牛蒡
二、整地をなさざる畑の牛蒡



淺きものに比して、作物の生育良好なるものなり。これ表土深ければ、作物の根は伸長して、土中の養分を多く吸收することを得るが故なり。されば耕鋤は成るべく深きを良しとす。

心土は表土の如く養分を含むこと多からざるのみならず、往々有害物を含むことあるが故に、土壌を急に深耕するときは、却つて作物の生育を害することあり。故に毎年秋冬の間に於て徐々に深く耕すを安全とすれども、心土の不良なる土地、又は作物の種類によりては、寧ろ淺耕するをよしとす。

第九章　播　種

土地に種子を播き付くることを播種または種蒔と稱し、作物によりて一定の季節あるものなり。これ種子の發芽には適當の溫熱を要するのみならず、其の適度は作物の種類によりて同じからず、且生育中に要する溫熱・水濕等にも差異あるによるなり。されば作物は、各適當なる季節に注意して播種するを要す。何とな

播種量

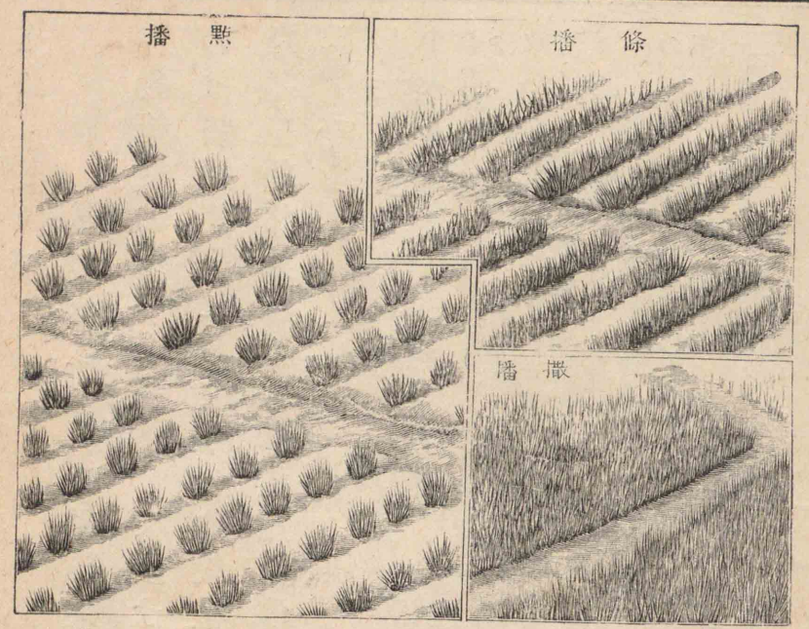
れば、同一の作物にても、地方により、又風土・溫熱の差異により、適期を異にするものなればなり。

播種の量も亦各作物によりて異なれども、概して其の量の多きに過ぐるときは、作物密生して生育宜しからず、又薄播に失すれば、日當り及び養分の吸收には十分なれども、空しく地積を費し、面積の割合に收穫少きの損失あるを以て、その量を適度ならしむることを肝要とす。

第十章　播種の方法

播種の方法には、點播・條播・撒播の三法あり。點播とは作線の上に適當なる隔たりを保ちて點々に播き下す方法にして、株間と畦間との距離廣きが故に、作物の生育には最も良好なり。條播とは作線上に連續して播種する法にして、最も普通に行はる。撒播とは圃上一面に播き散らす方法にして、稻の苗代及び苗床の播種等に多く行

播種後の覆土



はる。

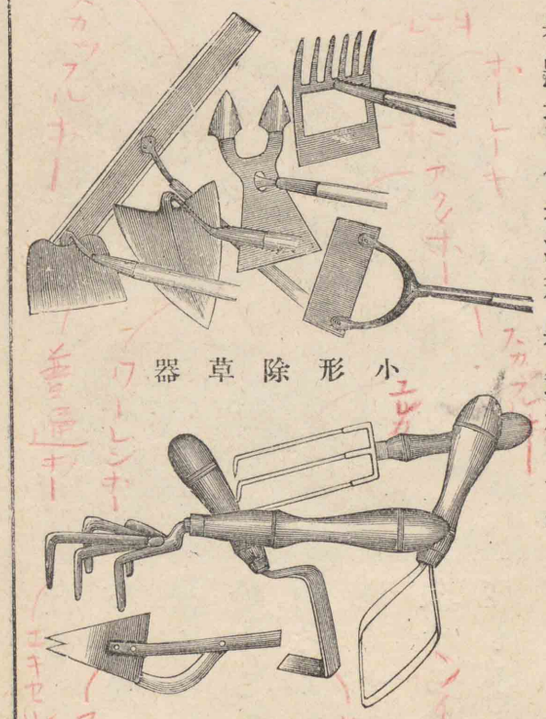
播種後は、種子の上に土を覆ふを常とす、是發芽に要する水分を供給する爲なり。其の覆ふ厚さは作物によりて異なれども、成るべく淺くするをよしとす。若し深きに失する時は、空氣の流通あしく、溫度も不足して、發芽を妨げ、又芽の地上に出づる迄に多〻の時間を要して養分に不足を生じ、之が爲に地上に出でたる後、作物の成長宜しからず、かつ中途にて枯死することあり。一般に小粒の種子ほ

ど淺く播くべし。

第十一章　園藝用器具

作物栽培の第一着手として要すべきものは耕鋤用器にして、其の他栽植用器・除草器・點播用具・浸種器・鉢植用具等あり。

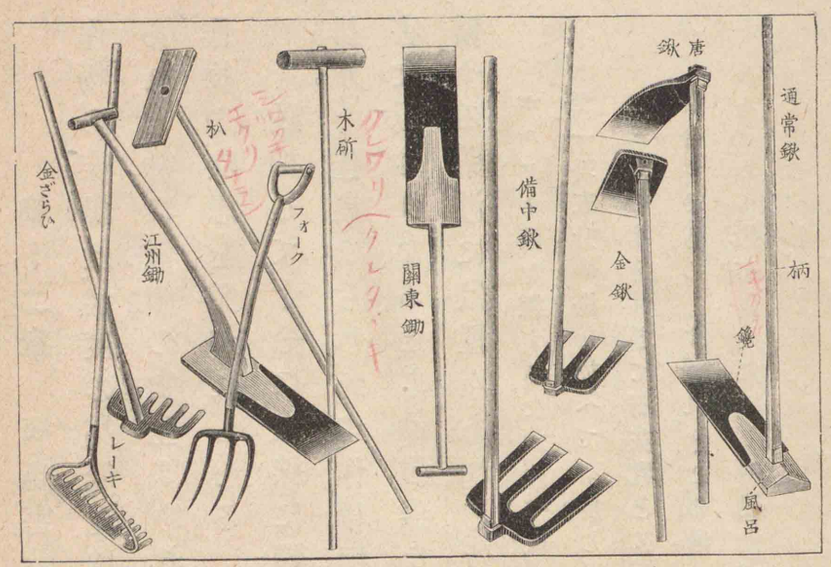
中耕除草器（ホーの類）



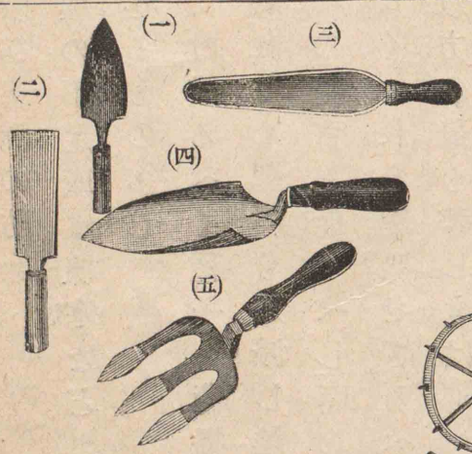
小形除草器

苗床・花壇用調土篩

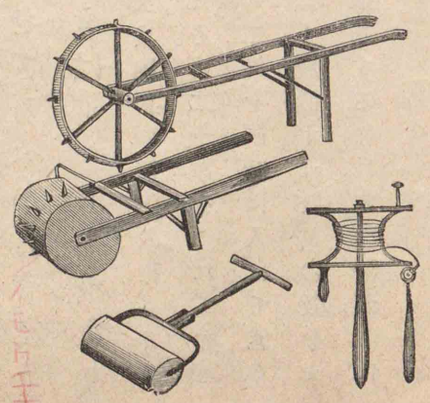
植木鉢・苗覆・玻璃鐘類



條付器・點播器の類



手用栽植器
一、二、掬ひ
三、四、移植鏝
五、移植用鐵叉



第十二章　病・蟲害及び害獣の防除

作物の病害

作物の疾患は、溫度の高低、光線の不足、或は凍寒などより起るものあれど、殊に黴菌の寄生より起るもの多し。

作物の疾患を免がれしむるには、成るべく種子を薄播とし、又は作物を疎植して、十分に光線に觸れしめ、肥料を加減し、兼ねて土壤の排水を佳良ならしめて、作物根の發育を促すべし。而して一たび病害に犯されたるときは、猶豫なくこれを驅除せざるべからず。之を醫する藥液には種々あれど、效力の最も著しきはボルドー液なり。

ボルドー液の製法

ボルドー液を製するには、先づ硫酸銅百二十匁を桶又は陶製の器に入れ、一斗乃至一斗五升の湯を加へて溶解し、又別の桶に生石灰凡そ百二十匁を入れて徐々に前量の水を注ぎて石灰乳となし、更に別の桶にこの二液を同時に入れて能く混合するものとす。されどこの液は混合後五六時間以上放置すれば、其の效を失ふを以て、撒布に先だちて調製すべく、又この藥液を撒布するには、雨後晴天の日を選むべし。

作物の害蟲

作物を害する蟲類を害蟲といふ。害蟲の種類は頗る多く、いづれも作物の莖・葉を食害するか、又は作物體中より液汁を吸收して、之を枯死せしむるものなれば、常にその防除につとむべし。害蟲を驅除するには、煙草又は「にがき」の煎汁などあれど、最も有效なるは石油乳劑及び除蟲菊粉とす。

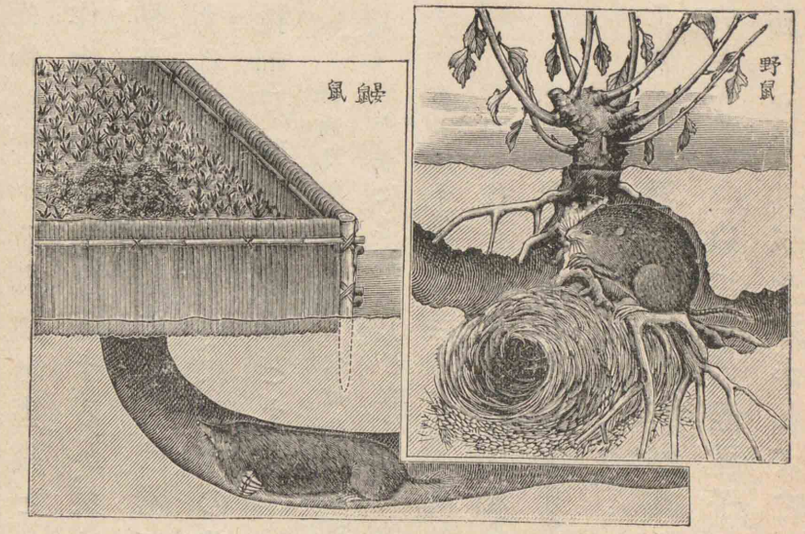
石油乳劑の製法

石油乳劑を製するには、先づ洗濯石鹼十五匁を細かくきざみ、溫湯五合中に投じて十分に溶解せしめたる後、石油一升を入れてよく攪拌し、その糊狀となりたるものに十倍乃至三四十倍の水を加ふべし。但し糊狀となりたる原液は、全く冷却したる後に水を加へざれば殺蟲の效少し。

除蟲菊粉は、過量に用ふるも作物を害することなく、石油乳劑に此の浸水劑を混用すれば其の效最も大なり。

害獣驅除

作物の害獣中、鼠は蚯蚓其の他の蟲類を捕食せんがため地中に穴を穿つを以て、その際種子を深く地中に陷沒し、或は作物の根を傷つけ、又は根を浮かして之を枯死せしむ。之を驅除するには、苗床



などにありては周圍に藁・籾殻・杉葉等を埋め、或はユールタールを注ぎ、又は捕殺器を通路に備へ置くべし。野鼠は地下に巣を營み、夜間出でて作物を食害す。其の繁殖盛なるを以て、甚だしき被害を見ることあり。之を驅除するには、野鼠チフス菌を蕎麥團子に混じ、鼠穴に入れ置くべし。野鼠は之を食してチフス病を起して斃る。而して野鼠は元來同族相食むの性あるが故に、忽ち傳染して次第に全滅するに至るものなり。

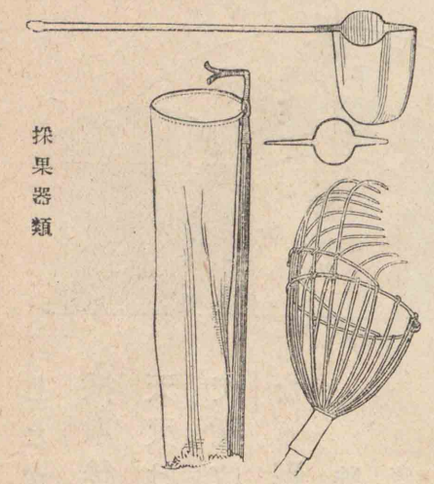
第十三章　採收及び貯藏

採收法

種實を需むる蔬菜にありては其の種實内に、又菘類の如きは其の葉中に、いづれも最も多く養分を含みたる時期に於て收穫すべし。この適期を誤まるときは、害ありて益なきものなり。特に果菜の如く成熟に隨ひ漸次に收穫するものにありては、母本を損せざるやう其の取扱に注意するを要す。

採收の注意

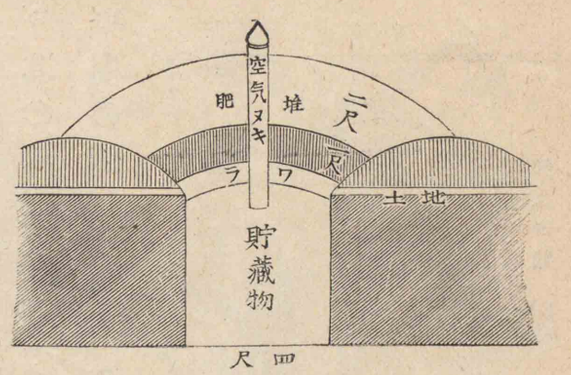
果樹の採收は、一ヶ年間の勞費に對する報酬なるを以て、果實を摘採するに當りては十分の注意をなすべく、決して搖落し、又は籠中に投入するが如きことあるべからず。而して其の採收は、果樹の種類、市場の遠近、及び用途の如何等を考へ、適當の時期を選ぶべし。かくて或は之を追熟せしめ、或は適宜選別したる後、市場に出すを良



採果器類

貯藏

貯藏窖



しとす。採取後久しく貯藏せんとする蔬菜・果實は、雨天又は多濕の日を避け、晴天無風の日を選びて採收すべし。これ濕氣の多少は貯藏上に大なる影響を及ぼすが故なり。

貯藏に適する甘藍・蕪・青・胡蘿蔔などの如き蔬菜の貯藏法は種々あれども、其の最も簡單なるは、高燥の地を選びて地下三四尺位の穴を掘り、周圍は藁稈等にて圍ひ、其の中に貯藏せんとする蔬菜を排列し、土を以て其の上を被ひ、空氣拔きを設けたるものとす。其の他軒下の北側に積み上げて、藁稈・乾草及び籾殼等を以て二三尺の厚さに圍ひおくもあれど、甚だ不完全なる方法なり。

又貯藏せんとする果實は、概して稍〻成熟期に先だちて採收するを可とす。但し種類によりては、早きに過ぐるか又は適期を過ぎたるものは久しきに耐へざるこ

冷藏庫

とあり。貯藏室は冷涼にして溫度の均一なるを要す。

近來家庭用冷藏庫なるもの追々使用せらるるに至れり。獨り蔬菜・果實のみならず、肉類・料理品等の貯藏に適し、數日間變味の憂ひなく、極めて簡便なるものなり。

第二篇　蔬菜篇

第一章　苗床及び苗

苗床の必要

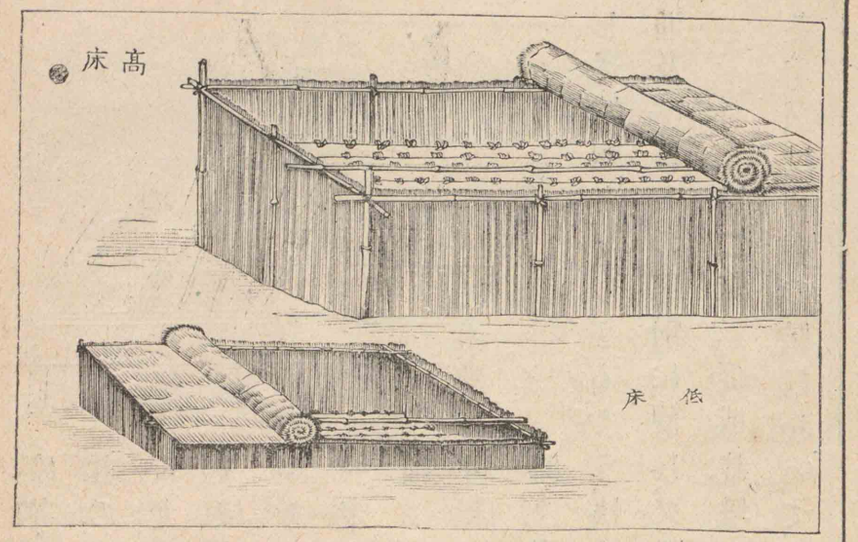
蔬菜類及び花卉類などは、概ね苗床にて苗を仕立て、のち本圃に移植するを常とす。苗床を設くるは、春なほ寒冷なる時期に早く下種する必要あるか、又は苗の軟弱にして特別の保護を加ふるの必要あるか、或は播種の適期に本圃を整へ難き場合あるが爲なり。苗床には冷床と溫床とあり。

冷床

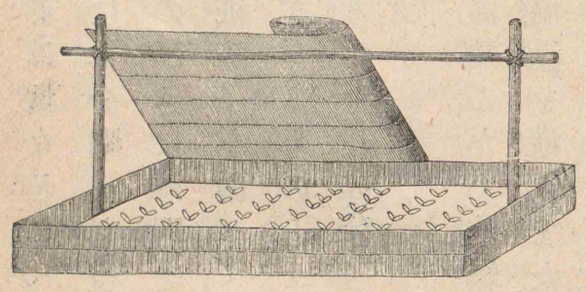
冷床は普通の苗床なり。之を設くるには、南向の地を選び、土地を丁寧に耕して肥料を施し、馬糞などを混ぜる土を篩ひかけて種子を播下し、發芽までは其の上を藁などにて覆ふべく、又その周圍は板または簀にて圍ひ、柱を立て、油紙障子又は蓆などにて被ふべし。

溫床

溫床は太陽熱を利用するの外、釀熱物を多く用ひて常に高溫を保

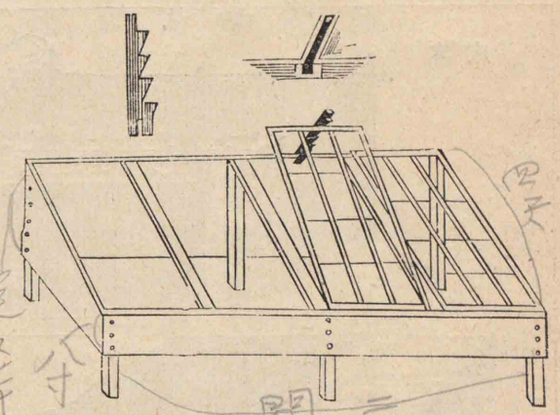


冷床



たしむる裝置にして、高設溫床と低設溫床とあり。高設溫床は從來普通に行はれたる溫床なれども、熱の發散し易き虞ある故に、低設溫床をよしとす。低設溫床とは、南北の幅五六尺、東西の長さは隨意の地を限り、一尺二寸より二尺位の深さに地を掘り下げ、底を蒲鉾形とし、粗朶を四五寸の厚さに入れて踏み固め、

洋式溫床用覆框



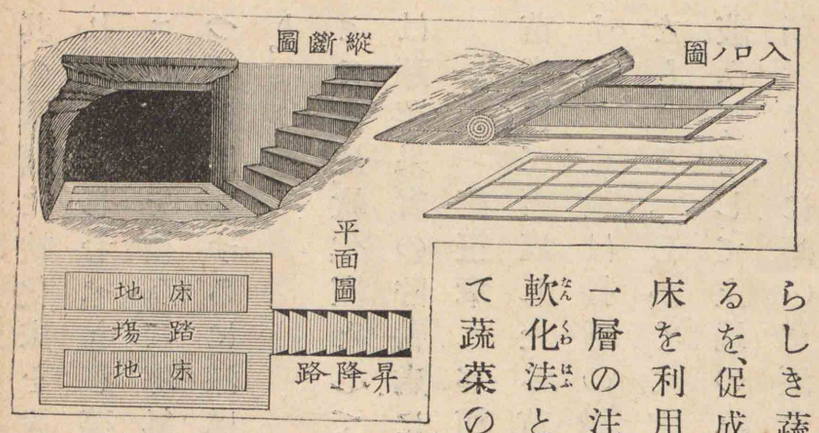
塵芥・落葉・馬糞などを八九寸の厚さに入れ、其の上に十分肥土を盛り、南面四五寸、北面八九寸の高さに外圍をなして、ガラス障子又は油紙障子を備へて、夜間の寒氣及び風雨を防ぎたるものとす。かくて床内の溫度一定するに至れば、種子を播きて薄く土を覆ふべし。

溫床は溫熱のため乾燥し易きものなれば、時々微溫湯を灌ぎ、また發芽後は、苗の徒長して軟弱とならざるやう、快晴の日を選び、上覆を除きて空氣の流通及び日光の照射に便し、又肥料を施して、苗を健全に育つべし。

第二章　促成栽培と軟化法

冬季又は初春の候において、未だ其の季節の來らざるに、早くも珍らしき蔬菜を育て、又は花を咲かしめ實を結ばしむるを、促成栽培又は早作りといふ。促成栽培は普通溫床を利用すれども、單に苗を育成する取扱よりも尙一層の注意を要するものなり。

軟化法と軟化室



軟化法とは、日光を遮りて溫熱と濕氣のみを與へ、以て蔬菜の莖葉を白色柔軟ならしむる方法をいひ、多く土當歸・野蜀葵・石刀柏・蘘荷・萵苣・葱等の如き葉菜類に行はる。これ等を完全に軟化せしめんには、特に軟化室を設くべし。

軟化室の構造は、高燥の地を選び、地下斜に六七段の階段を造りて、之より半圓形又は方形に窖を掘り擴めて人の直立して歩行するに差支なき程とし、下底に踏場を存し、

移植と其の管理

其の兩側に軟化床を設け、馬糞其の他の發熱物を堆積し、肥土を入れ、軟化せしむべき蔬菜類を密植し、入口には油紙障子・莚又はガラス障子等を被ひて寒氣と雨水の浸入とを防ぐべし。かく深き窖をつくるは、要するに、深處は溫暖にして、かつ溫度の變化少きが故なり。

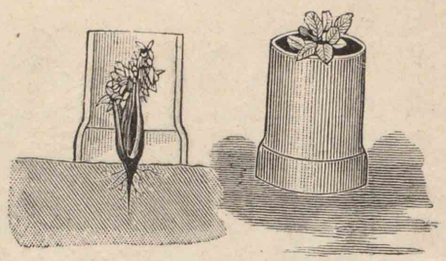
この窖は、軟化室として使用するのみならず、或は根芋の育成、または蔬菜・果實の貯蓄處に利用することを得べし。

第三章　移植及び分植

苗床にて育成したる苗は、本圃に移植して栽培するを常とす。移植すべき土地は、播種の場合に於けると同じく丁寧に鋤起して膨軟ならしむべし。かくて定植地に移植したる後、數日間は苗の周圍に蔽ひをなして上端のみ日光を透射せしめ、又乾燥に過ぐるときは、朝又は夕において灌水すべし。

分植

移植後の手當を施したる圖



分植とは、種子に因らずして蕃殖せしむる法にして、卽ち百合の如きは鱗莖を分植し、薯蕷・慈姑及び葱頭の如きは、俗に小芋と稱する球莖を分植し、馬鈴薯の如きは芽を有すること多きが故に數片に截斷して分植する等是なり。

第四章　蔬菜の間作と輪作・連作

間作とは、成長せる作物の畦間に他の作物を栽培するをいひ、輪作とは、同一の土地に性質の異なりし二種以上の作物を輪番に栽培するをいふ。また輪作に反して、年々同一の地に同一作物を栽培するを連作といふ。

間作の利益

蔬菜類の成長は甚だ不同にして、早春播種し、初冬に至りて漸く發育を遂ぐるものあり、或は播種後一二ヶ月にして早くも採收に適するものあり。されば作物の種類により適宜に間作する時は、十分に地積を利用し得るのみならず、幼作物は

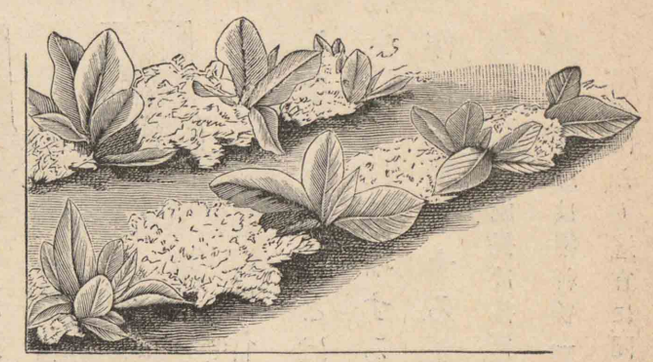
輪作の利益

成長せる作物によりて強光・烈風等の害を防ぐことを得べし。

蔬菜栽培には、通常十分に肥料を施すが故に、地力を減ずる虞なけれども、適當に輪作を行ふ時は、肥料を節約し、病蟲の害を減ずることを得べし。而して輪作には成るべく異種の作物を交互に栽培し、且深根作物と淺根作物とを交代せしむるを要す。されども連作によりて品質を佳良ならしむる甘藷の如きあり、また連作となし得べき石刁柏・葱頭・蕎・草苺・蓮根・慈姑等あり、或は五六年間連作に堪へ得るものもあり。故に輪作と連作とは、作物の種類によりて適當の方法を用ふべし。

間作

幼少の甘藍畑に萵苣を栽培せる圖

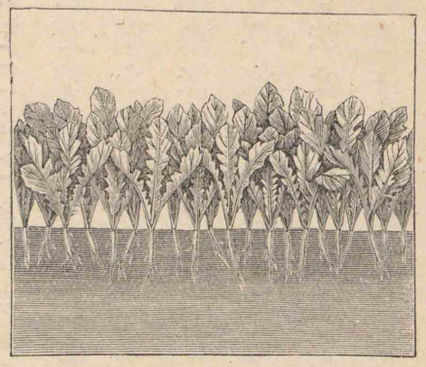


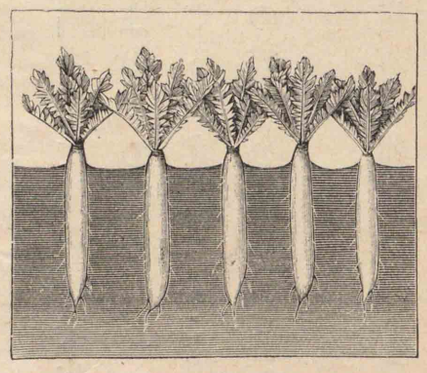
第五章　間引と中耕

苗床内又は直播したる作物に於て、苗の密生せる處を適宜引抜きて、作物に適當の間隔を保たしめ、以て日光・空氣・養分の供給を平等

間引

上圖間引を行はざるもの
下圖間引を行ひたるもの





ならしめんとする手入を間引といふ。間引は、多く小粒の種子にて密に播下せられたるものに行はる。

間引は、發芽後、苗の稍〻成長して、その良否を識別し得べきを隔てて二三回これを行ふべし、急に疎植となすは反つて害あるものなり。

中耕

作付後、條間を耕さざれば、土壤固結して根の發育を妨ぐるに至る、故に時々土壤を軟ぐる取扱をなさざるべからず、之等の手入を中耕といふ。中耕は土壤を軟げ、根元に土を寄せ、空氣・水の流通をよくするゆゑに、養分もよく分解吸收せられ、根部蔓延するのみならず、

兼ねて雜草を除き、風害を防ぐ等の效あり。

中耕は雨天又は雨後を避け、晴天の日を選びて、一生育期中數回行ひ、最初は淺くし、作物成長に隨ひて漸く深くし、其の根の次第に蔓延するに至りて復之を淺耕し、かくて最後の中耕は時期に遲れざるやう注意すべし

第六章　蔬菜の摘除

蔬菜を十分發育せしめん爲に、摘芽法・摘葉法・摘花法・摘果法・結束法等を行ふことあり。

摘芽法とは、其の芽を摘除して花芽の發生を助くることにして、茄・瓜類などに行ひ、又蔓性のものにも行ふ。一に之を摘心法ともいふ。

摘芽法　摘心法

摘葉法とは、肥地に過ぐるか或は過量に施肥したる爲に、徒に莖葉のみ繁茂したるものの冗葉を除去して、發育を果實に移動せしむる法なり。

摘葉法

摘花法とは、密生せる花の一部を摘取りて肥大なる果を求むる方法なり。又果實の過度に生ぜし場合にも、前者と同じく適宜摘取ることあり、之を摘果法といふ。

摘花法

又、白菜・甘藍などの結球十分ならざるときは、軟かき打藁等にて結束法を行ふことあり。

以上いづれの方法に於ても、其の取扱十分ならざれば、却つて作物に害を及ぼす故に、周到なる注意を拂はざるべからず。

摘果法　結束法

第七章　根菜類

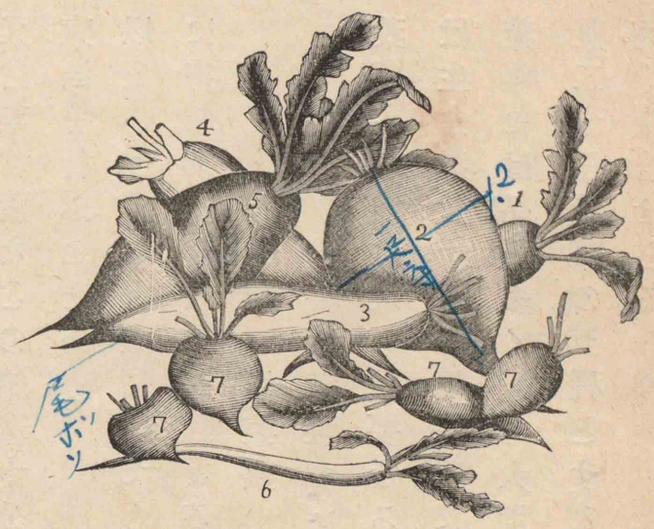
一　萊菔（だいこん）

萊菔（大根・蘿蔔）は、最も重要なる蔬菜にして、漬物となし、切干を製し、或は生食・煮食する等、用途甚だ廣し。

用途

萊菔には品種多く、之を大別して秋萊菔・二年子萊菔・夏萊菔・時無萊菔・二十日萊菔の五種とす。この中、秋萊菔は形大に、品質もよく、最も汎く栽培せらる。

品種



秋萊菔は最も普通に栽培せらるるものにて、晩夏・初秋の頃に播種して、晩秋又は初冬に採收す。練馬・宮重・方領・聖護院・守口等有名なり。○**練馬**には長と留との二種あり、共に色白く味佳良なり、長種は漬物用に適し、留種は煮食に適す。○**宮重**は秋萊菔中の早生種なり、成長すれば根の上部を地上に出して綠色を呈す、煮食・切干用に適す。○**方領**は色白く軟かなれど甘味少し、煮食・漬物用とすべし。○**聖護院**は根部楕圓形にして甘味に富みたる良品種なり。○**櫻島**は萊菔中の最大なるものなり。○**二年子萊菔**は秋季に播種して翌春採收す。秋萊菔に比し味劣れども、蔬菜に乏しき季節に採收し得るが故に需要多し。

夏萊菔は春蒔きて夏季採收するを得、品質は優等ならず。

栽培法

時無萊菔は四季共に栽培することを得れど、多くは夏萊菔の前に採收するを普通とす。細根・おたふく・龜井戸等の品種あり。

二十日萊菔は最も小形にして、隨時播種し、三四週間にして採收するを得。赤・白・紫等の品種あり。生食・酢漬・鹽漬に宜しく、また料理の點綴として用ひらる。

萊菔は品種多く、隨つてその性質を異にするが故に、栽培法にも多少の差異あり。されど概して肥沃なる深層の砂質壤土に適す。その栽培法は、先づ圃地を深く耕して基肥を施し、畦幅を二三尺に作條し、長大なる種類は一尺三四寸を隔てゝ七八粒づつ點播し、矮小なる種類は條播すべし。發芽後は、成長するに隨ひ二三回間引し、秋萊菔ならば强健なるものを一本立とし、時々中耕・追肥を行ひ、葉部增長せば土寄せをなすべし。特に莖・葉は害蟲に侵さるゝこと多きを以て、之が驅除に力むるを要す。

病害　根瘤病・ベト病あり。○根瘤病に罹りたるものは、拔き取りて燒き、圃地には生石灰を施し、爾後二三年間は同地に十字科植物を栽培せざるを可とす。○ベト

病は葉を犯す病害なり。宜しく被害の株を拔取りて燒棄すべし。

蟲害　紋白蝶・黑菜蟲・蚜蟲・夜盜蟲等あり。○紋白蝶は其の幼蟲を青菜蟲といふ。○夜盜蟲は俗に根切蟲といふ。いづれも成蟲類は網又は誘火燈にて捕殺すべく、幼蟲類は除蟲菊粉及び石油乳劑を撒布して驅除すべし。

採收　成熟の適期に達したるものは、一本づつ手にて拔取り、これを貯藏

貯藏　するには、傷なきものを選びて貯藏窖に貯ふべし。

二　蕪　菁（かぶら）

用途　蕪菁（蕪）も需用多き根菜なり。

品種　品種には早生種と晩生種との二種ありて、中にも晩生種は殊に良品なり。

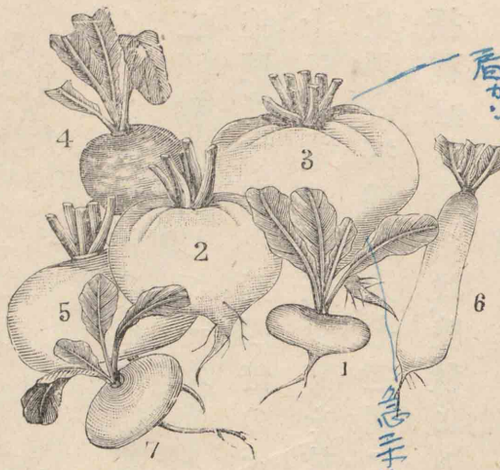
早生種　小蕪・アーリーレッドトップ（洋種等。

晩生種　天王寺蕪・近江蕪・聖護院蕪・長蕪・緋蕪・ホワイトグローブ（洋種）等。

栽培　栽培の適地及び栽培法等も殆ど萊菔と大差なし。播種は季節によりて同じからざれど、大抵早生のものは三四月頃、晩生のものは七

八月の候を適期とす。

採收　根部十分に發育して、其の葉やや枯槁したる時採收すべし。普通早生種は播種後二ヶ月頃より、晩生種は初冬より翌春に亘りて採收す。



(1)小蕪
(2)天王寺蕪
(3)聖護院蕪
(4)緋蕪
(5)近江蕪
(6)長蕪
(7)洋種蕪（アーリーレッドトップ）

三　胡蘿蔔（にんじん）

品種　在來種中の良品は、瀧の川・金時・札幌・夏胡蘿蔔（早生）等にして、洋種中にてはフレンチフォーシング（早生）・オックスハート・ダンバース等なり

氣候・土質　胡蘿蔔は氣候を選ぶこと少けれども、排水良好なる砂質壤土に最も適す。濕地に於ては、大なるものを產することあれども、品質良好

栽培

ならず。

胡蘿蔔の播種は氣候によりて多少の差あれども、寒地は早春、暖地は春又は初夏に於てするを普通とす。圃地は叮嚀に整地し、基肥を施したる後、條播又は點播して薄く土を覆ひ、其の上に切藁・籾糠等を配布して乾燥を防ぎ、發芽後は二回程間引して一本立とし、時々中耕・土寄せ及び除草を行ふべし。追肥は下肥を三四倍の水に薄めたるものを數回施すべく、尚採收十日前頃に木灰少許を施すときは、色澤を美ならしむる效あり。早生種は播種後六七週間にて採收するを得れども、五月中旬頃迄に播種せるものは、晩秋より初冬に亙りて收むべし。

害蟲は萊菔に於けるものと同じ

採收

金時胡蘿蔔

夏胡蘿蔔

四　牛蒡（ごぼう）

品種

土質

牛蒡は我が邦の原産なり。一種の風味を有し、滋養分に富む。

品種　瀧の川・砂川・大浦・梅田・堀川等あり、就中大浦牛蒡と梅田牛蒡とは最も優良なる品種なり。

牛蒡は性強健にして寒熱を嫌はず、土質も選ばざれど、砂質壤土に良品を産し、腐植土・砂土等の膨軟・輕鬆の土地にては往々根心に空洞を生ずることあり。

瀧の川牛蒡

栽培

圃地を深耕したる後、基肥を施し、豫め浸種したる種子を灰に混じ、畦上一尺二三寸毎に播種すべし。其の後の手入れは胡蘿蔔に同じ。

採收

通常春播種したるものは冬季に、秋播種したるものは翌年初夏の候に採收す。

五　甘藷（さつまいも）

甘藷は常食用に供する處あれども、普通副食物とする外、切干となし、或は澱粉・酒精等の原料となす等、用途甚だ廣し。

用途

甘藷の品種には川越・四十日・下總・三年等あり。

品種

○川越　は關東地方に多し。塊根の外皮赤色を呈し、味良好なれど、貯藏には適せず。○四十日　は早熟種にして各地に栽培せらる。塊根白色、水分を多く含み、味淡白なり、○下總　は赤・白兩種共品質中等なれど、收量多し。澱粉製造用に適す。○三年　は外觀・品質共に四十日に似たり。貯藏に適するを以てこの名あり。

一、川越
二、三年

甘藷は熱帶地方の原産なるゆゑ、高溫にして乾燥せる氣候を好み、霜を忌むこと甚だし。砂土または砂質壤土に適す。

氣候・土質

これを栽培するには、三月頃種藷を苗床に伏せ、發芽成長したる後、五月中旬頃蔓を一尺位の長さに切取りて、本圃に移植するものとす。圃地には基肥を施し、一尺位の間隔にて淺く且つ斜に苗を一本づつ挿し植ゑ、かくて稍〻新根の生じたる頃より中耕・除草をなし、又數回蔓返しを行ふべし。これ節毎に根を生じて徒に莖葉のみ繁茂するを防ぐためなり。もし尚甚だしく蔓の伸張したる時は、適宜摘心するをよしとす。

栽培

病害　根の腐敗する紋羽病あり。**蟲害**　葉卷蟲及び蠅蛾の幼蟲等あり。

病蟲害

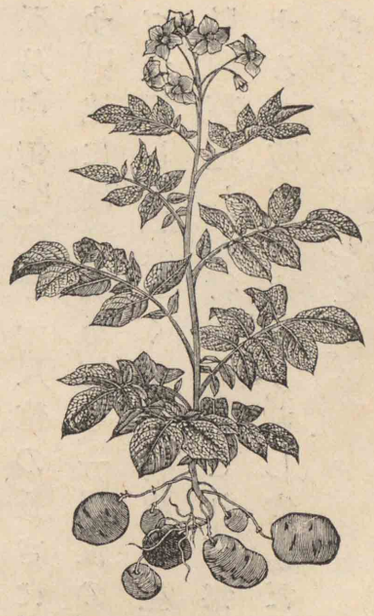
甘藷は、早きは、七八月より掘取るものあれど、通常は秋季降霜前に採收す。これを貯藏するには、無疵のものを選ぶべし。注意を怠らざれば長く貯藏することを得るものなり。

六　馬鈴薯（じやがいも）

用途　馬鈴薯（瓜哇薯）は多く副食物とし、又澱粉・酒精の原料にも用ひらる。

品種　品種　アーリーローズ　は塊根楕圓形にして、淡紅色を帶ぶ、收量多く、品質佳なり。○スノーフレーキ　は扁長圓形にして肉色白く、收量また少からず。

栽培　馬鈴薯は寒地を好み、土質は肥沃なる砂質壤土に適し、排水よき壤土・砂土これに次ぐ。



馬鈴薯は生育期間短きが故に、通常一ヶ年に二回栽培することを得べし。これを栽培するには、能く整地して畦幅を二尺許りとし、基肥を施し、約一尺の間隔にて種薯を一二箇づつ芽を上向にして植うべく、種薯は中形のものを可とす。大形のものは半切し、切り口に木灰を塗りて腐蝕を防ぎて植うべし。而して一株より數本發芽す

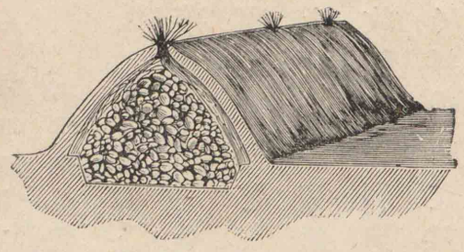
るを以て、強き芽一本を殘して他は悉く除き、之と同時に稀薄なる下肥を施し、三四回中耕・除草を行ひ、のち土寄せをなすべし。また蕾を生ずるに至れば直ちに摘花するを要す。

病害　馬鈴薯には最も恐るべき疫病あり、この病害は始め葉に淡褐色の斑點を生じ、次第に增大して全葉より塊莖に及ぼすものなり。之を防除するにはボルドー液を用ふべし。

蟲害　擬瓢蟲（てんたうむしだまし）あり、その害多きゆゑに捕殺に力むべし。

病蟲害

採收　薯の肥大するに至れば莖・葉枯死するを以て、直ちに採取すべし。三四月頃植ゑたるものは六月頃掘取り、更に第二回の栽培をなすべし。又之を貯藏するには、能く成熟したるものを選び、窖（あなぐら）その他適宜の處に貯ふべし。



馬鈴薯の貯藏法

用途　七　里芋（さといも）

里芋（青芋）は球莖軟くして美味なり。その莖は乾燥せしめて永く貯

品種

藏することを得。八ッ頭芋・唐芋・蕨芋・ずいき芋・多田芋等の品種あり。

八ッ頭芋　は莖長大にして叢生し、子芋を生ずること少し。○**唐芋**　は長崎芋ともいひ、莖八ッ頭芋に似て一層長大なり、主に親芋を食す、風味最も佳なり。○**蕨芋**　は莖圓形にて數多の子芋を生ず、久しく貯藏すべし。○**ずいき芋**　は莖長大にして子芋少し、專ら莖を食用に供す。○**多田芋**　里芋に似たる良種にして、子芋は正圓形をなして叢生す。

土質

芋類は暖地を好み、土質を忌む事なけれども、濕潤なる砂質壤土はその適地なり。圃地は麥の收穫後を利用すること多く、よく耕鋤して基肥を施し、畦幅を二三尺とし、小株の種類又は莖を採るべき種類は一尺位、大株の種類は一尺五寸乃至二尺を隔てて、四月頃種芋を植ゑ、

栽培

病蟲害

採收

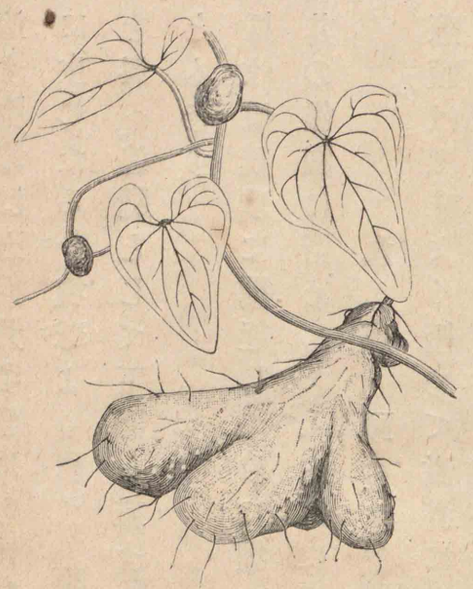
品種

栽培

發芽の後、水肥を施し、中耕・除草を行ひ、根邊に屢土寄せをなすべし。特に子芋を多く採收せんとするには蘖をとり除くことを怠るべからず。

病害　紋羽病・銹病　**蟲害**　蚜蟲・蠟蟲等なり。

早種は七月中旬より採收を始む。但し十月以後十分成熟したるものにあらざれば貯藏に堪へ難し。



八　薯　蕷（やまいも）

薯蕷は蔓生の宿根草にして、野生なるを野山藥（じねんじやう）といひ、畑に栽培するものを佛掌薯又は家山藥といふ。いづれも粘氣强く、滋養分に富み、味美なり。深厚なる砂質壤土は最も栽培に

適す、圃地は三四月頃整地して、基肥を施し、畦を三尺位に作り、葉腋に生じたる小塊球より育てたる苗を植ゑ、蔓の成長に隨つて添木を與へ、追肥として下肥を施すべし。又此の薯は根片を栽植することもあり。

病蟲害は里芋に於けると略同じ

採收は秋季に掘起して砂に埋むるか、窖に貯ふるか、又は翌春まで其の儘圃に留めおき、入用毎に採收するも可なり。

用途

九　葱頭（たまねぎ）

葱頭は風味よく、極めて滋養に富みたる重要の根菜なり。

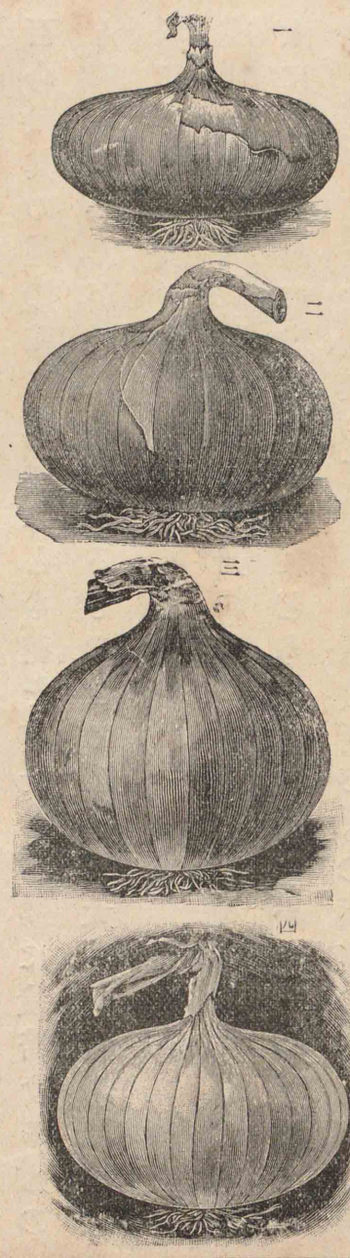
品種

葱頭には球莖の色によりて白・赤・黄等の品種あり。

我が國に適したる品種の中、主なる良種は左の如し。

ホワイト、ポルチユガル（純白色中形）普く栽培せらるゝ良種なり。○**エキストラ、アーリー、レツド**（外皮赤色中形）早熟種にして、最も寒地の栽培に適す。○**エルロー、グローブ、ダンバース**（外皮黄色大形）稍〻早熟種にして風味佳良なり。○**ラージ、レッド、ウエザースフールド**（外皮赤色大形）稍〻晩熟種、豐産にして貯藏に適す。

一エキストラ、アーリー、レツド
二、ラージ、レツド、ウエザースフイールド
三、エルロー、グローブ、ダンバース
四、ホワイト、ポルチユガル



氣候

葱頭は熱帶より溫帶に亙りて汎く栽培せられ、土質は暖地にては砂質壤土、寒地にては壤土最も之に適す。整地を能くし、基肥を施して十分に肥土となし、畦幅一尺五寸乃至二尺として播種又は移植す、寒地にては多く四月下旬の頃本圃に直播すれど、暖地にては三四月の頃又は九月頃冷床に撒播し、二三回丁寧に間引し、鱗莖の少しく大きくなりたる頃、葉部と根端とを切去りて本圃に移植す。栽培中、除草と中耕とは必要なる手入れなども、土寄せを行はずして

土質

栽培

種子は新鮮にして良質にあらざれば發育安全なら
ず。選擇極めて肝要なり

反つて根際より土を除き去るべし。また收穫期に近づくも球莖肥大せずして徒に葉の成長盛なるときは、球莖の上部を挫折すべし。

病害　露菌病・萎黃病等なり。**蟲害**　夜盜蟲・地蠶等なり。

採收　球莖肥大して其の葉黃色を呈するに至れば、之を拔採りて葉・根等を去り、二三日間乾燥せしめたる後、窖等に積み置けば、數ヶ月間貯藏するを得べし。

一〇　百合（ゆり）

用途　百合は其の種類甚だ多けれども、花を賞せんが爲に栽培するものと、鱗莖を得んが爲に栽培するものとの二種に大別す。食用種は澱粉に富み、滋養分多し。

品種　食用種の百合には卷丹と山丹（姫百合）との二品種あり。卷丹は鱗莖大にして葉腋に珠芽を生ずれども、山丹は鱗莖小にして葉腋に球芽を生ぜず、花に黃・紅の二種あり。觀賞用のものは鹿の子百合・鐵砲百合等その主なるものなり。

氣候　百合は風土を選ぶこと少けれども、一般に冷涼の地に良品を產す。

土質　土質は、排水よく、乾燥に失せざる壤土を最も可とす。

栽培　卷丹を蕃殖せしむるには、秋季、葉腋に生ぜる小球芽を採りて床地に播き、翌春發芽の後、本圃に移すべし。又鱗片を裂きて挿植し、或は根部に生ぜる小鱗莖を分植して蕃殖を計ることあり。山丹を蕃殖せしむるには、六月頃鱗莖を掘採り、其の莖・葉を切り去りて土中に假植し、數多の小鱗莖を生ぜしめ、翌年秋季本圃に移植すべし。凡そ食用百合の栽培に於ては、鱗莖の發育を助くるため、花及び莖腋の小鱗球をも除くを宜しとす。

卷丹　は畦幅二尺、株間一尺とし、一二年間は地を換へて栽培すべし。適肥は油粕及び腐熟せる堆肥等にして、移植前に施し、少しく覆土せる上に植ゑ付くべし、肥料と鱗莖とを直接に觸れしむるは不可なり。

山丹　は畦幅一尺五寸、株間四五寸を隔てゝ栽植すれば可なり。

いづれも栽植後は中耕・除草を怠らず、且春夏の交、能く腐熟せしめたる油粕を稀めて、追肥として數回施すときは、成長速かなるものなり。

摘花　食用種の百合も、其の花は艶美にして需要多きものなれば、開花するに隨ひ切りて活花に用ふるも宜し。

蟲害　鱗莖を害する鐵砲蟲、莖・葉を害する蚜蟲等なり。

採收　卷丹は普通三年目の秋より採收すべく、山丹は栽植の翌年に於て採收することを得べし。

一一　蓮　根（れんこん）

用途　蓮は水生植物にて、根・莖及び種實を食用に供す。又、花は頗る優美なるを以て觀賞せらる。

品種　在來種に紅花種と白花種とあり。紅花種の蓮根は肥大にして皮肉灰色、味佳良なり。白花種の蓮根は皮肉白色、細小にして收量多し。また清國種は淡紅色の花を開き、根は長大多肉、風味頗る佳なり。

土質　蓮は暖地を好み、寒地にては發育不良なり。有機物に富める壤土にして泥濘となれる地に適す。之を栽培するには、

栽培　早春水田を乾かして深く耕し、肥料を施し、春季根莖の芽あるもの二節を附して切り、一坪に二三本づつの割合にて斜に挿植すべし。植付後は屢除草し、追肥を施し、田水は成るべく淺くするを良しとす。而して專ら根を得んには花蕾を悉く摘み取るべく、又

摘花及び種實　花を賞し、種實を得んには、適當の期に至りて切取るべし。

病害　腐敗病は根部に發生し、土用後より葉變色して枯死す。之が防除には生石灰を深く土中に混入すべし。

病蟲

採收　蓮根を採收するには、秋季より翌春迄の間に水を涸して掘取るべし。而して、蓮は連作に適するを以て、採收の際悉皆掘取らずして、翌年の種根として一部は殘し置くを宜しとす。

用途　品種

一二　慈姑（くわゐ）

慈姑も亦水生の蔬菜にして、種々の調理に用ひらる。品種は球莖の白・青色を帶びたるもの有るのみなり。

慈姑は殆ど風土を選ばず。常に流動する灌漑水の中に栽培するを良しとすれども、もし水田に栽培せんとする時は、春季能く深耕し、基肥を施して、之に球莖を植ゑ付け、時々排水して田面を日光に曝し、また除草すべし。

採收　秋末、莖葉枯るゝに至れば採收するを得れども、翌春發芽前までその儘となし、隨時採收するも可なり。慈姑は蓮の如く連作することを得る故に、時としては、そのまま殘存して翌年の種球となすことあり。又之を貯藏するには、單に清水に浸し置くを宜しとす。

貯藏

第八章　葉菜類

一　菘類（なるな）

用途　菘類は重要なる葉菜にして、煮食・漬物其の他用途頗る多し。

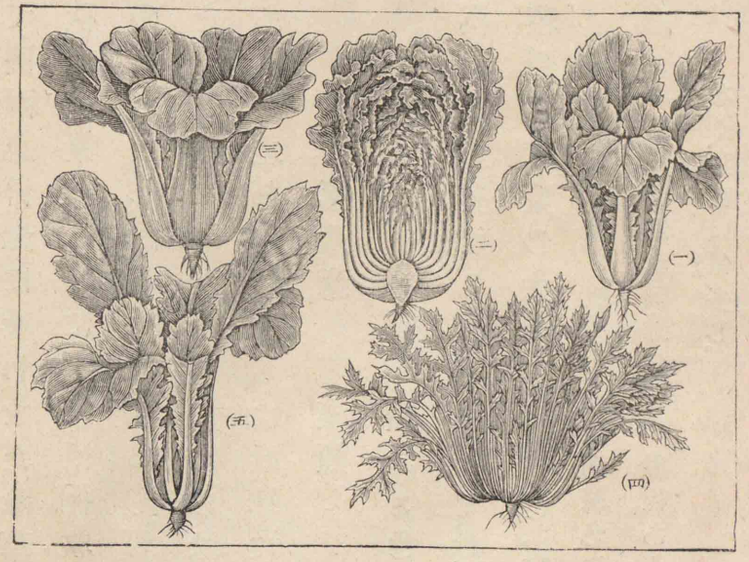
品種　菘類は莖・葉の大小・形狀などによりて多くの品種に別つ。

山東菜　莖は直立し、葉は淡綠色にして其の質軟く、漬物となすに適す。

白菜　朝鮮・清國・縮緬等の數種あり。莖短濶にして色白く、葉も亦淡白にして缺刻なく、葉面に皺多し。

體菜　莖は濶大・多肉にて、其の葉恰も匙狀を爲す、故にシャクシ菜とも稱す。

一、山東菜　二、白菜　三、體菜　四、京菜　五、三河島菜



京菜　水菜また千本菜とも稱す。莖は細長く、數多の葉を發生し、巨大なる株となる性あり。

小松菜　莖身細小にして、葉は淡綠色を呈す。春播くを鶯菜といひ、冬採るを冬菜といふ。

三河島菜　莖細長く、葉頗る大きく、淡綠色なり。鹽漬用として味美なり。

芥菜　一種の辛味を有し、多く冬季の用に供す。これに數種あり。

高菜(大芥菜)　莖葉頗る大きく、辛味ありて味美なり。性强健なるを以て能く寒氣に堪ふ。

氣候　菘類は溫暖なる氣候を好み、少しく濕潤なる肥沃の砂質壤土に適す。

土質　整地は根莖類の如く深耕するを要せざれど、表土を極めて細かに碎くを肝要とす、種類によりては床地に播種して、後、本圃に移植するものもあれど、普通は本圃に直播するもの多し。

播種　山東菜・白菜等は八月下旬より九月上旬、三河島菜・芥菜等は九月中、小松菜は九月頃より十一月頃までに播種す(小松菜は春播することもあり)また京菜を除く外は本圃に直播するを通常とす。

栽培　圃地は、畦間を二尺五六寸に作條して基肥を施し、直播したるものは發生後數回間引して、遂に株間六七寸より一尺位とし、葉球を結ぶものは一尺五六寸を隔たしめ、かつ結束法を行ふべし。又いづれも成長の時期を見て水肥を施すを宜しとす。

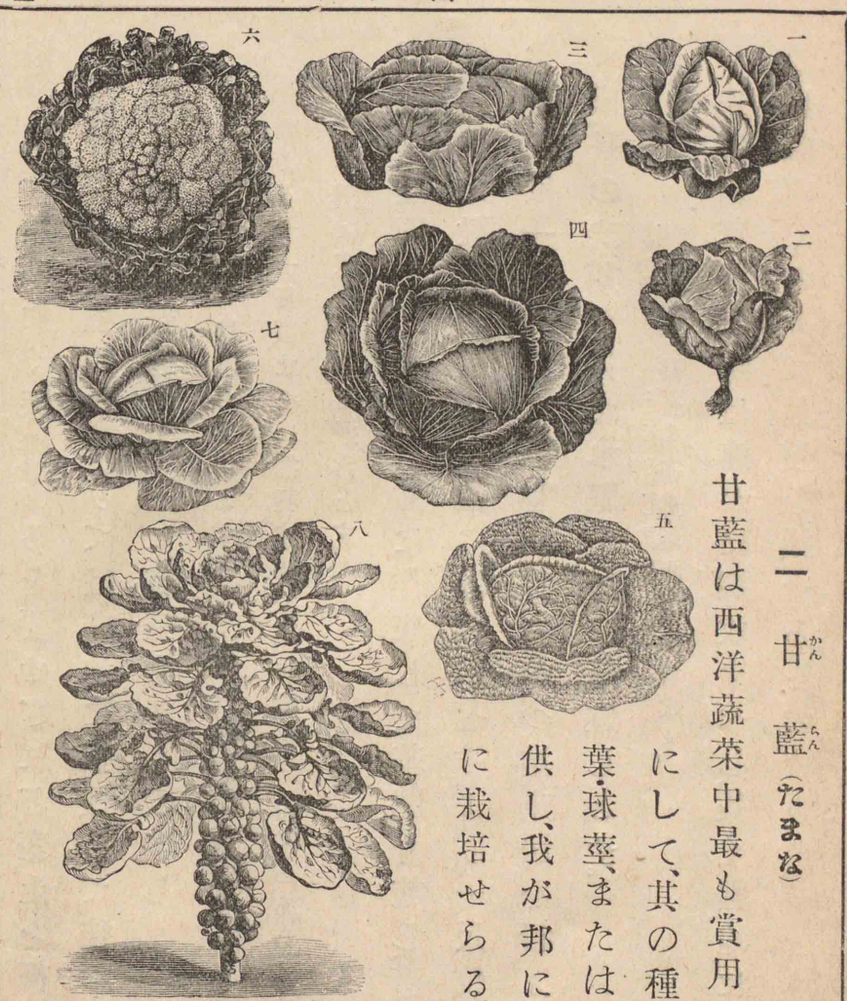
蟲害　螟蛉・紋白蝶・金龜子蟲・地蚤・蚜蟲等なり。

採收　十分生育したる時は速かに採收すべし、長く圃地に置くときは、其の纖維硬くなりて品質を損するものなり。

用途

品種

甘藍の圖
一　ゼルシー、ウエイクフイールド
二　ウインガスタニ
三　フレートット、ダッフラット、
四　チホーラン
五　サボイ
六　花椰菜
七　ヘソンダー
八　マリーサアンー
子持甘藍



二　甘藍（たまな）

甘藍は西洋蔬菜中最も賞用せらるるものにして、其の種類によりて、球葉・球莖、または球花を食用に供し、我が邦にても近來各地に栽培せらる。甘藍には球葉甘藍・子持甘藍・花椰菜などの變種あり。中にも球葉甘藍は需用最も多し。

球葉甘藍　品種頗る多く、圖(1)は小形の早熟種なり、極めて強健にして品質能く、結球し易し。○圖(2)は中形晩熟にして、貯藏に堪ふ。○圖(3)は大形の中生種にして普通の栽培に最も適し、且貯藏に堪ふ。○圖(4)は中形晩生種にして能く乾燥・降霜に堪へ、最も良種なり。○圖(5)は小形の縮葉種なり、柔軟にして佳香あり、稍〻結球し難し、されど寒氣に堪へ得る良種なり。圖(7)は中形早生種にして生育盛なり。

花椰菜　は莖の上部に密生する花蕾を採收して、煮または生食に供す、柔軟にして香氣を帶び、風味頗る佳なり。

子持甘藍　は葉腋に生ずる數多の小葉球を食用に供す、柔軟にして味佳なり。

氣候

甘藍は寒・暑何れの地に於ても栽培し得れど、稍〻寒冷なる氣候に適す。

土質

土質は埴質壤土最も適良にして、輕鬆の土壤にては成長盛なるも結球せざること多し。

栽培

種子は床地に播下し、苗を仕立てゝ移植するを普通とすれども、晩生種などは圃地に直播することあり。播種の季節は、早生種は三四月、晩生種は五月頃を宜しとすれど、夏より冬まで絶えず採收せん

とするには、二月より五月迄の間、順次に下種すべし。發芽後二三葉を生ぜし頃より、約一週日毎に二三回他の床地に假植し、のち整地したる本圃に定植すべし。

本圃は深く耕して、基肥を施し、畦間を三尺位にして、約二尺の株間を隔てゝ植ゑ、のち除草・中耕を行ひ、二回ほど水肥を施すべし、夏季に至り餘りに乾燥するときは水を灌ぐを良しとす。

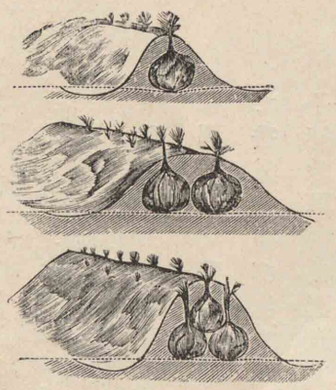
病害　腐敗病・白銹病・根瘤病等あり。

蟲害　青菜蟲・夜盜蟲など、ほぼ菜蔬に於けるものに同じ。

病蟲害

採收

貯藏



甘藍貯藏の圖

球莖甘藍は、結球するに隨つて直ちに採收すべし。結球後永く放置するときは、球は破れて品質を損すべし。また晩熟種を冬期まで貯ふるには、乾燥せる土地に溝を掘り、其の中に倒に竝列し、土を覆ひ置くべし。

三四月播種したるものは六七月に採收し、五月頃播種したるものは初冬に採收す。○子持甘藍は一二回降霜を受けたるものは風味最も佳なり。○花椰菜は、花蕾の球狀をなすに至れば速かに採收するを宜しとす。

三　葱（ねぎ）

用途

葱は重要蔬菜の一にして、莖の綠葉部・軟白部は共に食用に供す。

栽培

主なる品種は、千住葱・下仁田葱・岩槻葱・九條葱等なり。

品種

葱は氣候・土質を選ぶこと少けれども、最も砂質壤土に良品を產す。

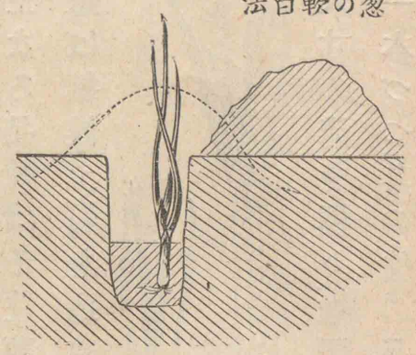
一、普通の葱
二、軟白せしめたる葱

葱苗は豫め深耕し、約三尺の距離に深さ七八寸の溝を掘り、堆肥・草木灰等を施し、土を覆ひたる後、下仁田葱は一本づつ、其の他の品種は二三本づつ數寸を隔てて植うるものと

病蟲害　葱の軟白法

採收

葱の軟白法



す。根深葱を收むるには、成長するに隨ひ根株の周圍に土を盛り、次第に莖を埋めて軟白せしむべし。

病害　露菌病・赤銹病等あり。いづれもボルドー液撒布は防除の效あるものなり。

蟲害　夜盜蟲・蚜蟲・かめむし等あり。

葱は冬季に採收するを普通とすれども、夏葱とて夏季に採收するものもあり。いづれも肥大せるものより逐次掘取るべし。

用途

品種

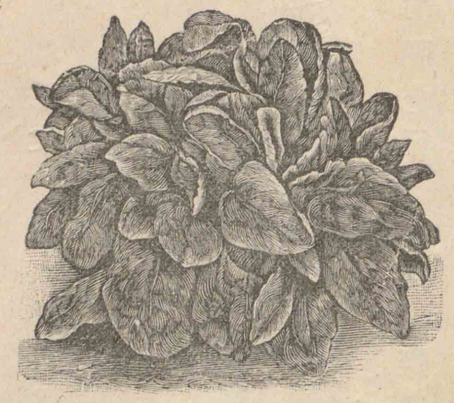
四　菠薐草（ほうれんさう）

菠薐草は莖・葉柔く香味あり、品のよき蔬菜なり。本邦在來種は、莖・葉小にして薄く、風味も遙に洋種に劣れども、春の蔬菜用として頗る珍重せらる。

採收

雌雄異株の植物にして其の種子には刺あり菱形を呈するものと圓形のものとあり

菠薐草のピクトリア種



洋種中には佳良なるもの多し。○**ビクトリア種**　は葉濶くして厚く、且花梗を生ぜず。○**プリックリー、シーデッド種**　は葉厚く性強健にして、よく寒氣に堪ふ。

菠薐草は溫暖の季節を好むを以て、各地共その季節を選び栽培すべし。土壤は乾濕過度ならざる限りは何れの地にても可なり。これを栽培するには、土地を整へ、基肥を施し、畦間を二尺位に劃りて播種し、發芽の後密生の部を間引し、又二三回水肥を與ふべし、播種期は通常春秋二季なれど、之を加減すれば、年中絶間なく採收するを得。但し霜の來る頃に至れば薄く藁等を被ひて防寒の用意をなすをよしとす。

播種後六七週間にして採收に適す、また冬期畑に殘し置くも害なし。

用途

五　野蜀葵（みつば）

野蜀葵は莖・葉に能き香味あり、春期多く用ひらる。

栽培

栽培法によりて多少異なるものを生ずれど、異品種と稱する程のものなし。圃地は有機物に富める陰地にして、適濕なる壤土を耕して、約二尺の距離に作條を設け、或は麥作間に堆肥を施し、薄く覆土せる上に一條播し、成長するに隨つて除草・中耕・追肥を行ひ、また株際に漸次土を盛りて莖部を軟白せしむべし。但し秋季軟化室に移植するも可なり。播種は普通五六月頃に行へども、秋季に行ふも宜しとす。

採收

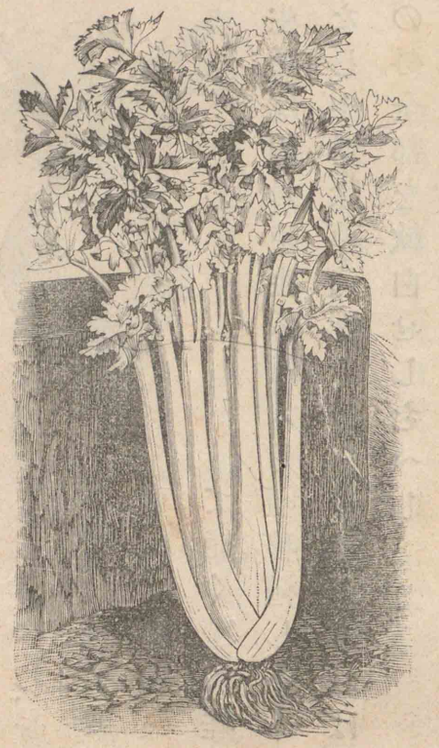
野蜀葵は一度之を適地に栽培するときは、自然に蕃殖して數年間引續き採收することを得るものなり。

品種

六　塘蒿（おらんだみつば）

塘蒿は香氣至つて高く、莖・葉肥大にして柔かく、洋菜中の上品なるものにて、需用多し。

品種頗る多く、これを早生・晩生に大別す。



パリゴールデン

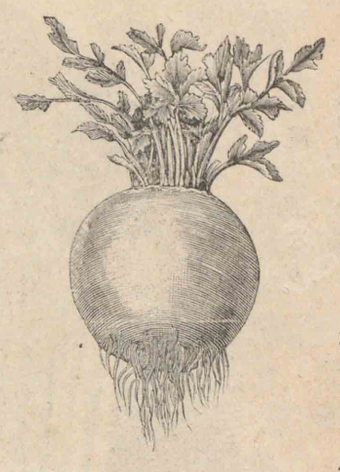
パリゴールデン　早生種にして最も軟化し易く、莖の長さ約八寸に達す、風味極めて佳良なり。

ホワイトプリューム　最も普通に栽培せらるゝ品種にして、軟化し易き早生種なり。

ジャイアントパスカル　莖長大、柔軟にして貯藏に堪へ、香味佳良なる晩生種なり。

球根塘蒿（セルリアック）　球根の大さ直徑二寸に達するものあり、風味塘蒿に似て、生食・煮食共

に適す、栽培法も塘蒿と同様なれど、ただ土をかくるに及ばざるのみ。



球根蒿

性強健にして寒暑に堪へ、本邦到る處栽培し得べし、早春苗床に播種して、苗の二三葉に成長せる頃より一二回假植の後、更に深き砂質壤土の圃地に基肥を施して能く整へ、畦間を二尺五寸位として、早生種は四月、晩生種は六月頃移植し、かくて成長期中は適宜灌漑を

採收

なし、中耕・除草・追肥を行ひ、漸く長ずれば屢土を盛りて、葉尖を除くの外全部を軟白せしむべし。

用途

塘蒿は莖の凋萎するを忌むものなれば、採收後直ちに根を切去り、水中又は濕へる砂中に挿入し置くべし。

七　茼蒿（しゅんぎく）

茼蒿は一種の香味を有し、種々に調理して食用に供せらる。

品種

茼蒿には二品種あり。一は普通種にして、莖・葉小なれども佳香あり。一は大茼蒿（朝鮮種）とて、莖・葉長大、收量多けれども、香味劣れり。

風土

茼蒿は風土を選ばず、本邦到る處に栽培せらる。圃地は豫め能く耕

栽培

し、基肥を施し、約二尺の隔たりに作條を設けて條播するか、又は三尺位の幅に畦を設けて一面に撒播すべし。發生後は除草・追肥を行ひ、條播の場合には中耕・土寄せを行ふべし。

採收

播種の季節は、通常春・秋の二季なれど、冬季を除く外は何時にても播種し得べく、發生より五六週間にして採收するを得べし。

八　土當歸（どうき）

用途

土當歸は初春の頃嫩莖を賞食す。香味佳良なり。

風土

土當歸は寒氣にめげず能く生育し、適地は有機物に富める深き壤土にて稍濕氣多き地を好み、施肥は量の多きを厭はず。之を蕃殖せ

蕃殖

しむるに播種・根分・挿伏の三法あり。播種は一尺おきに畦を設けて、

土當歸の嫩莖

種子を播下し、翌年に至り之を幅二尺位の畦に一尺位づつ隔てゝ移植し、其の年の秋か又は三年目の早春に至り、本圃に一尺五寸位の畦にて植うべし。

採收

根分は株を掘り起し、この根を分けて植ゑつくる方法なり。また挿伏は特に寒土當歸にのみ用うべき方法にて、十月頃に莖を根元より切取り、圃に挿植して發根せしむるなり。

用途

嫩莖の成長し初むる頃に至れば、次第に塵芥及び堆肥を混じたる土を覆ひて軟白せしむべし。かくするときは、數年間引續き嫩莖を採收することを得るものなり。

土質

九　石刀柏（アスパラカス）

石刀柏は嫩芽柔かにして香味あり、煮または瀹きて賞食す。此の蔬菜は、寒暑を厭はず、何れの土地にもよく生育すれども、特に

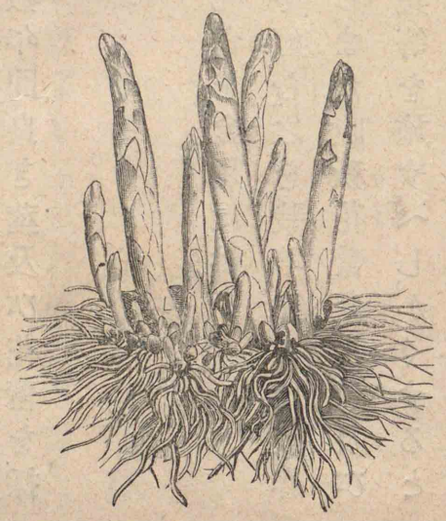
栽培

砂質壤土に適す。栽培法は早春苗床に下種し、秋に至れば他の床に移し、翌春更に本圃に植うべし。本圃は基肥を施し、畦間四尺、株間を三四尺に隔て、其の後は中耕・除草・追肥して、三年後に始めて採收するを得。嫩芽の採收後、殘れる株に更に肥培し、かつ中耕を怠らざる時は、數年間引續き佳良なるものを採收し得べし。されど株の老衰して嫩芽細小となりたる時は、掘取りて分株するを宜しとす。

品種は異なりたるもの少し

採收

春季發芽前に肥土の類を次第に覆ひかけ、嫩芽の軟白を助くれば、更に良品を採收し得。採收は小刀を深く地中に挿入して切取り、他の莖・芽等を傷つけざるやう注意すべし。



一〇　蕗（ふき）

用途
品種

蕗（款冬）はその莖を煮食す。また花蕾は一種の苦味と芳香とを有するを以て賞食せらる。品種は莖の色によりて白蕗・赤蕗あり。白蕗は莖肥大にして風味宜しく、赤蕗は細小なれど萌芽多く、蕗薹を生ず。

風土
栽培

蕗は稍寒地を好み、暖地にては蔭地を選ぶべし。多濕の壤土はその適地なり。圃地は基肥を施して整地し、五六月頃その萌芽を有する根を分株して植うべし。かくて晩秋及び早春に堆肥・塵芥を施し、又

採收

翌年より發芽前毎に液肥を施す時は、數年間良き莖及び花蕾を採收し得るものなり。

一一　蘘荷（めうが）

用途
栽培

蘘荷は一種の佳香あり。その嫩莖及び花蕾を食用に供す。性寒氣を厭はず、有機物に富める蔭地を好む。之を栽培するには春季根株を分植し、のち一二回下肥を施し、また晩秋花蕾發生前及び早春嫩莖發生前に堆肥・籾殼または落葉等を施すべし。かくすると

採收

きは、數年間は年々採收し得るなり。

石刁柏・蕗・蘘荷等は、いづれも四五年目よりは次第に根株すゑ茂して莖・芽細小となるを以て、古根を掘取りて、殘餘の根より新株を發生せしむるか、又は他の圃地に植ゑ換ふる等、常に栽培に注意するを要す。

一二　紫蘇（しそ）

用途
品種
栽培

紫蘇は芳香佳味なるが故に、葉及び花穗を鹽藏して食用とし、或は著色料となし、或は點綴となす等、用途甚だ多し。品種には赤紫蘇と青紫蘇とあり。

紫蘇は風土を選ばざるものにて、四五月頃圃地を耕し、約二尺の距離に畦を設けて堆肥を施し、種子を條播すべし。發生後は間引して株間を二三寸とし、中耕・除草を行ひ、成長に隨ひて土寄せをなし、又液肥を施すべし。

芽紫蘇と稱するは、冬季または早春苗床に播種して本葉一二枚を生ぜる頃採收す、香氣高し。

採收　葉を要するときは隨時摘取り、花穗を要するときは成熟に先だちて拔取るを宜しとす。

第九章　果菜類

一　胡瓜（きうり）

用途　胡瓜は、果菜中需用多きものの一にして、汎く各地に栽培せらる。

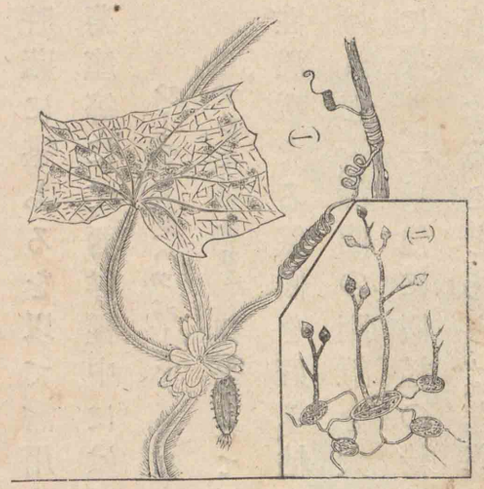
品種　胡瓜は雌雄異花にして、葉腋に花を著く。その毎葉腋に花を著くるものと、然らざるものとあり。前者を節成胡瓜といふ。後者は普通の品種なり。

風土　性強健にして風土を選ぶこと少けれども、溫暖なる氣候を好み、肥沃の壤土を適地とす。早春溫床に下種して苗を仕立つるを常とすれども、本圃に直播するもあり。本圃は丁寧に耕鋤して基肥を施し、畦幅を約二尺五寸とし、一尺五寸位を隔てゝ栽植すべし。成長中水分を要すること多きものなれば、旱魃の際には株際に藁の類を敷き、かつ時々灌水し、蔓には支柱を與へ、中耕・除草をなし、又水肥を施すべし。而して節成種を除く外は摘心を行ふを要す。

栽培　**促成栽培**　には節成種を用ひ、冬春の交、溫床内に下種し、發芽後數次適當の距離を保ちて移植し、開花を待ち人工媒助を行ふべし、かくて培養に注意する時は六七十日にして採收するを得。

病害　苗の立枯病・白黴病・ベト病。是等は凡ての瓜類に發生する病害にして、ベト病は露菌病ともいふ。之を驅除するには、被害部を摘採して燒き、尙ボルドー液を撒布すべし。

蟲害　蚜蟲・瓜守。瓜守も亦總べての瓜類に發生し、成蟲は葉を食害し、根際に產卵し、幼蟲となりて根際の莖より根部に喰入りて遂に瓜を枯死せしむるに至る。成蟲は朝夕捕蟲網にて捕殺し、幼蟲は除蟲菊液・石油乳劑を注射すべし。



胡瓜のベト病
一、狀、殺害の
二、氣孔より菌の抽出せし狀

病蟲害

採収

採収は、採種用の外は過熟せしめざる中に順次切取るべし。

二　南瓜（かぼちゃ）

用途
品種（南瓜はなりなすともいふ）

南瓜は他の瓜類と同じく蔓生にして、果は大きく、甘味を有し、長く貯藏に堪ふるを以て、需用多し。在來種中主なる品種は、縮緬・鹿ヶ谷・菊座等にて、西洋種中には巨大なるものあり。

ワーテッド、ハッバード　洋種中の良種にして、成熟せるものは味殆ど栗の如し。

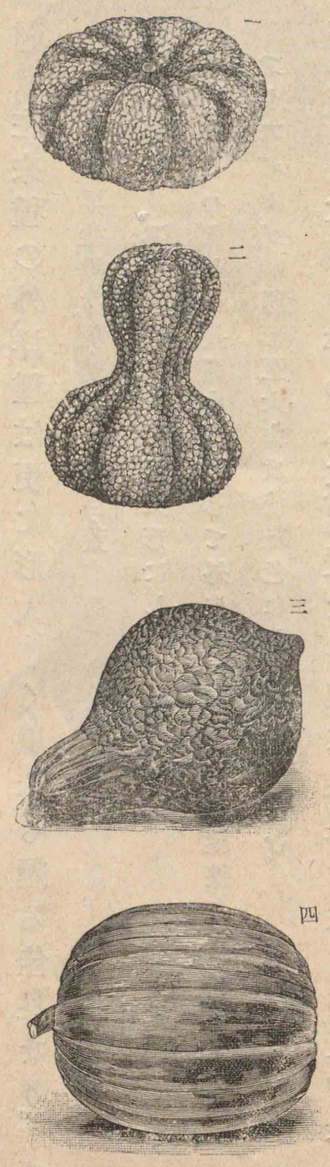
マンモスチリ　卵形にして巨大なり。果肉緻密にして頗る甘味に富む。

風土
栽培

性溫暖なる氣候を好み、粘質の壤土に適す。栽培法は胡瓜と大差なけれども、株間の距離を大ならしむるを要す。種子は三月下旬溫床に播き、一旦他に假植の後、兼ねて整地したる本圃に移すべし。若し直播することあらば、莖蔓徒長し、結果多からず。本圃は、基肥を施し、種類に隨つて栽植の距離を三四尺より七八尺までとし、五月頃に移植すべし。また地積の廣き處にては、支柱を施すことなく、地面を

一　縮緬
二　鹿ヶ谷
三　ワーテッド、ハッバード
四　ピッグゲトム

匍匐せしむるもの多し。



成るべく一株に二三個の成果にとどめ、他は摘花するを宜しとす。かくて數回追肥を施し、また開花中霖雨に遇ひて花粉の交雜不十分なる時は、人工媒助を行ふべし。

採収

花落ちより五六週間を經て果面に白粉を帶び、果柄の固くなるを待ちて之を採収すべく、その貯藏するものは十分成熟せしむべし。

貯藏

三　冬瓜（とうぐわ）

用途

冬瓜は果頗る大にして煮食に適す。淡綠種と橙赤種とあり、前者は

品種　外觀西瓜に似、形に扁圓と長圓とあり。

栽培　風土及び栽培法は南瓜に同じ。但し冬瓜は二三月頃苗床に播種し、苗の三四葉を生ぜる頃本圃に移植するを常とす。

採收　採收は、淡綠種にありては外面に白粉を被る頃、其の他は果柄固くなりたりときを宜しとす。

四　西瓜（すゐくわ）

用途　西瓜は其の果多漿にして甘味に富み、夏季の生食用に適す。

品種　品種は、在來種の外、洋種は更に形大きく風味も頗る佳良なり。

在來種に早生黑・赤種・晩生黑種・白・黃肉西瓜等あり。

クレックレー、スウキート　長楕圓大形にして、甘味多し。

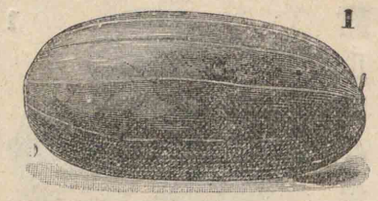
スウキート、ハート　長圓中形にして外皮に網狀濃綠の縱線あり、良種なり。

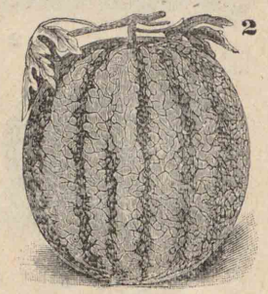
アイスバーグ　圓形巨大、肉は淡紅色にして甘味に富む。

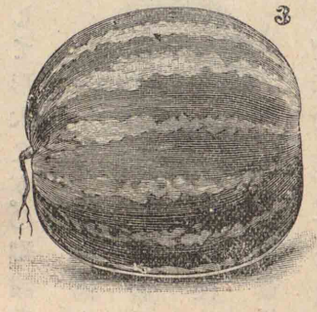
西瓜は性霜に弱きがゆゑに、溫暖なる地に良果を產す。されば排水

土質　(1)クレックレー、スウキート　(2)スウキート、ハート　(3)アイスバーグ

栽培


1


2


3

よき溫暖なる砂質壤土は其の適地なり。春期よく圃地を耕し、肥料を與へ、畦間を六尺位として丘畦を作り、豫め發芽せしめたる種子を株間四尺の距離に五六粒づゝ植ゑ付け、後一本立となすべし。

種子は容易に發芽せざるものなれば、袋に入れて一晝夜浸水し、更に一二晝夜間釀熱堆肥中（攝氏二三十度）に入れて發芽を促すべし。

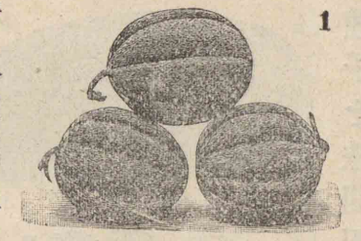
苗は摘心を行ひて腋芽二個を助長せしめ、成長に應じて中耕し、追肥を施し、圃地には藁を布きて濕氣を保ち、かつ果の汚染を防ぐべし。

採収　採収の適期は、果の元に生ぜる卷鬚の枯れて果を打てば濁音を發する頃にして、花落ちより後約六週間なり。

五　甜瓜（まくはうり）

用途　甜瓜は甘味芳香多漿なり。夏季の果菜にして、盛に生食す。

品種　品種は在來種に鳴子甜瓜・銀甜瓜・梨甜瓜などあり。洋種には良種多く、主に溫室内に培養せらる。



1

2

3

鳴子　中生種にして肉厚く、甘味多漿豐產なり。○銀甜瓜　稍ゝ晩生種にして形大なり。○梨甜瓜　梨に似たる味あり、外皮黄白、肉白し。○アイランド・ビューティー　形扁平早熟にして甘味芳香ある良種なり。○ポールローズ　圓形、外皮黄綠、肉橙色、極めて香味好し。

氣候土質　甜瓜は高溫にして乾燥なる氣候の地にあらざれば良品を產せず、

栽培　適土は砂土または砂質壤土なり。二三月頃苗床に播種するを常とす。（四五月頃本圃に直播するもあり）苗三葉を生ずるに至れば、二葉を存して摘心し、五月中旬移植すべし。本圃は西瓜に於けるが如く整地し、畦間約四尺、株間三尺とし、成長後は間引て一本立とし、二枝各五六葉を生ずれば第二回の摘心を行ふべく、其の他中耕・追肥・敷藁等は西瓜の如く行ふものとす。

採収　落花後約五週間頃、蔓元より果の離るるを度として採收すべし。

六　扁蒲（ゆふがほ）

用途　扁蒲は果大にして重さ四五貫に達するものあり。主に煮食し、また干瓢を製するに用ひらる。

品種　品種は長形と圓形とあり。

栽培　溫暖にして粘質壤土はその適地なり。四五月頃本圃に直播するを普通とす。本圃の整地は西瓜に同じく丘畦として一坪に一本の割合に植うべし。また甜瓜の如く第一回・第二回の摘心を行ひ、一株に

採收　二三果を殘して他は摘去するを宜しとす。成長中の手入れは西瓜に準ず。又棚を作りて攀緣せしむるも宜し。

採收は、干瓢を製する爲には、通常打ちて濁音を發する頃を宜しとす。

七　茄（なす）

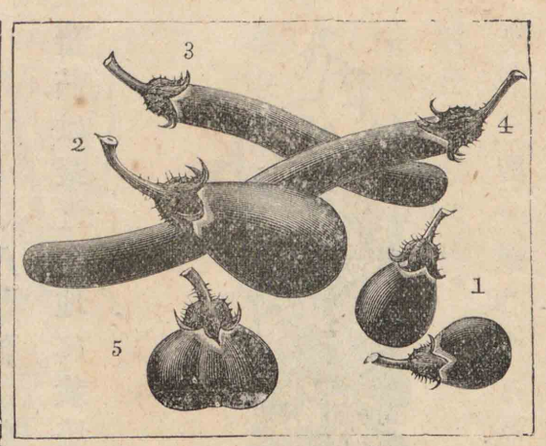
用途　茄は重要なる蔬菜にして、煮食・鹽漬等に供せられ、需用極めて廣し

品種　茄は、果形の大小・色澤等によりて數多の品種に區別す。

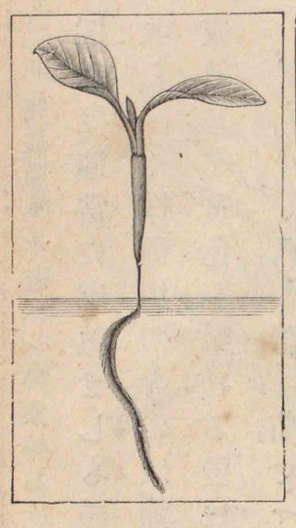
早生千成茄　果實は長卵形にして濃紫色を呈し、形小なれども早熟・豐產なり。○**山茄**　果形圓くして稍〻長く、性强健にして甚だ豐產なり。○**巾着茄**（きんちやく）　早熟にして全體矮小なり。○**鶴首長茄**　果形鶴の首に似たるを以て此の名あり、肉柔軟味佳良なり。○**清國大長茄**　果形細長中熟にして種子極めて少し。○**清國大圓茄**　晚熟にして徑四五寸に達す。

氣候土質　茄は暖地を好むものなれど、成長期短きが故に到る處栽培するこ

栽培



病蟲害　茄の立枯病



とを得べく、土質は肥沃なる砂質壤土に良果を產す。栽培は早春溫床にて苗を仕立て、五六葉を生じたる頃本圃に移植す。本圃は豫め十分に耕して基肥を施し、凡そ二尺五寸の畦幅に株間二尺位を隔てゝ植付け、後二三回補肥を施し、（補肥は茄の栽培に最も必要なり。）又其の根元に切藁を撒布し、旱天には灌水すべし。茄は連作を忌むものなれば、年々地を換ふべく、數年を經ざれば同一地に栽培すべからず。

病害　茄の病害中恐るべきものは立枯病・青枯病等なり。

蟲害　には葉或は根を害する僞瓢蟲・蚜蟲・

夜盜蟲サルハムシ・椿象等あり。

採收

採收は、適當に成熟せしものを、なるべく朝露の未だ乾かざる間に收むべく、採種用のものは、通常二番成の形正しきものを選び、十分成熟して黃色を呈せる後に採收すべし。

用途

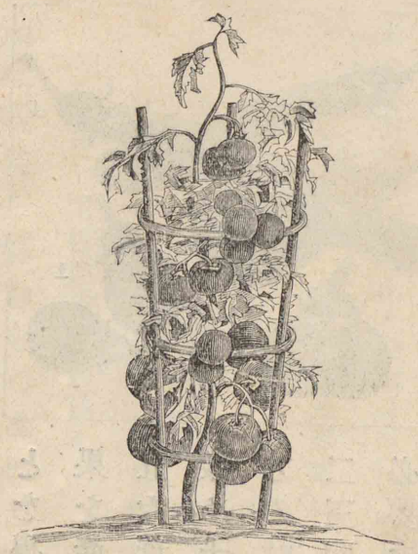
品種

栽培

八　蕃茄（トマトー）

蕃茄は最近各地に栽培せらる。生食し、又酢・鹽漬とす。

品種甚だ多けれども、普通種・梨形種・大形種に大別すべし。



風土は茄に同じく、栽培容易なり。三四月頃苗床に播種し、三四寸に長ぜる頃一回假植し、五月頃本圃に移植す。本圃は堆肥等を基肥とし、畦間・株間共約三尺五寸とし、成長に隨ひて

支柱を與へ、摘心するか又は適宜枝葉を摘去して、全體に日光を透射せしむべし。

採收

採收は七八月頃十分成熟したるものよりすべし。

用途

品種

九　蕃椒（たうがらし）

蕃椒の果實の成熟したるものは、赤くして甚だ美なり。品種には八ッ房・日光・鷹の爪等あり。洋種にルビーキング、チェリー等あり。

八ッ房の圖

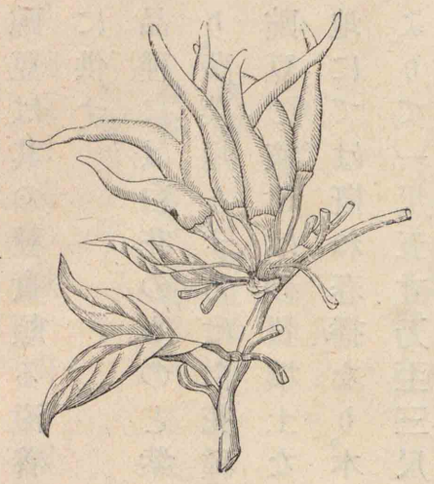
金色蕃椒・赤蕃椒等は賞觀用として鉢植に栽培せらる。後者は莖も亦赤し。

風土

性寒氣を忌み、砂質壤土に適す。早春溫床に下種し、成長するに及びて他の溫床に假植し、五月頃本圃に移植するものとす。

栽培

整地・肥料・手入等は茄に同じ。



一〇　豌　豆（ゑんどう）

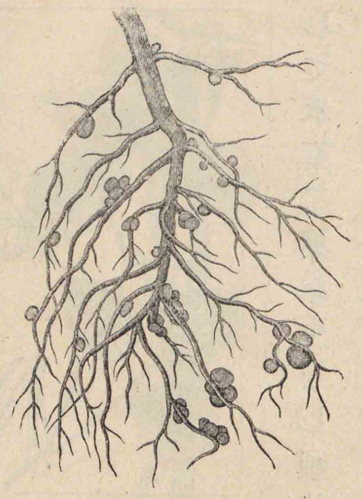
用途　豌豆は其の種實頗る滋養に富めり。また其の莖・葉は飼料及び肥料に供す。

品種　品種には白花のものと紫色のものとあり。又矮生種と蔓生種とあり。蔬菜用とするは白花種（莢豌豆）なり。洋種には佛國大莢種あり。

土質氣候　豌豆の適地は砂質壤土なり。播種は暖地にては普通秋播なれど、寒地にては概ね春播なり。

栽培　本圃は耕起して基肥を施し、畦間は種類によりて一尺五寸乃至三尺とし、畦上に二三粒宛下種し、厚く土を覆ふべし。但し秋播のものは降霜前に早くも二三寸の長さに成長するやう播種するを要す。いづれも成長につれ中耕・除草を行ひ、又蔓生種には支柱を與ふべし。

豌豆を促成栽培となすには、矮生種をよしとす、溫床中に播種して、早春珍味を賞翫するを得べし。



豆類はすべて連作すべからず。若し連作するときは厭地病を起し、收穫皆無となるに至ることあり。また豆類は、その根に共生する根瘤バクテリヤの働きによりて能く大氣中の遊離窒素を攝取利用する機能あるが故に、この類の栽培には殆ど窒素質肥料を要せざるものなり。

病害　ベト病・立枯病・銹病等あり。

蟲害　夜盜蟲・象鼻蟲　夜盜蟲の害甚だしきときは、圃地の周圍に溝を掘りて其の傳播を防ぐべし。

採收　莢豌豆は莢の嫩き間に採收すべく、種實を採收するものは葉の黃色に變じたるとき、莢の過熟に先だち拔取りて乾燥せしめ、脫粒し

貯藏

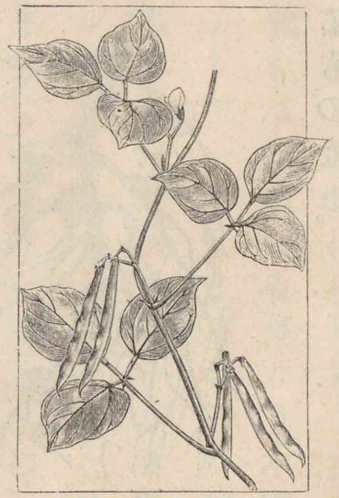
用途
品種

たる後更によく乾かして貯藏すべし。

一一　菜豆（たうささげ）

菜豆は軟莢及び種實とも需用多く、極めて滋養に富む。矮生と蔓生とあり。在來種中の良種に八房白・鶉・おたふく・札幌等あり。洋種に大王・鈴成・一尺五寸等あり。

風土
栽培



菜豆は溫暖にして稍〻濕氣多き氣候を好み、適土は石灰質粘壤土なり。栽培法は豌豆と同一なれど、播種は四五月にして、畦幅は蔓生種は約二尺五寸、矮生種は約一尺として點播すべし。早く莢を得んには、三月頃溫床に下種し、發芽して本葉二葉を生ぜし頃他の地に假植し、更に五月上旬本圃に移植するときは、六月上旬より採收するを得べし。

採收

土質

一二　豇豆・刀豆・鵲豆・蠶豆

豇豆・刀豆・鵲豆・蠶豆等は、いづれも豌豆・菜豆等と同樣の風土に適す、蠶豆は主に種實を收むる爲に、その他は軟莢を採收するために栽培せらる。その栽培法は、刀豆は種子大なるを以て胚部を下に向け體を縱にして溫床に播種し、二三葉を生じたる頃本圃に移植すべし。其の他の栽培法は概ね豌豆・菜豆に同じ。

裙帶豆の圖

刀豆の圖

栽培

品種

豇豆の品種　裙帶豆・白豇豆・金時豇豆等。

用途　**刀豆の品種**　種實の赤色種と白色種とあり。

品種　**蠶豆の品種**　千石豆・白花種・紫花種等。

鵲豆の品種　金時・おたふく・山城・紫・大粒等。

一三　草苺（いちご）

草苺は果實を生食する外、ジャムを製し、苺酒を釀（かも）す等、用途廣し。

品種には大果種と小果種とあり。一般に栽培せらるるは大果種なり。

大果種　果形大にして春夏の頃成熟す。○**ドクトル、モーレル**　果皮濃紅色を帶び、肉柔軟、多漿にて、香氣あり。○**マルゲリットル、ブルタン**　性強健、早生にして豐產なれども、甘味・香氣に乏し。○**シャープレッス**　性強健、豐產にして味甘美なり。

小果種　又四季苺の名あり、四季に亙りて成果すれども主に春秋に收む。

草苺

風土　氣候を選ぶことなく、適土は有機物に富める砂壤土なり。

栽培法　小果種は溫床に播種して苗を仕立て、大果種は根を有する匐枝を切取り、共に畦幅一尺五寸株間一尺の距離に栽植す。本圃は能く耕し、基肥を施すべし。一度植付れば三四ヶ年間は同一株より採果することを得れども、其の後は植換を行ふを要す。

促成栽培　ドクトル、モーレルの如き種類を選び、夏季新株を鉢植として肥料を與へ、秋季より溫床內に入れ、培養に注意すれば、早春採果することを得べし。

採收　成熟して赤色を呈するに隨ひ、蔓を付けたる儘之を採收すべし。

蔬菜類栽培一覽表

（一畝歩當）

名稱	適土	蕃殖法 種量	播種 植付期	畦間	株間	肥料	收穫期	患害
根菜類								
菜菔（秋）	砂質壤土	點播四—六勺	八・九月	二・三尺	一尺—一尺二寸	堆肥・人糞尿・米糠・搾粕・過燐酸石灰	十・十一月	根瘤病・ベト病・夜盜蟲・根切蟲・紋白蝶・蚜蟲・カブラ蜂
時無菜菔 二十日菜菔	砂質壤土	撒播 同右	隨時	三・四尺	三・四寸	同右	三・四週間後	同右
蕪菁	砂質壤土	條播 五・六勺	三・四月 七・八月	二—四尺	四寸—一尺五寸	堆肥・油粕・人糞尿・過燐酸石灰	十・十一月	同右

名稱	適土	播種・植付法	播種・植付期	畦間	株間	肥料	收穫期	患害
蓮根	泥濘となれる腐植質壤土	根分植 一坪—二・三本	五月	方六尺				
韮	砂質壤土	根分植 五・六貫	四・五月	一尺五寸乃至二尺	一尺			
筍	壤土	根分植	六・七月	方二間		堆肥・人糞尿・塵芥・落葉	二・三月 五・六月	
薤（らつきやう）	壤土	分植 一坪—四十個	十月	一尺五寸	七・八寸	牛蒡に同じ	四月	
百合	壤土	分植・珠芽植	九・十月	同右	四・五寸—一尺	堆肥・油粕	十・十一月	腐敗病・銹病・鐵砲蟲・蚜蟲
葱頭	砂質壤土又は壤土	冷床播又は直播 十二匁	三・四月 九月	一尺五寸乃至二尺	四・五寸	堆肥・人糞尿・草木灰・干鰯・過燐酸石灰	九月 六月	露菌病・銹病・蚜蟲・夜盜蟲・地蠶・ケラ
薯蕷	砂質壤土	むかご植 一坪に五合	四月	三尺	一尺	甘藷に同じ	十月より春隨時	蝟蟲
里芋	砂質壤土	種芋植 五—六升	四月	二・三尺	一尺五寸—二尺	堆肥・米糠・干鰯・草木灰	九・十月	斑紋病（セスジズメ）
馬鈴薯	砂質壤土又は壤土	種薯植 三—五貫	三・四月 七・八月	約二尺	七寸—一尺	菜籾に同じ	六・七月 十一月	疫病・立枯病・僞瓢蟲
甘藷	砂質壤土	苗床播・挿植 二貫	床播（三月）植（五月）	二尺—二尺五寸	一尺	堆肥・米糠・油粕	七・八月	腐敗病・紋羽病・葉卷蟲・蠅蛾の幼蟲
牛蒡	砂質壤土	條播・點播 四匁—八匁	五月—八・九月	二・三尺	一尺二三寸	堆肥・草木灰・米糠・人糞尿	五・六月 十・十一月	同右
胡蘿蔔	砂質壤土	條播・點播 五匁—一合二匁	五月	二・三尺	八寸—一尺 二寸	菜籾に同じ	九月乃至翌年三月	夜盜蟲・蚜蟲
名稱	適土	播種・植付法	播種・植付期	畦間	株間	肥料	收穫期	患害

葉菜類

名稱	適土	播種・植付法	播種・植付期	畦間	株間	肥料	收穫期	患害
慈姑	水田	球莖植 一坪三十六個	五月	方六尺				
菘類	砂質壤土	條播 四・五匁	八・九月	二尺乃至二尺五寸	六・七寸—一尺五寸	堆肥・人糞尿・草木灰・過燐酸石灰	十月—十二月	紋白蝶・サルハ蟲・カブラ蜂・地蠶・蚜蟲
甘藍	腐植質壤土	床播・直播 二・三匁	二—五月 九月	三尺	二尺五寸	堆肥・人糞尿・草木灰・過燐酸石灰・油粕	七・八・九月 翌年三月	右の外根切蟲・根瘤病・腐敗病
葱	砂質壤土	床播 五匁	床（三月）植（六月）	三尺（二列）	二・三寸	堆肥・牛馬人糞尿・藁灰	十一月後 夏蒸六月	露菌病・赤銹病・カメ蟲・夜盜蟲・蚜蟲
菠薐草	土質を選ばず	條播・撒播 四合	春秋隨時	一尺五寸	二・三寸	堆肥・人糞尿	六・七週間後	ベト病
野蜀葵	腐植質壤土	條播 一合五匁	春秋隨時	二尺	約二寸	同右	四・五週間後	
塘蒿（みつば）	砂質壤土	床播 一・二匁	床（三月）植（五・六月）	二・三尺	六寸—一尺	堆肥・魚肥・人糞尿	十一月—十二月	
茼蒿	土質を選ばず	條播・撒播 二—五合	春秋隨時	二・三尺		堆肥・人糞尿・木灰	四・五週間後	
萵苣	腐植質壤土	床播・條播 二・三匁	三・四月 七・八月	一尺五寸	七寸—一尺	同右（外に魚肥）	七週間後	ベト病・腐敗病・夜盜蟲・根切蟲
土當歸	腐植質壤土	播種（約二合） 根分・挿伏	四・五月	一尺—一尺五寸		同右	十二月—四月	腐敗病
石刁柏	砂質壤土	床播 二・三匁	床（四月）植（五月）	四尺	三・四尺	堆肥・人糞尿	三年後—三五月	銹病
蕗（欵冬）	壤土	株分植	五・六月	二尺五寸	一尺	堆肥・人糞尿・塵芥		
茗荷	腐植質壤土	根分植	四月	三尺	一尺	同右	芽、春季	

果菜類

名稱	適土	蕃殖法	播種付期	畦間	株間	肥料	收穫期	患害
紫蘇	土質を選ばず	條播 七勺	三・四月 十月	二尺	二・三寸	堆肥・人糞尿	三・四月	
食用菊花	砂質壤土	株分植	三月	約二尺	一尺五寸	堆肥・魚肥・人糞尿	十月	蚜蟲
胡瓜	壤土	溫床播・直播 四・五勺	床(三月) 植(五月)	二尺五寸	一尺五寸	堆肥・米糠・草木灰・人糞尿・過燐酸石灰	六月—八月	立枯病・ベト病・白黴病・ウリバヘ・蚜蟲
南瓜	粘質壤土	溫床播 三・四勺	同右	四尺—九尺	三尺	同右	七・八月	同右
冬瓜	砂質壤土	溫床播 三・四勺	床(三・四月) 植(五月)	同右	同右	堆肥・魚肥・油粕・米糠・人糞尿	七・八月	同右
西瓜	砂質壤土	溫床播 二・三勺	床(四月) 植(五月)	六尺—九尺	三尺	同右	八・九月	同右(外に露菌病)
甜瓜	砂質壤土	床播・直播 二勺	床(三・四月) 植(四・五月)	四尺—六尺	二・三尺	同右	七月—九月	同右
扁蒲	粘質壤土	直播 三・四勺	四・五月	六尺—九尺	三尺	同右	八・九月	
茄	砂質壤土	溫床播 二・三匁	床(三月) 植(五月)	二尺五寸—三尺	一尺五寸—二尺	堆肥・油粕・人糞尿・草木灰・過燐酸石灰	七月—十月	立枯病・疫枯病・蚜蟲・夜盜蟲・僞瓢蟲・ツルハ蟲・椿象蟲
蕃茄	砂質壤土	床播・直播 二三匁	床(三・四月) 植(五月)	方三尺五寸		同右	七・八月	疫病・樺色コメツキ蟲
蕃椒	砂質壤土	溫床播 一勺	同右	二尺—二尺五寸	一尺	同右	八月—十月	
豌豆	砂質壤土	點播・條播 二—四合	三・四月 九・十月	一尺五寸—三尺	五・六寸—一尺	堆肥・米糠・草木灰・過燐酸石灰	六月後	厭地病・立枯病・ベト病・銹病・夜盜蟲・象鼻蟲

名稱	適土	蕃殖法	播種付期	畦間	株間	肥料	收穫期	患害
菜豆	石灰質壤土	點播 二—四合	四・五月	二尺五寸 矮型一尺	一尺	同右	七・八月	蚜蟲・マメハンメウ・根切蟲
鵲豆	粘質壤土	點播 三・四合	四・五月	同右	同右	同右	七・八月	同右
刀豆	粘質壤土	床播・直播 三・四合	四月	四尺五寸(二列)	一尺二寸	同右	七・八月	同右
蠶豆	石灰質粘壤土	床播・直播 五・六合	十月	一尺五寸—二尺	七八寸	同右	八・九月	ベト病・銹病・マメ蚜蟲・サヤムシ
落花生	砂質壤土	點播 五合	五月	二・三尺	一尺	堆肥・過燐酸石灰	十一月	野鼠
草苺	腐植質砂壤土	播種・根分植	三・四月	一尺五寸	一尺	堆肥・人糞尿・油粕・草木灰・過燐酸石灰	六月	斑點病

第三篇　果樹篇

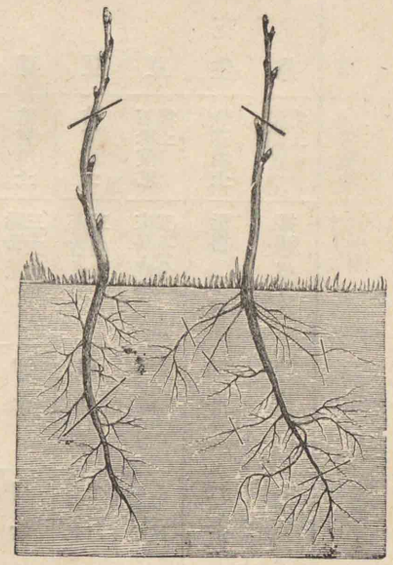
第一章　果樹の蕃殖

果樹を蕃殖せしむる方法に、實生法・接木法・挿木法・壓條法・株分法等あり。

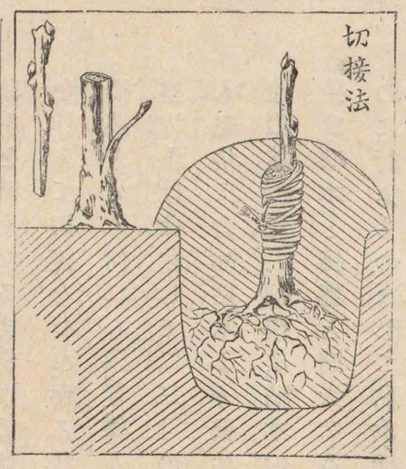
實生法　果樹は他の作物と異なり、種子より生じたるものは、果實の品質概ね母樹のものよりも劣るを常とす。故に實生のものは單に接木用の砧木として栽培せらるゝに過ぎず。

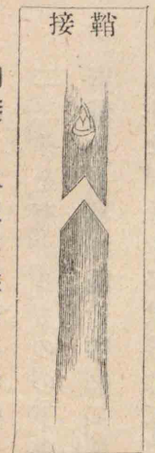
種子は苗床に播種して育成し、二三年を經れば、最早砧木に使用することを得べし。

實生苗木の圖

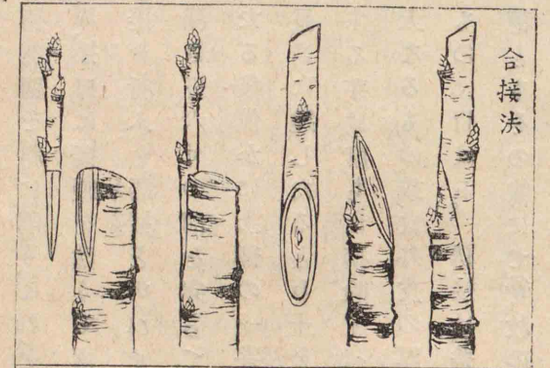


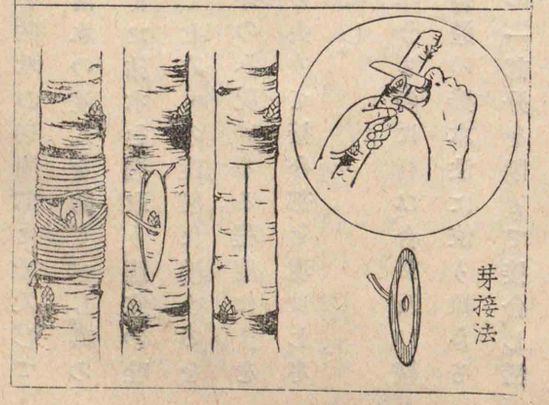
接木法　接木は最も普通に行はるる蕃殖法にして、他樹の枝または芽を取りて砧木・砧枝に接ぎ合すものとす。而して、枝を接ぐを枝接といひ、芽を接ぐを芽接といふ。枝接には、また切接・合接・割接などの接方あり。





切接　二三年生の砧木の根際二三寸を殘して横斷し、其の面を滑かに削り、一側





居接と揚接との區別

に於て木質と皮部との間を、約一寸を度として切開し、接穂は二三寸の長さにて二三芽を有するものの下部兩側面を斜に削り、これを砧木の切開部に挿入して密着せしめ、打藁の類にて縛り、接口に接蠟を塗りて雨水の浸入を防ぐべし。其の砧木を植ゑたるままにて切接を行ふを居接といひ、また砧木を掘取り、適宜の畦を作りて切接を行ひ、而る後深さ五六寸の溝を穿ちて七八寸の距離に植うるを揚接といふ。何れも接ぎ終りたる後、僅かに上部の一芽のみ現はるる程度に土を盛り上げ、發芽して二三寸の長さに達したるとき土を去りて接合部を現はし、專ら肥培に力め、砧木より發生する芽は直ちに摘除すべし。

接蠟の製法

松脂十五匁
蜜蠟十匁
豚脂三十匁
牛脂十匁
以上鐵鍋に溶かし混ぜ合す

芽接法

他の枝接法　割接は、砧木の大なるもの、或は外皮の厚きものに行ひ、合接及び鞍接は、砧木と接穂と同大なるものに行はる。誘接は、普通の接木法に依り難きものに行ふものにして、砧木・接穂ともその儘にて各〻枝の一部分を削りて接合し、活着の後接穂の下方を切放つものなり。

接木の季節は、概ね二月下旬より四月上旬迄を限りとす。

芽接　この法は切接と異なり、接穂の代りに芽を用ふ。即ち八九月頃、芽の固定せる時期を見計ひ、腋芽を上下の皮部と共に切取り、之を通常丁字形に傷つけたる砧木の皮下に挿入するものにて、其の砧木は三四年生の幼樹を用ひ、居接法に依りて行ふものとす。かくて翌春發芽前に接芽の上部二三寸の所より砧木を切斷し、新梢の伸びたるものを上方に向はしめたる後、更に新梢に接して殘れる砧木を切去るべし。芽接は他の接木法よりも手術頗る簡單にして行ひ易く、且よく接着す。柿・栗の如き樹皮に澁氣あるもの、又は葡萄などを除くの外は、何種の果樹にも行ひ得べき法なり。

接木の效益

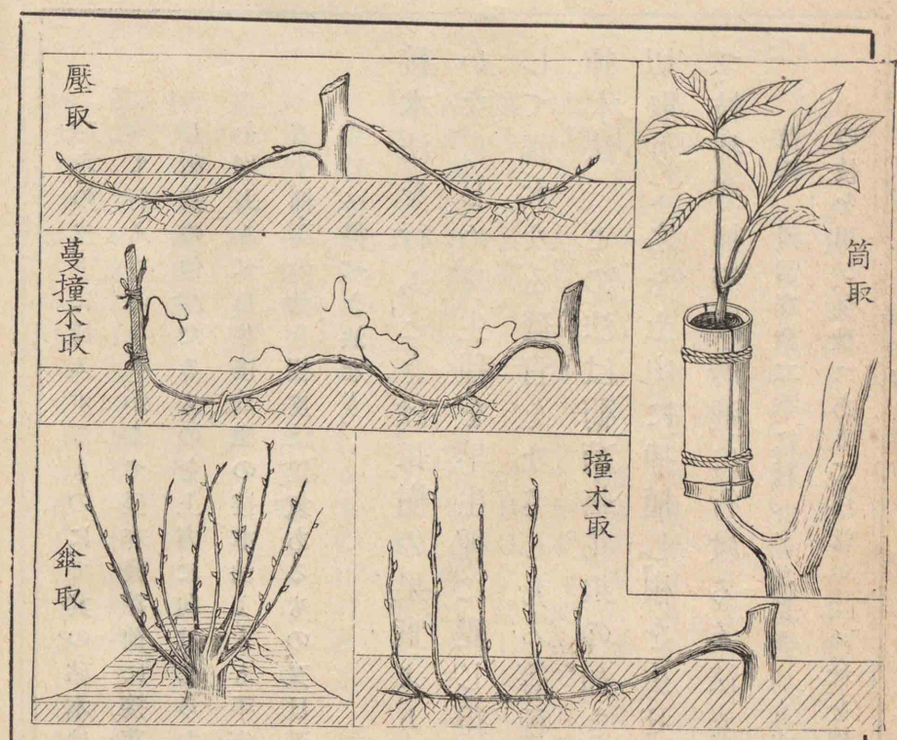
接木法を行ふときは、母樹の果實よりも更に品質を高め、結實を速かならしめ、晩生種を早生種に變じ得るのみならず、矮性の樹種をして強大なる發育をなさしむる等種々の效益あり。

挿木法

挿木法　この法は葡萄・無花果の如き根の生じ易き果樹の枝梢を切取りて之を土中に挿植し、根を生ぜしめて苗木となす方法にして、枝挿・芽挿等は普通に行はるる法なり。

枝挿　通常春秋二季に行へども、夏季にも亦行ふを得べし。春にありては前年生の枝を用ひ、夏秋にありては當年生の枝を用ふ。挿枝の長さは五寸乃至一尺位に

壓條法



切取りて土中に挿植し、僅かに一二芽を露出する迄に土を覆ひ、堅く踏み付け置くべし。

芽挿　概ね温室内の砂地に、長さ二三寸に切りたる嫩梢を挿植して發根せしむ。

壓條法　この法は、果樹の枝條を、春季なれば前年生のもの、また夏季なれば當年生のものを土中に撓めて根を生ぜしめ、後之を母樹より切り離して苗木となす法にして、專ら苹果・須具利・葡萄などの如き根の生じ易きものに行はる。この法に壓取・撞木取・盛取などあり、また樹枝の中途より發根せしむる筒取法あり。

この法によりて發根したるものは、其の年の秋季又は翌春に母樹より分離し、一年間圃地に假植して肥培を行ひ、後に本圃に定植するものとす。

株分法　この法は、母樹の根際より生ずる新芽、または或種の株根を數株に分離して苗木とし、一旦假植して肥培し、後に本圃に定植する法なり。

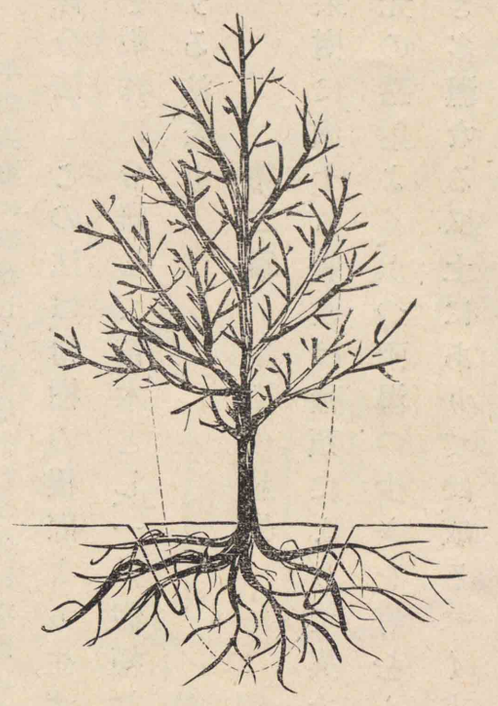
第二章　果樹の栽植

氣候　果樹に適する氣候は種類によりて異なれども、概ね溫暖にして日光の透射よく、かつ雨濕の少きを好むもの多し。されば我が國の如き多濕なる風土にありては、成るべく東南又は南方に少しく傾斜せる地を最も宜しとす。

土質　土質も亦果樹の種類によりて適否あれど、概して排水は極めて良

く、表土深き壤土若しくは砂質壤土を宜しとす。

苗木の栽培は、春季發芽の前又は秋季落葉後、曇天にして無風の日を選び、接木後二三年を經たる苗木を丁寧に掘取りて、適宜に長根を刈込み、之と同時に枝端をも切りて、枝と根との釣合を保たしめて本圃に定植すべし。若し大木を移植するには、豫め前年より根廻しを行ひ置くをよしとす。



根廻しの圖　點線は枝根を切取るべき部分

定植すべき土地は、深く耕鋤し、果樹の種類及び土地の廣狹等を考へ、適宜の距離を定めて穴を穿ち、稍淺植となすべし。其の際、根の一

方に片寄り、又は上向きとなる等は最も忌むべきことなり。かくて土地の肥瘠によりて適當に肥料を施し、なほ丁寧に覆土し、よく壓へ付けて十分土壤と密接せしめ、栽植終れば、苗木には支柱を立てて風のために動搖するを防ぐべし。但し支柱は、結實多きに過ぎて枝條の折るるが如き憂ある場合にも用ふ。

支柱の必要

遠隔の地より取寄せたる苗木は、一旦濕氣を含める砂質の地に假植し、樹勢の回復するを待ちて本圃に定植すべし。

栽植の方式

第三章　果樹の培養

栽植の方式には正方形植・長方形植・三角形植・五角形植等あり。

中耕

果樹を栽植したる本圃を果樹園といふ。本圃は苗木の幼少なる間または土質の膨軟ならざる地にては、一年數回耕鋤すべし。通常秋季は深耕し、其の他は淺く行ふを宜しとす。

施肥

果樹は他の作物の如く屢施肥するの要なく、一年三回位を適當と

施肥法

す。第一回は春季發芽前速效肥料を用ひて芽の發生を促し、その成長を助くべし。之を寒肥又は芽出肥といふ。第二回は落花後にして、果實の成長を促すため極めて薄き液肥を施し、第三回は採果後にして、樹勢の回復を主とするものなれば、堆肥に速效肥料を混じて施すべし。

肥料は、樹幹に接近せしめず、その支根の位置を見計ひ、輪狀に溝を掘りて施し、其の上に土を覆ふべし、之を輪肥といふ。また棒肥とて、根の附近各處に穴を穿ちて施肥することもあり。

培養の注意

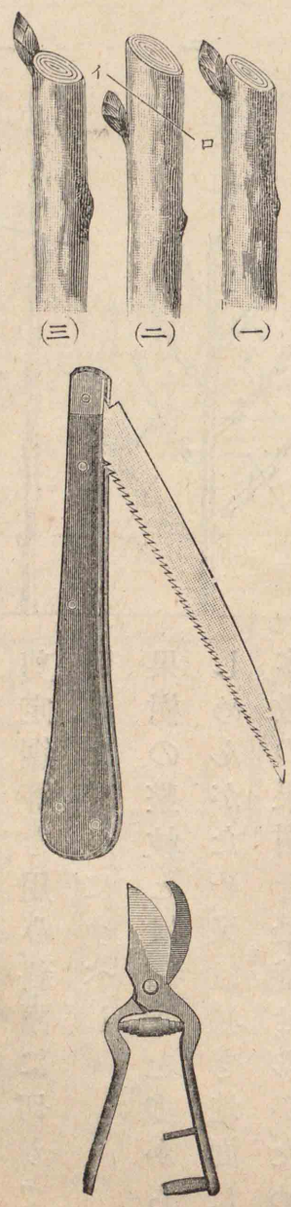
果樹はその培養に注意せざるときは、或は開花するも結實せざることあり。又は結實しても成熟前に落果することあり。或は枝梢のみ徒に旺盛なるか、又は隔年に結實する如き慣性とならしむる等の不結果を來すことあるものなり。

不結果を來す主なる原因は、風土に適せざる果樹を栽植したる場合、土壤中の肥料の不足なるか又は施肥の過量なる場合、病害・蟲害の被害多き場合、果實を適度に摘果せざるため過量に成熟して樹勢衰へたる場合、其の他降霜・旱魃・風雨の場合等なり。

第四章　剪定及び整枝

剪定

果樹の剪定とは、剪枝・摘芽・剪根など、卽ち不用の部分を切り、被害の局部を去りて、日光・空氣の透通を計り、果枝の發生を促して、連年良好なる果實を產せしめ、且保護及び管理に都合よき樹姿を整ふる取扱なり。



上圖剪り方を示す
一可良なるもの
二不良にして更にイロ線より再剪を要す
三不良

中圖懷中剪定鋏

下圖剪定鋏

剪定の季節

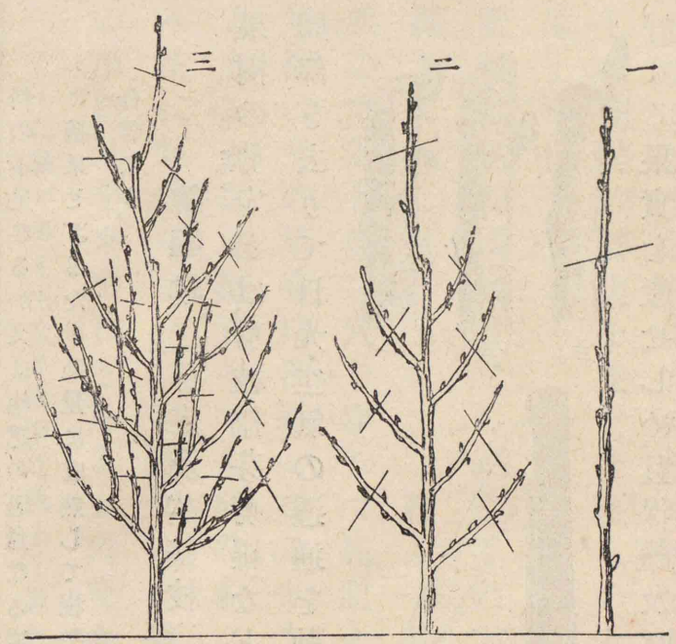
剪定を行ふ季節は、落葉後より翌春發芽前までの間にして、一般に

整枝

枝梢剪定の方法一、二、三は成長に隨ひ其の剪定の方法を示す

立木作

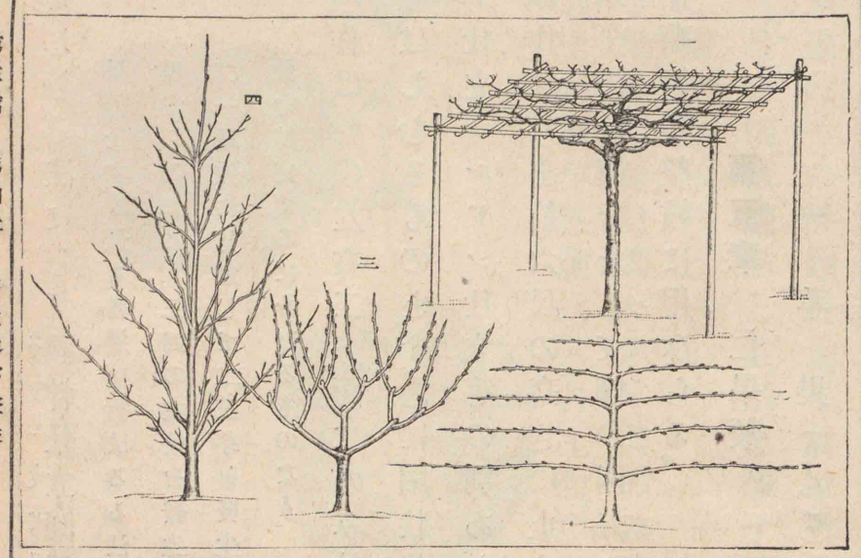
暖地は秋季、寒地は春季を宜しとす、されど果樹の種類によりては特に秋季を選ぶものもあり。又夏季に新梢及び不用の芽を摘除することもあり。剪定には鋏・小刀・剪定鋸等を用ひ、斜面に切りて切口を滑かにすべし。

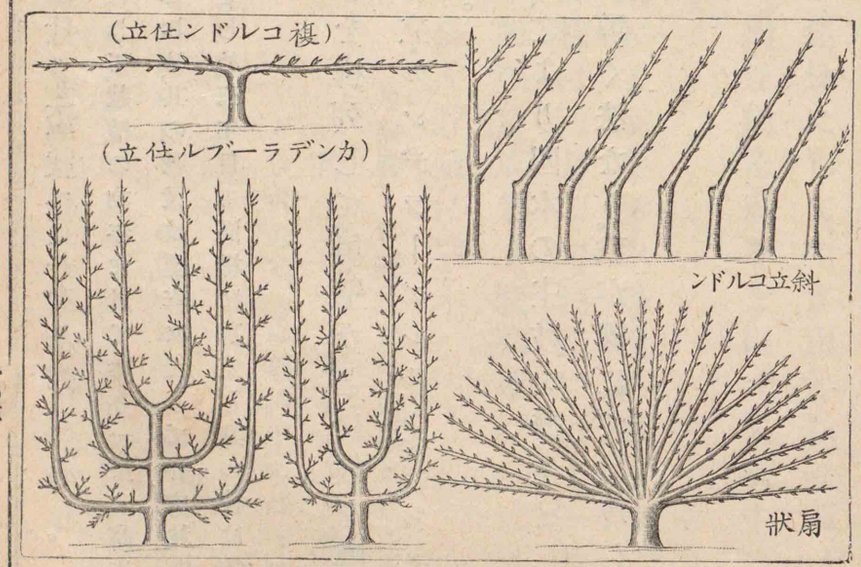


果樹の整枝とは、結實を多からしめんがため、又は狹き地面に多數の果樹を培養せんがため、或は庭園の風致等の爲に、樹形を整ふることをいふ。整枝の方式は立木作・垣作・棚作の三法に大別す。

立木作は幹の周圍に枝を排列

一、棚作
二、パルメット仕立
三、盃状仕立
四、圓錐仕立





せしむる法にして、長幹仕立・圓錐仕立・盃狀仕立などの別あり。

長幹仕立は最も普通に行はるる法にして、栽植の初年に於て幹を一尺の高さに剪定し、これより三四の主枝を發生せしめ、其の秋又は翌春に至りて各主枝を再び一尺位に剪定して二三芽を發生せしめ、三年目も同樣に剪定し、其の後は徒長枝を剪定するに止むるものなり。

垣作　垣作は幹の左右二方面にのみ枝を排列して、垣・壁などに枝を導き纏はしむるものとす。之に扇狀仕立・カンデラーブル仕立・バルメット仕立・コルドン仕立等の別あり。

棚作　棚作は幹を約六尺の高さに止め、之より四本の主枝を發生せしめ、水平の位置をなして棚の四方に導く法なり。我が國にては專ら梨・葡萄等の整枝に用ひらる。

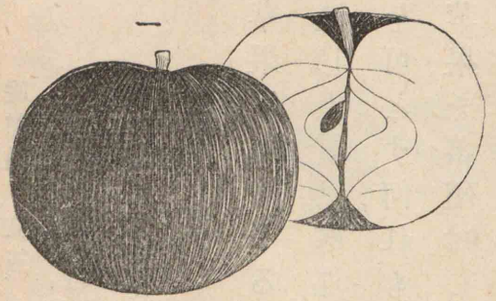
第五章　仁果類

一　苹果（りんご）

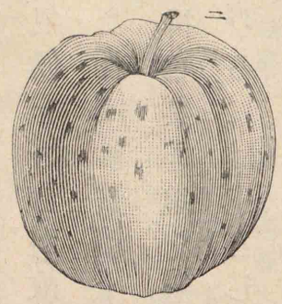
用途　苹果はその外觀鮮美、果實は香味佳良にして、生食用とし、貯藏に堪へ、且砂糖漬・罐詰とし、酒を釀す等、用途頗る廣きを以て、果實中の王と稱せらる。

品種　苹果の品種は甚だ多く、其の熟期により早熟・中熟・晩熟の三種に大別す。普通、早熟種は八月上旬、中熟種は八月下旬、晩熟種は十一月初旬頃に成熟す。晩熟種は殊に香味良く貯藏に堪ふ。

一、旭
二、紅玉



一



二

早熟種　紅魁、樹性强健且豐產なり。○小町、果は尖圓形にして風味佳良なり。○黃金丸、早熟種中の最も早種なり。○神笑、多漿にして稍〻酸味あり。

中熟種　祝、樹性强健にしてこの種中の優品なり。○生娘、性强健豐產にして成長甚だ速かなり、佳香を有し、味可なり。○紅絞、果肉純白にして柔軟多漿かつ芳香あり。

晩熟種　紅玉、風味良好の最上種なり。貯藏に適す。○國光、一名雪の下ともいふ。樹性強健、微酸味を帶び、味佳にして、永く貯藏するに隨ひ美味を增す。○旭、多漿にして甘味に富む。○榊玉、果肉白色、稍〻酸味を帶び、風味中位なり。○赤龍(金時)豐產にして佳香を有し、味美なり。

氣候　苹果は寒冷なる氣候を好むが故に、暖地にては結果少く、かつ香味淡し。

土質　土質は寒地なれば砂質壤土、暖地なれば壤土または礫質埴土を可とす。何れも排水良き地を選ぶべし。

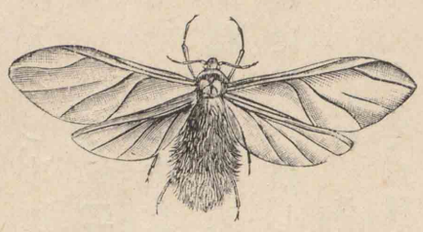
栽培　苹果を蕃殖せしむるには、主として接木法による。林檎・海棠・山梨等を砧木とし、之に芽接もしくは切接を行ひ、接木後三年を經たるものを本圃に定植するものとす。本圃は直徑三尺深さ一尺許りの穴を掘り、堆肥を土と混じて施したる後、淺く覆土して植付け、栽植後一年を經て、漸く剪定を加へて樹姿を整ふべし。其の方式は、普通圓錐形仕立・圓頭形仕立とすれども、またカンデラーブル・ゴルドン仕立とすることあり。肥料は窒素肥料を主とし、これに加里・燐酸を加用すべし。かくて五六年目より漸次結實するに至る。また連年美大なる良果を得んには、適宜に摘果を行ふべし。

病蟲害　**病害**　葉を黃變せしむる銹病、及び枝幹を被害部より枯死せしむる腐爛病などあり。

蟲害　介殼蟲・綿蟲・天牛蟲などあり。何れも恐るべきものなり。

果樹の病害豫防も亦蔬菜類に於けるが如く、概ねボルドー液を用ふ。使用法は病害及び種類によりて異なれど、概して開花前に第一回、落果後果の拇指大となりたる頃第二回を行ふものとす。若し被害の甚大なる時は更に落花後・採果後にも行ふべし。また枝梢は被害部を速かに鋭利なるものにて切取りて燒却し、切口にコールタールを塗るべし。○害蟲驅除は石油乳劑の使用を主とし、また松脂合劑及び石灰硫黃合劑を用ふるも宜しとす。

綿蟲の成蟲



松脂合劑　松脂百匁　苛性ソーダ二十五匁　魚油一斗　水合一斗

石灰硫黃合劑（落葉後果樹洗滌）　石灰百二十匁　硫黃百二十匁　生石灰百二十匁　水一斗

果實を採收するには、其の果軸を存し、かつ傷つけざるやうに注意

すべく、之を貯藏するには、採果後約一週間を經、多少水分の去りたる頃一箇毎に紙にて包み、乾燥せる鋸屑（のこぎりくづ）または鉋屑（かんなくづ）の中に收めて箱入とし、冷所に置くべし。

二　梨（なし）

用途　梨は主に生食及び罐詰用に供せらる。

品種　品種には在來種と洋種とあり。洋種は一般に品質優良なれども、貯藏に堪へ難し。何れも早・中・晩熟の三種ありて、品種多し。

早熟は七月下旬　中熟は八月　晩熟は九月中

早熟種　眞鍮　柔軟多漿にして甘味に富む。○早生泰平、各地に廣く栽培せらるる大形種なり。○土用梨、果實小形にして甘味あり。○赤縮　果大形、外皮鮮紅色にして美なり。

中熟種　明月・淡雪・長十郎、何れも佳香美味の良種なり。○バートレット、果は大にして肉白色、多漿にして且芳香を有す。豐產なり。○マデライン・セッケル、何れも樹性强健にして、香味良好なり。

晩熟種　土佐龍、扁圓大形にして多漿、且甘味に富み、最も貯藏に堪ふ。○泰平（お

いらん）果甚だ大にして品質良好なり、廣く栽培せらる。○赤龍、品位中等なるも、永く貯藏に堪ふ。○世界一、扁平または一側扁大の大果にして、漿液多く、毫も硬粒なく、少しも殘渣（ざんさ）を存せず。○ローレンス、中形黃金色を有し、甘味芳香ある良種なり。

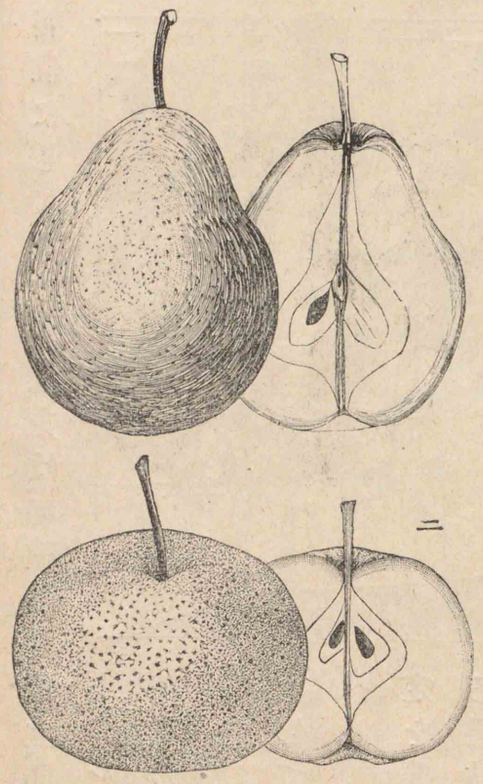
氣候　氣候は暖地よりは寧ろ寒地に適す、されど降霜を忌むものなれば、この患少き河邊などを選ぶべし。

土質　土質は砂質壤土を良しとす。

梨の蕃殖法も亦接木により、砧木は主に實生梨と榅桲（まるめろ）とを用ふ。榅桲砧のものは、結果早くして品位優等なれど、樹齡長からず。栽植の距離は、和種は二間半位、洋種は三

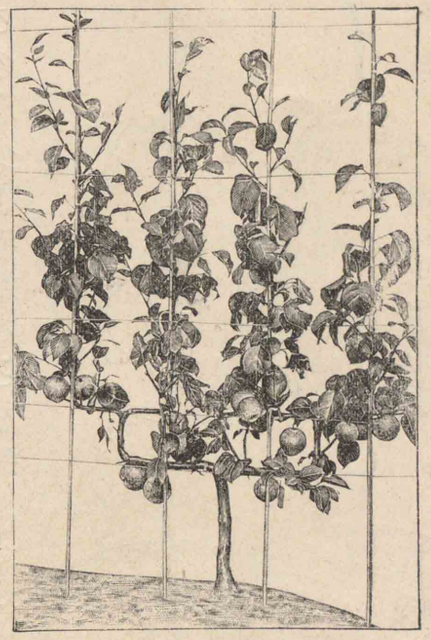
榅桲砧は芽接法實生梨は切接法

一、バートレット
二、泰平



二

間位にして、其の仕立方は、和種は棚仕立、洋種は長幹仕立・カンデラーブル仕立等とす。其の季節は春秋の中とし、徑三尺、深一尺五寸位に穴を穿ち、下肥・堆肥等を施して土を覆ひ、淺く植ゑ付くべし。梨は苹菓よりも多くの剪定を要するものなれば、老成せる果枝は適宜に切斷して、新しき果枝を發生せしむるを要す。



梨のカンデラーブル仕立

定植の後二三年を經れば、開花結實するに至れども、この際結實せしむるは樹勢を衰弱せしむる虞あるを以て、成るべく摘み去りて、五六年目より結實せしむべし。肥料は下肥を主とし、木灰・過燐酸石灰を加用し、園地は秋季に耕し、なほ常に除草を怠るべからず。

病蟲害　主なるものは赤星病にして、葉に黄赤色の斑點を生ず。

害蟲　枝幹を害する介殼蟲・天牛、及び果實を害する象鼻蟲あり、果實は一つ一つ紙にて包み之を保護すべし。

採取貯藏　梨の果實は十分に成熟せざる時に於て採收し、清涼の室内にて追熟せしむる時は、大いに其の品質を高むるものなり。貯藏法は苹果に同じ。

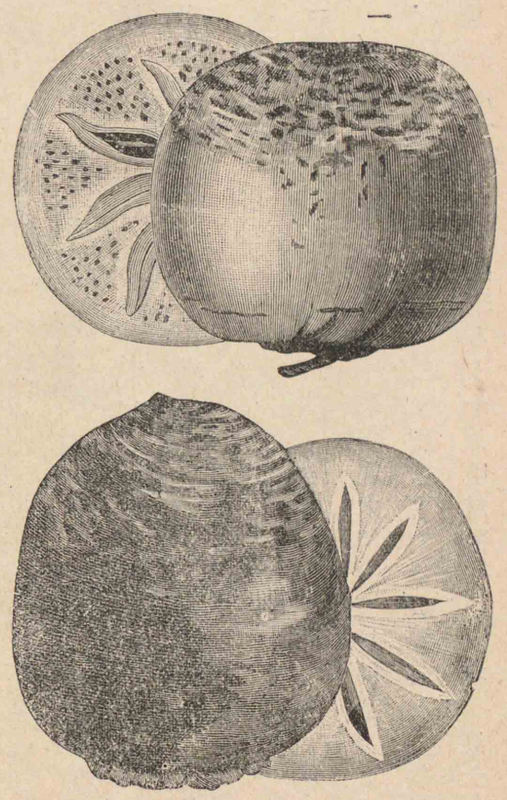
三　柿（かき）

用途　柿は我が國各地に栽培せらる。甘柿は生食に供し、澁柿は白柿・串柿・醂柿（さはしがき）となす。また未熟の果實よりは柿澁を製し、材は器具用として貴重せらる。

品種　品種は其の用途・形狀・風味等によりて、これを數種に類別す。

甘柿種　○百目柿　果甚だ大にして扁圓形なり、成熟すれば頂部に點紋を生ず、甘味多漿、核子多し。○御所柿　果は扁圓にして紅熟す、風味佳なり。○鶴の子　果小、頂端尖り黑斑あり。十月頃成熟す。○富有　果大にして種子を有せず、收量多く

(一)百目柿
(二)蜂屋柿



衣紋　扁圓なる大果にして核子少し、樽柿用に適す。○富士　甲州にては百目と稱す、大楕圓形の良種なり。○君遷子（きみめがき）　小楕圓形にして、細小なる核子を有す、柿澁を採るに宜し。

氣候　柿は氣候を選ばざれども、溫暖なる地方に最も能く適す。

土質　土質は排水佳良なる砂質壤土を第一とし、粘質壤土これに次ぐ。

最良種なり。○擬寶珠　擬寶珠形にして核子少し。○禪寺丸　果小、種子多く、品質中位なり。

澁柿種　○蜂屋　楕圓の大形にして白柿・醂柿を製するに適す。○核無　圓形にして白柿・醂柿・樽柿用に適す、核子なし。○

栽培　蕃殖法は實生柿・君遷子等の砧木に居接するを普通とす。園地における栽植距離は三間に四間乃至五間とし。整枝は長幹仕立となし、適宜剪定を行ふべし。但し柿に鐵器は害ありとて用ひざることあれば、手にて折取るを宜しとす。肥料は果實の拇指大となれる頃速效肥料を施すべし。

病害　柿には甚だしき病害なし。**害蟲**　介殼蟲・金龜子・柿蔕蟲（へたむし）等あり。

採收　採果は用途によりて異なれども、生食用種は澁味の全く脫したるとき採收すべく、製造用種は黃色を帶べる頃を可とす、又採澁用のものは、青色にして、澁味の最も强きときをよしとす。

用途

四　柑橘類（かんきつるゐ）

柑橘類の果實は、生食とする外、清涼飲料及び菓子の原料となり、需要頗る多く、重要なる果樹なり。

種類

柑橘類を大別して、柑類・橘類・金柑類・香櫞類・枸櫞類等とし、各類共に多くの品種あり。

柑類

- **温州蜜柑**　果は中大、味美にして、核を有するもの稀なり。
- **紀州蜜柑**　大平蜜柑・本蜜柑等の名あり、多漿・甘味にして核少し。
- **八代蜜柑**　果は中、大核あり、一に河内蜜柑ともいふ。
- **泉州蜜柑**　果は中大、核の有るものと無きものとあり。

橘類

- **香橙**（九年母）　果は中大、果皮厚く香氣高し。貯藏久しきに堪ふ。
- **ネーブルオレンヂ**　果は中大、多漿・甘味にして香氣高く、この類中の優品なり。
- **甜橙**　果は中大、多漿にして貯藏に堪ふ。唐蜜柑ともいふ。
- **夏橙**（夏蜜柑）　果は大、多漿にして酸味強く、初夏の候成熟す。
- **回青橙**　果は中大、酸味強くして酢の代用品となる。又橙皮油を製す。
- **柚**　柑橘類中最も寒氣に堪ふ、酸味強く生食に適せず。

金柑類…丸金柑・長金柑・唐金柑あり。二三月頃採收す。糖藏に適す。

一、夏橙
二、甜橙
三、鳴門蜜柑
四、温州蜜柑
五、香橙
六、回青橙

香櫞類

香櫞　果は大にして、酸味を帯び且苦く、内部青白色なり。

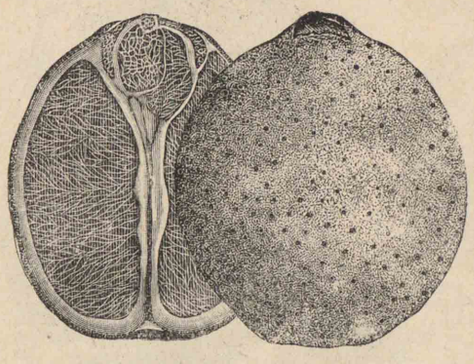
文旦（朱櫞）　果は巨大、皮厚く滑かなり、酸味強く稍〻苦し。

枸橼類

枸橼　果は大にして香氣あれども苦味強し。

佛手柑　暖地にあらざれば生育せず、果は長方形にして糖藏に適す。

氣候は溫暖にして濕氣多からざる地方に適し、東南に向つて少しく傾斜し能く日光を受くる處は殊に優良品を得べし。土質は砂質壤土を良しとし、壤土も亦可なり。



ネーブルオレンヂ

蕃殖　蕃殖法は主に接木により、砧木は枳殻または柚を用ひて居接とす。通常枳殻砧は三四年生柚砧は六七年生のものを宜しとす。苗木の栽植距離は、柚砧ならば方二三間、枳殻砧は方二間位とし、根の活著して枝葉を生ずるまでは簀にて覆をなし、成長後は圓頭形に仕立つべし。

栽植後五六年間は寒害に罹り易きが故に、降霜の頃に至れば藁束を擴げて枝梢を覆ひ、または菰にて包む等、專ら防寒に注意すべし。また柑橘類はすべて隔年に結實する傾きあるものなれば、適宜に除果を行ふべし。

病蟲害

病害　瘡痂病・煤病等あり。

蟲害　蚜蟲・鐵砲蟲（天牛の幼蟲）・介殼蟲・穿葉蟲等あり、殊に鐵砲蟲は大害をなす。

採收　採收は種類によりて異なれども、一般に果皮の十分に着色せる頃、朝露の乾くを待ち鋏を以て蔕を附したる儘採果すべし。

貯藏　藏内に數段の棚を設け、其の上に竝べ置くを宜しとす。

用途

五　枇杷（びは）

枇杷は初夏の候他の果物に先だちて成熟し、生食用として需用多

品種　く、頗る賞用せらる。品種には唐枇杷・田中枇杷・あかがね・眞鍮等あり、就中唐枇杷・田中枇杷は果實大形にして果肉厚く、品質優良なり。

風土　枇杷は溫暖の氣候を好み、土質は砂質壤土に適す。東南に傾斜せる地は殊に良品を產す。

蕃殖　枇杷は接木又は實生にて蕃殖せしむ。實生にても他の果樹の如く惡變することなし。接木の砧木は實生又は榲桲を用ひ、切接または割接法による。榲桲砧は矮性となるものなれば、一間半位の距離に栽植して可なれども、實生砧のものは約三間となすべし。整枝は長幹仕立を普通とし、剪定は夏季に徒長枝と密生枝とを切取るべし。

害蟲に天牛あり

採收　採收は一房中の過半成熟したるを度とし、小枝及び一二枚の葉をつけて折取るべし。

第六章　核果類

一梅（うめ）

用途　梅は早春他に先だちて花を開き、秀麗にして香氣馥郁たるが故に、觀賞用として廣く栽培せらる。果實は梅干・糖藏及び酒漬等に供し、材は器具用とす。

品種

豐後梅　花瓣淡紅色にして美しく、果實は梅果中の大なるものなり。

難波梅　花は淡紅色、重瓣なり。果は最も梅干製造に適す。

小梅　花は白色單瓣なり。樹矮性にして果實最小、核軟かにして肉と共に食するを得。其の他養老梅・林州梅・白加賀梅等あり。

蕃殖　梅は氣候の寒暑を問はず能く生育し、土壤も亦選ばざれども、排水良好なる壤土は最も適地なり。

蕃殖法は實生・挿木・接木等あれども、多くは接木により、砧は野梅又は難波梅の實生を用ふ。砧木は二年生のものにて、切接なれば春季、

芽接なれば秋季を宜しとす。接木後三四年頃より開花結實を始め、能く肥培するときは百年以上を經るも衰弱することなし。梅は剪定を要すること少く、單に徒長枝・密生枝を除き、樹形を整ふれば足る。

觀花用の栽培　觀花用のものは、接木後能く肥培して鉢仕立とし、南向きの暖地、または溫室等に入れ、早春開花せしむべく、落花後は基部の二三芽を殘して枝を切取り新枝を發生せしむべし。

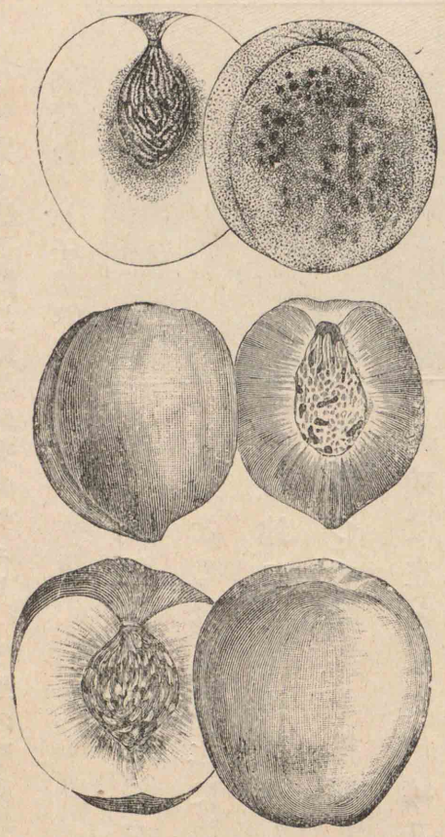
蟲害　蚜蟲・介殼蟲・「おびかれは」(はむし)等あり。殊に「おびかれは」は梅・杏・桃・ばら・苹果等を食害す。幼蟲は枝梢に網を張りて巢及び繭を作りて產卵す。

採收　果實の採收は、成熟に達せざる時を宜しとす。

二　桃（もも）

用途　桃は果實肥大にして漿液に富み、かつ香味を有するを以て、生食に供し、また罐詰・砂糖漬となす。花も亦麗はしき故に觀賞用に適す。

品種　我が國在來種は果實劣れども、支那種及び洋種は品質優れるを以て、近來專ら洋種を蕃殖栽培するに至れり。



上、上海水蜜桃　中、天津水蜜桃　下、ザルウエー

上海水蜜桃（しやんはいすいみつたう）　支那の原產にして、果皮淡黃色を帶び、肉は黃色にして、核子に接する部は赤色を帶ぶ。○**天津**（てんしん）**水蜜桃**　果皮暗紅色又は濃紅色にして、多漿なれど少しく苦味あり、品位前者に劣れども、早熟にして豐產なり。

蟠桃　白蜜桃ともいふ、扁圓にして黃綠を帶び、味佳良にして核子良且芳香あり。

アムスデン、ジューン　米國の原產にして、果皮淡綠色を呈し、味佳良にして核子

離れやすし。○**アレキサンダー**　米國の原産にして圓形をなし、果皮黄色、陽面紅色を呈す、核子離れ難し。○**ザルウェー**　米國の原産、果は大圓形淡黄色にして紅褐斑あり、核子離れ易し。

氣候　桃は氣候溫暖にして日光の透射よく排水良好なる砂質壤土に良品を産す。肥沃に過ぐる地にては枝梢徒らに繁茂して樹脂多く、隨つて美果を得難し。

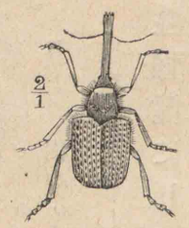
土質

桃の盃狀仕立

蕃殖　蕃殖は主として切接及び芽接法により、砧木は實生の桃及び李・杏等を用ふ。本園の定植距離は普通立木作にありては方二間乃至三間とす。整枝は多くは盃狀仕立とし、或は扇狀仕立・カンデラーブル仕立等も行ふことあり。桃は一度結果せる枝には再び花芽をつくることなく、前年の新梢に果枝を發して上方にのみ伸長するを以て、成るべく基部に存する芽を助長せしむるやう剪定するを要す。

被果法　果實は害蟲を防ぐ爲に、紙袋を以て之を被ふべし。其の時期は五月初旬頃にして、採收一週間前位に脱ぎ去るをよしとす。

象鼻蟲の成蟲



21

病害蟲　**病害**　縮葉病・果實の腐敗病あり。

蟲害　蚜蟲・象鼻蟲あり、また果實を害する桃の螟蛾（しんくひ）等あり。

採收　果實を採收するには、晴天の朝又は夕を選ぶべし。而して桃は皮薄く肉極めて軟かなれば、その取扱を十分丁寧にするを要す。

用途

三　李（すもも）

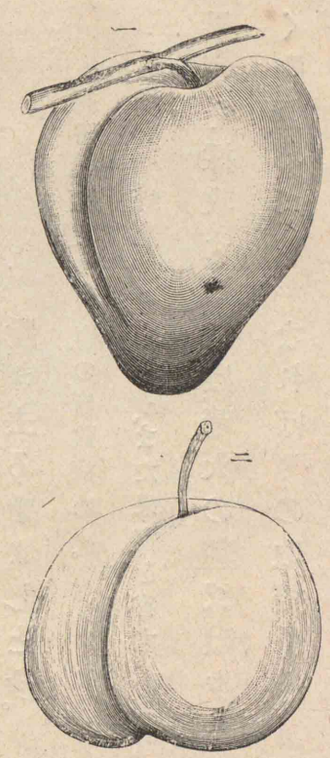
李は各地に栽植せられ、果は主に生食用となす。品種には在來種の

品種

外、洋種中に良種あり。

巴旦杏（はたんきやう）　樹性強健にして果は核子小さく肉厚く、多漿なり。○**牡丹杏**（ぼたんきやう）　果肉厚く柔軟にして甘味多く酸味殆どなき良種なり。兩種共肥培に注意せば樹性容易に老衰せず、かつ十分摘果を行ふときは美大なる果を得べし。其の他黄金郁（よね）・桃（もも）・西瓜（すゐくわ）李（もも）等あり。○**ブラッドシヨー**　樹強く豐産なり、果實大にして柔軟多漿芳香あり。○**グリーンゲージ**　果皮暗黄色にして果肉厚く、核子小さく、味甘美なり。秋季成熟す。

一、巴旦杏
二、グリーンゲージ



樹性強健にして能く寒氣に堪ふものなれば、晩霜の防備を要せず。土質も選ぶことなけれども、壤土は其の最も適地なり。

蕃殖

蕃殖法は切接・芽接によるべく、砧木は寒地にては實生李砧を用ひ、溫暖にして輕鬆の地にては桃砧を用ふ。何れも一二年生砧を可とす。剪定其の他は梅に倣ふべし。また果は袋にて被ひ、以て蟲害を防ぐを要す。

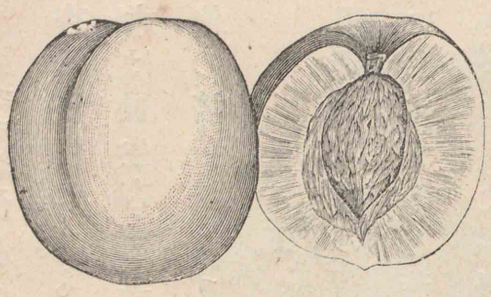
用途

四　杏（あんず）

杏はその花を賞すべく、果實は生食し、又糖藏・罐詰・乾果及びジヤム・菓子等を製すべし。核子は藥用に供し、材は器具を製す。

品種

品種は、在來種には良種少く、洋種には甘味多漿にして且熟期早き良種多し、故に洋種を栽培するを良しとす。



アーリーゴールデン

アーリーゴールデン　小果圓形にして果肉橙黄色なり、甘味に富める早熟種なり。○**ラージアーリー**　大果にして肉厚く、核子離れ易し。其の他ヘムスケルク・ピーチ・セントアン

ブロイズ等、何れも本邦に適したる良種なり。

杏は實生にても劣變すること少けれど、接木によるを宜しとす。砧木は實生杏・桃・李等にて切接・舌接・芽接等を行ふべく、定植・剪定其の他の培養法はすべて梅に倣ふべし。

櫻桃の品種

五　櫻桃及び朱櫻

櫻桃は普通の櫻とは種類を異にし、花は美ならざれども、果實は大にして甘味と芳香とを有し、他の果實の未だ熟せざる夏季に成熟するが故に一層珍重せらる。

アーリー・パープルギーニー　最も早熟にして肉質柔軟・味佳良なり。○**ブラック・タータリアン**　中熟にして肉質稍〻堅く、味甘く芳香高し。○**ライン・ホルテンス**　晩熟にして肉質柔軟、酸味あり。

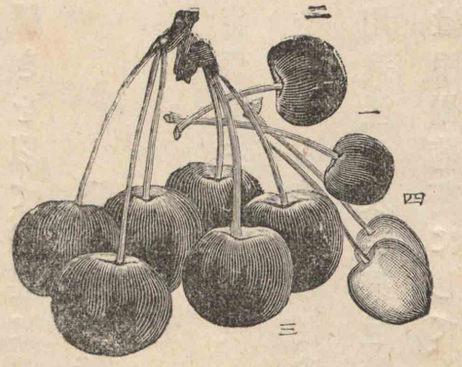
右の外ガバーナー・ウッド及びエルトン等あり。何れも我が國に適したる品種にして、北海道・山形・福島地方にて盛に栽培せらる。

櫻桃の氣候土質

櫻桃の栽培法

櫻桃
一、アーリー・パープルギーニー
二、ガバーナー・ウッド
三、ブラック・タータリアン
四、エルトン

朱櫻



櫻桃は苹果と同じく寒冷なる氣候を好み、土質は選ぶこと少けれども、砂質若しくは礫質壤土にして排水能き處を宜しとす。

櫻桃の蕃殖法は、實生砧を用ひ芽接によるを最も安全とす、栽培距離は三間位とすべし。通常は長幹或は矮性に仕立て、特に整枝を行ふことなく、稀に圓錐形と爲すことあるのみ、但し溢りに剪定するときは、樹脂を生じ、樹勢を衰弱せしむる虞あり。

朱櫻は櫻桃の一種にして、廣く栽培せらる。果實は櫻桃に似て小さく、味亦淡し。土質を選ばざれども粘質壤土はその適地なり。性稍〻陰地を好むが故に、長幹仕立としたる他の果樹の間に栽植するを宜しとす。

朱櫻の栽培

蕃殖法は多く株分によると雖も、挿木・壓條等によるも可なり。密生枝を除き、肥培を行ふ外は、栽培に手數を要することなし。

採收

熟期を計り、果梗の附著せる儘にて採收すべし、果實は貯藏に堪へ難きを以て、需要に先だちて採收するを可とす。

第七章　漿果類

一　葡萄（ぶだう）

用途

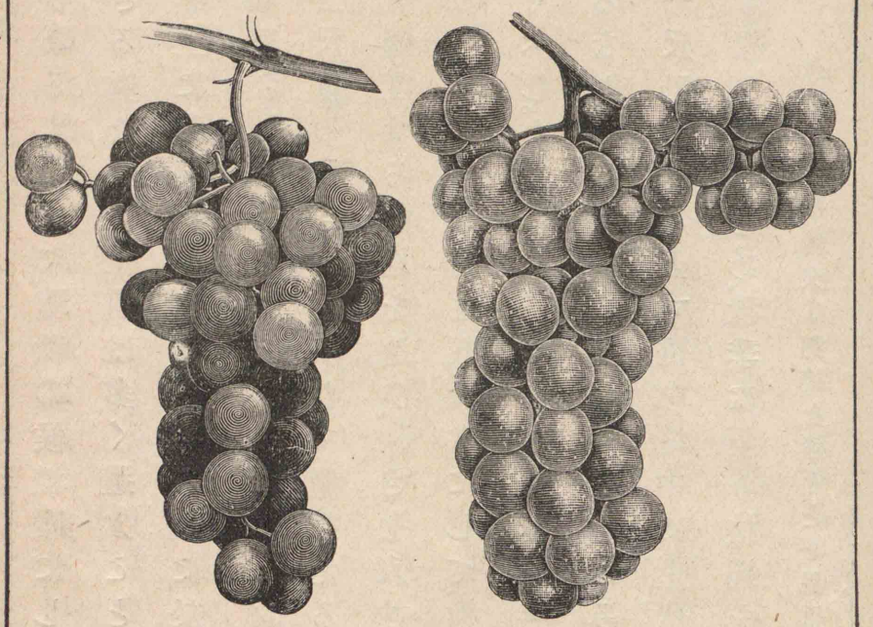
葡萄は生食用に供する外、乾葡萄・ジャムを造り、葡萄酒・ブランデーを製する等、其の用途頗る大なる重要果樹なり。葡萄の品種は、其の用途・産地及び果色等により數種に區別せらる。本邦産中有名なるは甲州葡萄にして、果は淡紅色に白粉を裝ひ、風味良好にして生食に適す。また歐洲種・米國種等にも良種多し。

品種

歐洲種・甲州種は品質優良なれど、病蟲害に侵され易く、また果肉と果皮とは分離し難し。

レデーワシントン

ミルス



歐洲種　スウイートウオーター（黄白早熟種）○ゴールデンシャスラ（黄金早熟種）○ブラックハンバーグ（紫黒中熟種）○マタロ（黒中熟種）

米國種は品質中位にして、樹性強健なるが故に栽培し易し。果肉と果皮とはよく分離す。

米國種　チャンピオン（黒早熟種）○ベーコン（黒中熟種）○レデーワシントン（黄綠中熟種）○ダイアモンド（黄白中熟種）○ミルス（紫黒晩熟種）○カトーバ（暗赤中熟種）

氣候

葡萄の栽培は氣候に大なる關

土質

係あるものにて、夏秋の候溫暖にして降雨少く、冬季も寒氣強からざる處なれば、土質は多く選ぶことなし、されど砂質若しくは礫質壤土にして東南に傾斜せる地に於ては最も良品を產す。

蕃殖

蕃殖法は主として挿木・壓條による。挿木は、秋季良き新枝を選み、一二尺位の長さに切取りて、濕りたる土中に埋め置き、翌春に至り、濕氣適度なる肥地を選び、深さ七八寸の溝を掘りて、之に挿し込むものとす。その株間は五六寸にして、挿枝は地上に一二芽を現はしおくべし。かくてよく培養すれば、次年には本園に定植すべき苗となるなり。壓條は適當なる新枝を選み、秋より春までの間に、枝の中頃一尺乃至一尺五寸位を地中に壓伏し、一部の皮を剝ぎて、其の部より根を生ぜしめ、秋季に至り枝端を切去り、翌春定植するものとす。

接木法は切接又は割接を通常とし、品質を改良し又は病蟲害の免疫性たらしむる等、特殊の目的を有する場合に專ら行はる。

栽培

葡萄は新枝にのみ結實することなきものなれば、年々新梢を存し、舊枝を除く樣剪定すべし。されど定植後二年間は其の儘に成長せしめ、三年目より剪定を行ひ、整枝は棚作とすべし。かくて五年目よりは結實するに至るものなり。中耕除草等は他の果樹と同じ。施肥は燐酸・加里等最も必要なれども窒素多きに過ぐれば枝梢徒長し果の成熟後れ且つ風味劣るものなり。

病蟲害

病害　萎黃病・ベト病・白澁病等あり。

蟲害　天牛・フキロキセラ蟲・根虱等あり。後者は最も恐るべき害蟲なり。

採收

採收は果實十分に熟して果梗固く乾き黑褐色となりたる頃、晴天の日中に摘取るべし。

貯藏

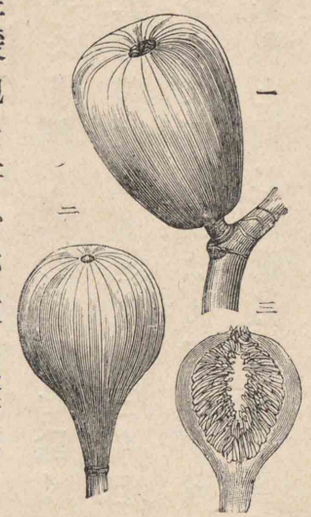
貯藏法は、採收して二三日間風乾したる後、糊又は鋸屑と共に箱に收めて乾燥せる室に置くか、又は特に設け

たる貯藏室内の架上に列べ置くべし。

二　無花果（いちじく）

用途　無花果はその果實甘くして、生食用とし、又ジャム・乾果等を製す。乾果に製したるものは表面に白粉を被り、恰も白柿の如く、味も亦美にして、貯藏に堪ふ。

品種　品種は、在來種には良好のもの少く、洋種には品質優良のもの多し。



一、ホワイトゼノア　二、ブラックフイッグ　三、同上の内部

ホワイトゼノア　果大にして肉柔軟、黄白色にして甘味・芳香に富む。○**ブラウンターキー**　果皮褐色、果肉紅色、甘味に富む最良種なり。○**ブラックフイッグ**　果皮紫黑色、果肉深紅色にして、柔軟甘味なり。

氣候土質　性暖地を好むが故に、寒地には生育し難し。土質を選ぶこと少けれども、稍〻濕潤なる肥沃の壤土に最も適す。

蕃殖　蕃殖法は接木または實生によることあれど、通常は壓條と挿木とによる。壓條となすには、新枝を彎曲壓伏して葡萄の如く行ふべし。又挿木は主に一年生の新枝を用ひ、穗の長さは凡そ五六寸とし、栽植距離は二三間とするを普通とす。

採收　無花果は通例一年に二回果實を結ぶものにて、夏果は前年生の枝に、秋果は其の年の新枝に生ず。されば濫りに剪定を行ふべからず、ただ根元より生ずる萠芽は除去するを要す。施肥は多量を要することとなし。

生食用とするものは、果頭の裂開するを待ちて採收すべく、乾果用に製するものは、稍〻早く收めて陽乾すべし。

第八章　乾果類

一　栗（くり）

用途　栗は樹性強健にして、其の材は土木用として重要なり。果實は食用に供し、乾果・罐詰・菓子に製する等、用途甚だ廣し。

品種　丹波栗　果形大にして味淡泊なり。(晩熟種)○土用栗　果形中大にして豐産早熟なり。○柴栗　果形小なれど味前二者に優れり。

其の他米國種・歐洲種等に良種あり。

風土　性寒暖の氣候に堪へ、土質は壤土に最も適す。

栽培　蕃殖法は專ら實生による。春季床を設けて播種し、二三年目に他の苗圃に植ゑ換へ、後本園に定植すべし。栽植距離は三四間にて可なり。栗は舊枝の上端に生ずる新梢にのみ結果する性あるものなれば、濫りに剪定を行ふべからず。肥料は晩秋一回堆肥・下肥等を施す位にて足る。

採收　果實は殼皮赤褐色を呈して破るゝ頃、これを收むべし。

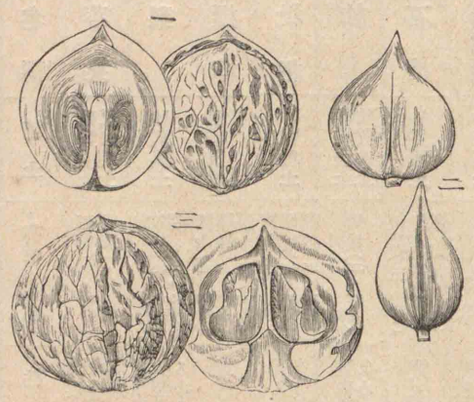
用途　胡桃の仁は油分及び蛋白質に富む。以て菓子を製し、或は料理用に供すべし。又材は器具を造るに用ひらる。品種には鬼胡桃・姫胡桃・手打胡桃等あり。

品種

風土　胡桃は多く冷涼の氣候を好み、土質は稍濕潤なる壤土に適す。

蕃殖　蕃殖法は實生または接木による。實生は栗に準ずべく、接木は切接・鞍接を宜しとす。胡桃は雌雄異花にして、雌花は前年生枝梢の頂端に生じ、雄花は葉腋に現はる。故に剪定を行ふことなく、又栽植は成るべく數種を混植するを可とす。

採收　果實は通例十月頃採收す。



一、鬼胡桃
二、姫胡桃
三、手打胡桃

果樹類栽培一覧表

名稱	適土	蕃殖と時期	砧木	栽植距離	剪定期	整枝法	肥料	採收期	患害
苹果	砂質壤土又は壤土	切接（三・四月）芽接（八月）	山梨・ぼけ・林檎・海棠	方二間	三月	圓錐形圓頭形	堆肥・木灰・過燐酸石灰	七月乃至十一月	腐爛病・蚜蟲・綿蟲・介殼蟲・銹病・シングヒムシ・天牛・ヨコバヒ
梨	砂質壤土	切接（三・四月）芽接（六・七月）	實性梨・山梨・まるめろ	方二間	三—六月十二月	棚仕立・長幹仕立・カンデラーブル	同右	同右	赤星病・黑斑病・腐爛病・蚜蟲・介殼蟲・シングヒムシ・天牛・象鼻蟲
榅桲	腐植質埴土	挿木（三・四月）壓條（三・四月）接木（三月下旬）	實生木	方二間	三月十二月	長幹仕立	同右	十一月	煤病・綿蟲・蚜蟲・天牛
枇杷	砂質壤土	實生（三月）切接（三・四月）割接（三・四月）	實生木まるめろ	方二・三間	夏（徒長枝密生枝のみ）	長幹仕立	同右	六月	天牛
柿	砂質壤土粘質壤土	切接（三・四月）	實生柿まめがき	方二間	十一月	長幹仕立	堆肥・木灰・燐酸石灰	九月十月	煤病・金龜子・イラ蟲・蛤蟆・蒂蟲
石榴	砂質壤土	切接（三・四月）挿木（三・四月）壓條（同上）	實生木	九尺	春・秋（徒長枝のみ）	自然形	堆肥・人糞尿	九月	
柑橘類	砂質壤土	切接（三・四月）	枳殼（ゆず）	方二間乃至三間	四月六月	圓頭形	堆肥・魚肥・木灰・人糞尿・過燐酸石灰	十月中旬乃至五月	煤病・サウカ病・蚜蟲・エガキ蟲・鐵砲蟲・介殼蟲
櫻桃	砂質壤土礫質壤土	切接（三月）芽接（八月）	實生木山櫻	方三間	二月三月	長幹仕立圓錐形	堆肥・人糞尿・過燐酸石灰	五月六月	葉捲蟲・プランコケムシ・介殼蟲
桃	砂質壤土	切接（三・四月）芽接（七・八月）	實生桃・李・杏	方二・三間	十二月三月	盃狀仕立・扇狀仕立・カンデラーブル	同右	七月八月	縮葉病・腐敗病・蚜蟲・シングヒムシ・チョツキリムシ・毛蟲
杏	砂質壤土	實生（三月）切接（三月）芽接（九月）	實生杏・李・梅・桃	方三・四間	十二月	自然形盃狀仕立	同右	六月七月	介殼蟲・プランコケムシ
李	壤土	同上	實生李・桃	方三・四間	二月	同右	堆肥・油粕・干鰮	七月八月	象鼻蟲・介殼蟲・果蠹蟲・金龜子・蚜蟲・ケムシ・天牛

梅	壤土	實生（三・四月）切接（三月）挿木（三・四月）	實生梅・李・杏・桃	方四・五間	春・秋（徒長枝密生枝のみ）	自然形盃狀仕立	堆肥・人糞尿・過燐酸石灰	七月	ウメケムシ・ミノムシ・蚜蟲・介殼蟲
葡萄	砂質壤土礫質壤土	挿木（三・四月）壓條（秋より春迄）		方二・三間	十一月十二月	棚作	酒粕・米糠・過燐酸石灰・木灰・骨粉	八月九月	萎黃病・白澁病・ベト病・フヂロキセラ蟲・烏蠋・天牛
無花果	肥沃なる壤土	挿木（三・四月）壓條（七月）		方二・三間	三月	自然形	鳥糞・堆肥・草肥	八月十一月	天牛・金龜子
須具利	同右	挿木（三・四月）壓條（七月）		畦間六尺株間三尺	十二月二・三月	叢狀形	同右	七月八月	毛蟲・介殼蟲
懸鉤子	壤土	挿木（九月）株分（九・十月）		畦間六尺株間三尺	八月九月	自然形	堆肥・油粕	六月七月	蚜蟲
栗	砂質壤土	實生（二・三月）接木（三・四月）	實生栗	方三・四間	三月四月	自然形	堆肥・人糞尿	九月	金龜子・蚜蟲・シラガタラウ（ケムシ）・天牛
胡桃	壤土	實生（三月）切接（四月）	實生木	方三・四間	三月四月	自然形	同右	九月十月	介殼蟲

第四篇　花卉篇

第一章　花卉の栽培

蕃殖法

花卉を蕃殖せしむるには、專ら實播法及び株分・根分法によるものにして、一二年生の花卉は、實播法により苗床に播種してのち移植すべく、多年生の花卉は、實播法の外株分・根分法によるものあれど、また壓條・挿木法によるものもあり。

培養土

花卉は排水よき砂質壤土に適す。されど特に其の土性を改良する爲に培養土を作るを良しとす。培養土とは壤土五分と細土二分と腐土三分とを混じて地平より三四寸高く盛り上げ、畦幅約五尺長さ隨意に均らしたるものをいふ。

腐土

腐土を作るには、木の葉・雜草などを乾かして燒き、その火の未だ全く消えざると き、人尿または魚鳥の洗ひ汁、油粕汁の能く腐りたるもの等を灌ぎて混合し、これに馬糞を加へてぬれ蓆などにて被ひ、再三切返しを行ひ、十分腐熟せしめたる後、粉末となして篩ふべし。

以上のものに更に糠・過燐酸石灰・油粕等を加へ腐熟せしめたるものを寒練と稱す。花卉の肥料として最も必要のものなり。

寒練肥料

花園

花卉を花園に栽培して切花となすには、別に配置に注意するを要せざれども、花壇を設くる場合に於ては、開花の季節・花形・色彩・姿勢等によりて配置を定むべし。また鉢植として賞觀するには、花卉の種類、その時季等に注意するを要す。

花壇

鉢植

第二章　花　壇

花壇を設くるには、いふ迄もなく花卉を主體となすものなれば、好地位を選び、日光の透射・風通し等に注意し、開花の季節を考へ、必ず培養土を用ふべし。花壇の形式は左の如し。

一、模樣花壇　花壇の形を模樣式に造る法にして、主に大花壇に適

す。花卉は丈低き種類を選び、花色を配置よく調和せしめて、風韻高く艶麗殊に深からしむべし。

二、彩色花壇　短期の花壇、小區劃の花壇等に行はる。同期の花卉を色彩整然と植込むものにして、壇地の現はれざる迄に花葉を繁茂せしむるを要す。

三、リボン花壇　この花壇は垣また壁などに沿ひて設くるに適す。この式は長期に植付くるものなれば、後方には花のみに限らず葉の見事なる丈高きものを植込み、前方には低きものを選び、配置よく繁茂せしむべし。

四、ピラミット花壇　庭園の中央等に設くるに適す。この式は中央に、丈高き種類を植込み、次第に低きものを以て取圍み、恰も五彩の圓錐形に作り上ぐるものなり。

右の外、同一花卉にて英字形花壇を造り、または高く種々の形を造る等、それぞれ適當に考案すべし。

第三章　花卉の移植及び管理

花卉類の苗を移植するには、曇りたる日または夕刻を選び、苗に多く土を付けて掘取り、苗と苗との株間は成るべく遠きに過ぐる程の距離を保たしめて定植し、定植後二三日間は強き日光に當てざる樣簀の如きものにて被ふべし。而して朝夕怠らず灌水すべく、根付きたる後は二週間毎位に曇天を選び薄き肥料を施し、雜草を去り、且表土の固まらざるやう注意するを要す。

其の他、摘心・摘芽及び莖・枝を剪定し、中耕を行ひ、病蟲害の防除等、常に其の管理を怠るべからず。

第四章　花卉の肥料

花卉の肥料は、一般の園藝作物の肥料にて可なれども、通例主として堆肥・及び油粕等を細碎して十分に腐熟せしめたるもの、又は寒

肥料

栽植用器具・小形除草器は第一章第十一章中にて輕便なるものを使用すべし

練肥料を用ふ。其の他下肥・牛馬鶏糞・魚肥・骨粉・過燐酸石灰等も大いに賞用せらる。何れも稀釋して苗の時期に於て屢〻施し、生育後には多く施さざるを宜しとす。これ肥料及び灌水多きため濕潤に過ぐるときは莖・葉のみ徒に成長して花蕾を結ぶこと少きものなれば

過肥過濕の害

なり。要するに、花卉の施肥は止肥にさへ注意すれば一般に容易なるものなり。

油粕　油粕は、花卉栽培には殊に必要缺くべからざる良好の肥料にして、容積少く取扱至つて至便にて且效顯甚だ著し。之を鉢植に施用するには必ず水に混じて用ふべし。

白水　白水を洗ひたる水を白水と稱す。腐熟せしめたるものは花卉の肥料として頗る有效なり。

下水　庖厨の洗ひ水及び風呂の水などは、何れも花卉の灌水用に施用して可なりとす。

溝泥　厨下の溝泥、井戸尻の汚泥等は、花卉培養上用土ともなり、肥料ともなる必要のものなり。

第五章　花卉の鉢植

植鉢

花卉を鉢に植ゑて賞觀用とするには、必ず美麗なる鉢を用ふべからず、先づ素燒の鉢に植ゑて生育せしめ、後他の鉢に移すか、又は素燒鉢のまゝ二重に嵌挿すべし。而して鉢植となすには必ず培養土を用ふべし。培養土は花園のものよりも更に油粕及び堆肥を一割以上增加せしむべく、また花卉の種類により鉢に直播するものもこの培養土を用ふべし。

培養土

鉢植法

鉢植となすには、先づ底穴を介殼または鉢の破片にて塞ぎ、底の方一二寸は瓦の小片・礫等を入れて排水を助け、其の上に培養土を盛りて苗を移植すべく、移植終れば十分水を灌ぎ、二三日間日蔭に置き、能く根付きたる後、日當りよき場所に移すべし。鉢は初めは小なるものに植込み、次第に大なるものに植換ふるを宜しとす。

鉢植の管理

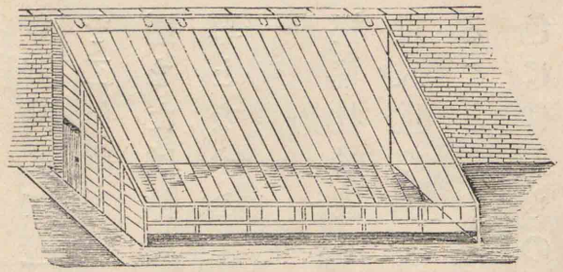
鉢に種子を直播するには、成るべく數粒を下種し、發芽後生育の良きものを殘し、他を間引くことに注意すべし。

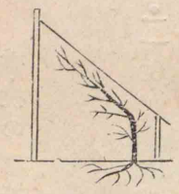
鉢植の花卉にて花の落ちたる後は、種類によりて花園に下すか、又は排水良き地を選びて鉢と共に嵌挿して地面と鉢の高さとを平等になし置くべし。

又數年間鉢植として生育せしむるものは、毎年春季發芽前、鉢より拔取りて周圍の土を搔落し、かつ周圍の細根又は舊根を切取りて鉢に入れ、培養土の良く篩ひたるものを十分に壓入すべし。この法は甲鉢より乙鉢に移植する際にも行ふを良しとす。

第六章　促成と溫室

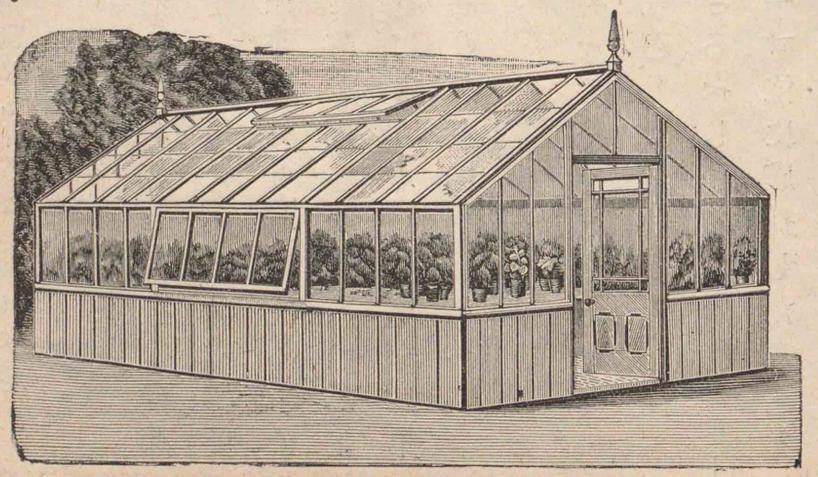
促成培養は自然の季節に拘らずして開花・結實せしむる法にして、其の方法の最も完備せるは、溫室を作り、ガラスを以て四方及び屋根を圍ひ、室内には鐵管によりて蒸氣を通じ、常に一定の溫度を保たしむる裝置なり。この裝置は熱帶の植物をも培養することを得





れども、多大の經費を要するが故に一般には望み難し。されば簡單に促成を行ふには、蔬菜の軟化室を利用するか、又は南側の緣下を掘下げ、三方を圍ひ、南面にガラス障子を設け、或は南面の塀によりて片屋根のガラス室を設け太陽熱を利用する等は、實用的にして且必要のことなり。

溫室または後者の設備をなすときは、花卉を始めとし、梅・



ナンカ(4) アヅーリフ(3) スンシヤヒ(2) ーネモネア(1)
ムーユチータスナ(8) ラムリプ(7) プツリュチ(6) アチルヨシッエ(5)
ムナリチンア(12) アリラネシ(11) ーピトゥウス(10) アウルライガ(9)
スクッロフ(13)

杏・桃の早咲または鉢植となせる葡萄・櫻桃等を結實せしむることを得べし。

第七章　一・二年生花卉

一・二年生花卉はおもに種子によりて蕃殖せしむ。春季播種後發芽して其の年中に開花を終りて枯死するを一年草といひ、秋季播種後發芽して翌春より秋季に至るまでに開花を終り枯死するものを二年草といふ。而してその種類によりて、苗床に播種するもの、花園または鉢に直播するものあり。或は培養によりて一年草を二年草となすことあり。または之に反することもあるものなり。

一　松葉牡丹（まつばぼたん）

性狀

松葉牡丹は一年草にして、草姿四五寸、艶美なる花を開く、花には、一重・八重の別あり。色には紅・赤・緋・白・黄・樺・絞など、凡そ各種の色を備ふること、この植物のごときは他に多からざるべし。其の莖の色も花色に伴ふもの多し。四月頃苗床に播種し、一寸位に成長したるとき

栽培

寫眞畫第(4)圖

種子の採收

著色挿畫第(12)圖

花壇或は鉢に移植す。その性強健なるが故に、莖を切りて土に挿せば數日にして生育す。かくて培養を怠らざれば、夏・秋の間絶えず開花し、晴天には殊に美觀を呈す。

二　百日草（ジンニア）

百日草はまた浦島草ともいふ。一年草なり。草姿約二尺、赤・紅・黄・白などの花を開き、花期長きを以てこの名あり。春三四月頃床に播種す、或は花園・鉢に直播するもよろし。かくて六月初旬迄に二三回水肥を施すべし。

種子を採收するには、第一番に開花せるものより收むべし。すべて花卉類の種子は之に倣ふを宜しとす。

三　桔梗撫子（フロックス）

桔梗撫子は一年草にして、草姿約一尺、花は白・紅・紫・絞・覆輪等あり。其の花瓣の突出して星形をなせるものを星形桔梗撫子（スターフロック

スターフロックス

スことといふ。

秋播

春彼岸の頃床播にし、一二寸に成長したるとき、日當り能き花園に移植し、一二回施肥し、また摘心を行ひて多く分枝せしむれば、六月頃より開花するに至る。また二年草として秋季播種し、冬季は溫地を選びて栽培するときは、翌夏美大なる花を得らるべし。

四　牽牛花（あさがほ）

特性

牽牛花（朝顏）は蔓生の一年草にして、早天に花を開き、露の干ぬ間に萎むを特性とす。故に一名『あさなぐさ』ともいふ。もと山野に自生せるものを人力によりて改良せられ、今や花形の變種・葉姿の形狀等、實に千餘を數ふるに至る。

品種

花形の變種には牡丹咲・梅咲・櫻咲・撫子咲・菊咲・大覆輪・大輪等あり、花の直徑四寸以上五寸に達するあり。葉姿は斑入葉・孔雀葉・八つ手葉・柏葉・桐葉・縮緬葉等甚だ多し。

栽培

牽牛花は四月中旬より五月初旬迄に日當り能き地を選び、培養土

一、花ある蔓枝
二、花蕾
三、種實

鉢植

を十分ならしめて種子を播下し、約二週間にして貝割葉より本葉二三葉を生ぜし頃、丁寧に移植を行ふべし。この際鉢植とするも宜し。この移植は苗の徒長を防ぎ、花の育生に利あることなり。故に鉢に直播したるものにても、この時期に鉢の入れ換へを行ふを要す。かくて能く根づきたる後は一二回稀釋の肥料を施し、本葉三四枚生ぜし頃摘心して數枝を出さしめ、花蕾を有する枝二三に達すれば、支柱を立てて之に纏はしむべし。支柱は櫓作・船形作・セセッション作等種々に考案するを要す。而して二尺程に伸長せば頂芽を摘除して蔓の伸長を止むべし。

蔓の五六寸となりしとき摘心を行ひ、また葉際より枝蔓を出せば摘去して一蔓

一本のみを愛育し、花蕾を生ずるに至れば一つおきに摘除し、全枝の花蕾を十二以下とせば大花を得べし。また鉢植となしたるものは灌水に注意し、花棚に陳列するには午後より日光の直射を受くる場所を選ぶべし。

灌水法

灌水は土用中は二三回、其の他は日中または日没に一回給水すべし。すべて花卉の給水は河川の流水を可とし、井水・池水等なれば日向水とすべく、或は風呂の止水・白水等を宜しとす。

著色挿畫第(8)圖

五　金蓮花（ナスターチユーム）

金蓮花は其の花の凌霄花に似たるを以て「のうぜんはれん」ともいふ。葉は蓮に似て小なり。蔓生の一年草なれど、また矮生のものもあり。花色は赤・黄・絞・飛白・條入等ありて甚だ艶麗なり。四月頃床に播種するか又は鉢に直播し、後適宜の場所に移植すべし。花期長く、五月末頃より降霜の頃迄に及ぶ。

性強健にして、瘠地にても良花を開き、栽培甚だ容易なり。また挿木によりても蕃殖せしむるを得べく、秋季播種して翌年開花せしむれば美大なるものを得べし。

一重の宿根性

六　天人菊（ガイラルヂア）

天人菊は草姿約一尺の一年草にして、黄と赤褐色との染別けある花を開く。花に一重と八重とありて、一重のものは宿根性なれど八重のものは之に反す。かつ一重のものは春秋二季に播種することを得れども、八重のものは春四月頃播種するを得るのみなり。八月頃より九月下旬頃迄花の絶ふることなし。

八重の春播

著色挿畫第(9)圖

性強健なるを以て、肥料は薄き液肥にて足り、栽培も甚だ容易なり。

著色挿畫第(5)圖

七　花菱草（エッシヨルチア）

花菱草は草姿約一尺の二年草にして、花は白・黄・淡紅の三種ありて甚だ美麗なり。栽培は秋九月頃花園または鉢に直播すべし。性移植及び卑濕の地を好まざるものなり。肥料は一ヶ月に二回程づゝ薄

き液肥を施し、鉢仕立のものは間引くほどに多く下種すべし。

八　罌粟と虞美人草

性狀

罌粟は二年草にして草姿四五尺に伸長し、五六月頃より赤・白・黄・紫・緋・絞等の鮮麗なる大輪花を開く、之に一重・八重の二種あり。殊に八重は麗しきこと牡丹の如く、甚だ美觀を呈す。罌粟の種子よりは重要なる藥料を得べし。

性狀

虞美人草は（**ひなげし**・美人草・麗春花などともいふ）罌粟の一種にして、草姿約一尺、莖・葉に毛を生じ、花は小なれど、各色のもの及び紅に白の覆輪などあり、八重・一重いづれも愛らし。

栽培

栽培は秋の彼岸頃園地を整へ畦を設け、之に種子を條播とすべし。冬期は霜除に注意し、翌春に至り間引を行ひ、一二回施肥するを要す。虞美人草は、極めて寒氣を恐るゝものなれば十分に保護を加へざるべからず。又此等の種子は頗る微細のものなれば、播種すべき

微細種子の取扱

土壤は極めて細かに粉碎して能く均らし、また被土は篩を通して薄きを宜しとす。なほ土の乾かざるやう藁の類にて被ふべし。すべて小種子のものはこれに倣ふを要す。

九　コスモス（はるしやぎく）

性狀

コスモスは『おほはるしやぎく』とも稱する一年草にして、花は頗る美にして直徑二寸大、白・淡紫・紅色等ありて何れも一樣に黄金色の蕊を有し、芳香馥郁として西洋草花中の逸品なり。

栽培

春三月頃溫床に播種するか、又は四月頃花園に直播し、かくて本葉二三葉を生ぜしとき他の床地に假植し、後二三寸ばかりに成長せし頃、株間一尺を距てゝ園地に定植すべし。定植後二三回液肥を施し、又日向水等を與ふれば、七月頃に至り俄に成長するが故に、一二度摘心を行ひて數條の枝梢を出さしむれば、秋風寒き十一月頃我が國の名花たる菊花と色を爭ひ、春を競うて開花するに至る。

一〇　其の他の一・二年草類

名稱	實播場所	植込期	開花期	特徴
紫羅欄花（あらせいとう） 着色挿畫第(11)圖	床・鉢	九月下旬	四月	一・二年草と多年草とあり。花は紅・白の二種なれども、洋種にはなほ紫・黄・淡褐の一重・八重ありて穂狀に開く。芳香種もあり。
シネラリア	鉢	六月乃至九月	四・五月	多くは鉢植とし、強き日光・雨等を遮りて培養せば、美麗なる白・紅・紫・覆輪・絞等の花を開く。
美女櫻（バーベナ） 着色挿畫第(11)圖	床・鉢	九月	五月	二年草・多年草あり。花は梅形にて紅・白・黄・紫・絞など小花なれど頗る美なり。
翠菊（えぞぎく）	床	四月	六・七月	草姿・花形とも菊に似たれども佳香なし、花色は紫・紅・白または黄・青・赤色の花を開く。洋種には矮性のものあり。
麝香連理草（じゃかうれんりさう）（スウヰートピー） 着色挿畫第(10)圖	床・鉢	春秋	六月	蔓性の二年草なり。豌豆に酷似し、白・紅・桃・絞などにて芳香を有したる花を開く。矮性の一年草なり。
日向葵（ひまはり）（サンフラワー） 寫眞挿畫第(11)圖	直播	三月下旬	七月	草姿八九尺に達し、橙黄色にて徑六七寸の大花を開き、太陽に向つて廻轉するを以てこの名あり。八重咲の矮性種もあり。
木犀草（もくさいそう）（レセダ）	直播		七月	高さは七八寸なれど横張する性ありて三四株にて一坪を占領す。花には赤・黄・褐色等ありて芳香馥郁たり。
ロベリヤ	床・鉢	四月	七・八月	一年草にて三四寸なれど長性は長年草にて二尺以上あり。性日光の直射を好みて水分を望む、白・青・紫・藍等の花を開く。
貝細工（かひざいく）（ストローフロワー） 寫眞挿畫第(3)圖	床	春秋の彼岸	六月より九月	草姿約三尺、黄・紅・樺等にて瓣の固き花を開き花期甚だ長し。帝王貝細工は花大にして一重・八重あり。
鳳仙花（ほうせんくわ）	床・直播	三月	七・八月	草姿二三尺、花は紅・白・絞等にて一重と八重とあり、性溫地を好む。洋種にはなほ黄・紫色等の花あり。
小町櫻	床・直播	春秋の彼岸	夏より秋	草姿約二尺、恰も櫻に似たる淡紅色・白色の小花を簇生し、花期頗る長し。莖には粘液を有し、小蟲之に觸るれば飛ぶこと能はず。
金雞草（きんけいさう）	床	三月	七・八月	一年草と多年草とあり、花は黄色にて暗褐色の蕊を有する美大の花を開く。矮性種には一重・八重等あり。

(1) 菊　(2) みざあ　(3) 貝細工　(4) 百日草　(5) 千鳥草　(6) 撫子
(7) 桔梗　(8) ぎふあひ　(9) の花んせう　(10) く　ず　(11) ひまわり草

着色挿畫第(12)圖

千日紅	床	三月	夏より秋	草姿二三尺、莖は秋海棠に似て細く、莖頭に紅・白・紫等の花を球形に開く。花期甚だ長し。
アンチリナム	床・鉢	春秋の彼岸	春・秋	長性・矮性の二種あり。花は紅・黄・絞・牡丹色等にて穂狀に開く。秋播は早春、春播は七月より秋末迄開花す。
萬壽草	床	四月	秋より冬	草姿約二尺、花は黄・樺等にて、八重あり一重あり、線入・斑入ありて甚だ美麗なれど、一種の臭氣を有す。

第八章　多年生花卉（宿根草の部）

多年性花卉は一度種子によりて活著し、花を開き種實を結び、後莖も葉も枯死すると雖も、地下に根を存して翌年更に莖・葉を生じ花を開くものにして、これを宿根草といふ。また球根を存して次第に肥大するを球根生多年草といふ。

宿根草は概ね實播・挿木・根分等によりて蕃殖せしむ、また同一種類にして一二年花卉のものもあり。

一　櫻草（プリムラ）

着色挿畫第(7)圖

櫻草は、もと山野に自生せる宿根草にして、花は紅・紫色のもののみなりしが、次第に改良せられたると、かつ容易に人工媒助を行ひ得

るとを以て、今や花形・葉形ともに珍らしき良種を産し、牽牛花の如く種々の名稱を附せらるゝに至れり。その多くは鉢植として觀賞せらる。

蕃殖

蕃殖は壓條（とりき）または株分によるその法、土に接せる枝の下面に小なる傷（きず）をつけ置けば、直ちに根を生ずる故に容易に壓條を行ひ得べし。又根元の小芽を株分するも宜しとす。十月頃鉢に植ゑ込み一二回施肥すれば、翌年四五月頃開花す。されど之等の法にては次第に惡變するものなれば、別に實生によりて新種を得るに勉むべし。

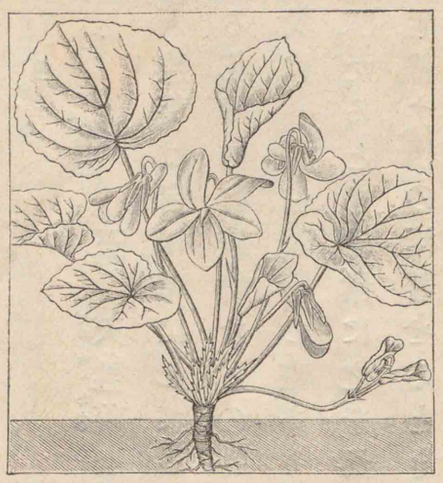
播種法

春・秋の彼岸頃に床に下種し、本葉を生ぜば培養土を盛れる鉢に移植すべし。かくて時々液肥を與へ、夏は冷涼なる處に置き、冬は暖所に置けば、三年目には開花するに至るものなり。

二　菫（すみれ）（バイオレットとパンジー）

品別

菫はこれを大別して香菫（にほひすみれ）（バイオレット）と三色菫（パンジー）の二種とす。



香菫は、その花の美と、香氣の高きとは洋種中の逸品と稱すべく、殊に白色の八重、紫色の一重・八重等は最も優秀にして、早春より開花す。

三色菫はまた遊蝶花（いうてふくわ）ともいふ。香氣を有せざれども花大にして一花中に黄・紫・白などの三瓣を有し、または白・緋・絞などありて甚だ濃艶（のうえん）なり。三月頃より數花叢開（さうかい）するを以て、鉢植及び花壇に植うべし。

蕃殖

香菫の蕃殖上最も注意すべきは土を選ぶにあり。故に土は培養土に更に下肥等を加へ、軟かにして輕鬆（けいしよう）ならしむべく、實播・株分法を行ひ鉢植となすにも皆之を用ふべし。種子は春秋の彼岸頃床に播種し、二三葉を生じたるとき他の床に假植し、後、花園または鉢に定植

移植の必要

するものとす。

移植は必ず春秋の二季に行ふべし。春季の移植は株際に新株を生じ居るを以て株分する爲、秋季の移植は夏季中に蕃殖したる株に翌春花を著かしむる爲の用意に必要なり。

三色菫は砂勝ちの土に適し、栽培は香菫に同じ。但し晩夏嫩枝に挿木法を行ふときは苗を得べく、排水不良地の外は到る所容易に生育す。

性狀

蕃殖

挿木法

三　天竺葵（ゼラニューム）

天竺葵は宿根草にして灌木狀をなし、專ら鉢植によりて栽培せらる。花は白・紅・絞・緋などの一重と八重とありて四季絶ゆることなく、葉にも褐・白・黄等の斑あり。蕃殖は挿木法によるものにして、莖の伸びたるときは常に之を切取りて砂交りの土に挿植すれば容易に活著す。根の活著せるときは常に日當りをよくし、土を乾き目とな

し、時々薄き肥料を施すべし。冬季は暖所を選ぶか、または室内に入れ置くか、或は木框・溫室等にて寒氣を防ぐを要す。

性狀

蕃殖

種子を播下して培養するときは、種々の變りたる珍種を得るものなり。

着色挿畫第(4)圖

四　檀特（カンナ）

檀特は草姿三四尺に達し、葉は芭蕉の如くにて小さく、莖を卷きて生じ、莖の周圍約四寸に至る。花莖は六月頃に莖頭を抽きて穗の如く出で、黄・樺・淡紅・絞等の大なる花を開く。

蕃殖は實播及び株分法による。この種子は果皮硬き故に、春彼岸後、一晝夜ほど微溫湯に浸し、後、床に播種し、三四葉出づるを待ちて移植すべし。株分は地下莖により分植するなり。

檀特は熱帶の産なれば、寒氣を恐るゝこと最も甚だし、故に冬季は南向きの地に植ゑて其の上に厚く藁の類を覆ひ置くべく、寒地に

ては地下莖を掘り上げ、濕氣なき籾殼又は乾砂中に埋めおくを宜しとす。

五　花菖蒲・溪蓀・燕子花・鳶尾草

花菖蒲は水澤を好む宿根草にして、花は白・紫を普通とすれども、青・赤褐・青藍・絞の一重・八重などその種類夥し。五月頃より咲けども、優良種は六月開花す。蕃殖は實播・株分法による。實播は春季陸上の床に播種し、朝夕灌水を怠らず二三寸に成長せる頃施肥し、入梅の頃、約一尺の距離に移植すべし。株分は落花後掘取りて手にて分ち、丁寧に分植すべし。本圃は濕地または、池沼中に畦を作り、二三尺を隔てゝ條を切り、其の間に水を湛へ、下肥・油粕等を多量

花菖蒲
一、根と葉
二、花ある莖

に施すべし。冬季は條間の水を悉く排除して藁の類を覆ふべし。

溪蓀は花菖蒲に似たれども、花莖短く、五月頃莖頭に二三花を開く、されど枝を分つことなし。性強健にして、陸地にても能く生育す。花は紫・白・絞などあり。蕃殖は實播・株分法による。實播は花菖蒲に同じく、株分は春の初め芽を有する部分を引き離して分植し、肥培を十分にすべし。栽培は容易なり。

燕子花は水澤を好むものなれども、濕潤なる陸地にも栽培するを得。葉は花菖蒲の如く伸長せずして、溪蓀よりは廣くかつ厚し。花莖は葉よりも短く、紫・白・紅・絞等

溪蓀
燕子花
一、かきつばた
二、あやめ
三、いちはつ

鳶尾草

あり。花瓣大にして六瓣のものあり。四・七・十月に咲く花を四季咲といふ。蕃殖・栽培とも花菖蒲に異ならず。

鳶尾草は全く陸上圃地に栽培するものにして、形花菖蒲に似たれども、葉は幅廣にして短くかつ扁平なり。五月初旬より莖の頂端に花を開く、花色は白・淡青・深紫等あり。落花後株分を行ひ一二度施肥せば、忽ちにして繁茂す。また種子を採收して播下するときは變種を得ることあり。

性狀

六　千鳥草（ラックスパー）

千鳥草は一に飛燕草ともいふ。草姿約一尺、花は白・紅・紫色等にて一重と八重とあり、花形恰も千鳥の如く、燕の飛ぶが如きを以てこの名あり。蕃殖は秋の彼岸頃種子を床に播下し、發芽後一寸ばかり成長したるとき花壇または鉢に移植す。千鳥草の一種に碇草あり。普通種は二年草なれど、中には多年草のものもありて、根分法により

碇草

て蕃殖せしむることを得。土質を選ばず、施肥も魚類の洗汁・白水等にて足る。性強健なれど冬期は霜除け等を怠るべからず。千鳥草は七八月頃開花し、碇草は三月より四月に亙りて花を開く。

寫眞挿畫第(5)圖

性狀

七　菊（きく）

盛夏の炎熱既に去り、花壇の紅白稍〻調萎せるとき、幽逸嵩高なる菊花は芳香を含みて咲き出づるなり。菊は今を去る一千餘年前より栽培せられ、年々歲々培養の效ありて、大輪・中輪・小輪の外、單瓣・重瓣・筒瓣・匙瓣・扁瓣等を生じ、色に黃・白・紫・紅ありて之に濃・淡あり。その品種の多きこと實に數千種の上に出づ。

蕃殖

菊の蕃殖には根分・實播・芽挿・葉挿等あれど、多くは根分法によるものなり。晩秋の頃根元より一二寸の所を切りおくときはやがて萌芽するが故に、春の彼岸頃これを掘りて古根を去り、芽毎に分ちて床地に植ゑ、施肥をなし、五月頃、花園または鉢に定植すべし。

寫眞挿畫第(1)圖

根分・芽挿・葉挿等は母株蕃殖法なり。葉挿は三月頃葉に少しく莖の皮を附著して挿植すべく、芽挿は五六月梅雨の頃に行ふべし。

實播は異種蕃殖法なり。これを行ふには床地に播種するものとす。

菊の栽培には培養土を用ふべく、尙日向水は毎夕に與へ、數回肥料を施すべし。かくて中耕・除草を行ひ、また蚜蟲の驅除は必ず怠らざるを要す。

菊の培養上注意を要するは摘心にして、一輪咲を得んには、苗の三四寸に達したる時、四葉を殘して摘心し、二三の莖を生じたるとき其の中の良好なるもの一本を存して他を摘除すべし。千輪咲を得るには、各莖を存して單に摘心のみを行ふべし。而して花蕾の綻び始むるとき止肥を行ひ、開花後はその北方に圍ひをなし、夜は上方・前方に障子を立てて外氣を防ぐべし。

八　其の他の宿根草類

寫眞挿畫第(8)圖　寫眞挿畫第(7)圖

名稱	蕃殖法	植付法	開花期	特徴
福壽草	株分	十二月	一月三月	早春寒氣を恐れず舊根より花莖を生じて黃色の花を開き、後葉を出す。洋種には紅・白・紫色の花を開くものあり。
シネラリヤ	實播・床根分	九月四月	春秋	草姿六七寸、花は赤・白・紫・覆輪等にて一重と八重とあり、秋季播種は早春、四月播種は秋季花を開く。
金盞花	實播・床	春秋の彼岸	春秋	草姿一二尺、花は黃紅・淡黃に白の覆輪あるもの等にて八重と一重とあり。花形菊に似て最も花壇に適す。
ノンモプリーム	實播・床根分	三月	五月六月	草姿約三尺、早春發芽して純白色の花を開く、この莖を地上五六寸より切取れば再び莖を生じ、花を開く。
檜扇	根分	三月	六月七月	草姿花菖蒲に似て葉廣く、莖に節ありて其の莖頭に小枝を分ちて黃赤色に紫斑ある花を開く。
芍藥	實播株分	三月	六月	艶美なること牡丹に讓らざれど、花も葉も牡丹に似て稍々小さく開花期も後る。五彩の外、一重・八重等種類甚だ多し。
藤	接木（芽接）	春秋の彼岸	五月	蔓生の植物にして年久しきものは恰も木の如し。紫藤と白藤とありて、何れも花穗五六尺に達するものあり。
月見草	實播直鉢		七月八月	草姿三四尺、葉は柳の如く、花は四瓣の鮮黃色にて夏の夕べに花を開き翌曉に萎む。一名待宵草ともいふ。
桔梗	根分	春秋移種	八月	春五月頃芽を出して、白・紫等の花を開く。秋の七草の一種。性強健なるを以て培養甚だ容易なり。
秋海棠	實播直根分	春秋移植	八月九月	草姿二尺に達し、莖紅色、葉は大にして淡綠色、花は海棠に似て莖頭に小枝を分ちて開く。性濕地を好む。
ベコニア	實播・床	四月	八月	洋種の秋海棠にして、花はそれよりも稍々大なるものあり。球根性のものは種類多く一重・八重にて淡紅・白色等あり。
紫苑	實播・床根分	五月	九月	草姿七八尺、葉の長さ約一尺に達す。花は淡紫色にて野菊の如き小花を簇生す。黃色のものを黃苑といふ。

アスター	挿木根分	三月	九月	草姿・花形ともに菊に酷似し、花は紅・白・紫・黄・淺黄等の外線入あり、之等に八重・一重あり。一・二年草種もあり。
鐵線花	實播・床	三月	夏秋	莖は柔靭なれと強く、蕚下に六葉あり莖を抱きて奇觀なり。花は六瓣にて平面に開き美大なり、白・紫・咲　等あり。纏繞植物。
麝香撫子（カーネーション）	實播・床	春秋の彼岸	春秋四季草	草姿二尺以上、花は白・覆輪・紅・條入等にて、一重・八重あり。冬季の外は何時にても播種することを得べし。

寫眞挿畫第(6)圖

第九章　多年生花卉（球根性の部）

一　ヒヤシンス（風信子）

性狀　ヒヤシンスは球根性多年草なり。すべて球根植物は何れも艶美なる花を開くと雖も、殊にヒヤシンスは頗る妍美にして馥郁たる芳香を有し、大いに愛觀すべし。草姿水仙に似て、春三月頃より莖頂に多數の小花群開す。花は青・紫・紺などの一重と八重とあり。花壇または鉢植に適す。

冬季の保護　球根類は多く寒地を忌むものなれば、落花後その葉の黃色となる頃掘取りて蔭干にし、後溫暖乾燥なる室中に乾砂に挿入して貯へ置き、翌春稀薄の液肥に浸して再び園地または鉢に下して培養すべし。されど暖地にては其の儘となし置くも可なれど、木の葉または藁の類を一二寸の厚さに被ひて防寒に注意すべし。

蕃殖　蕃殖は實播・球分法による。實播は播種してより凡そ三年目に至りて開花すべく、球分け根より出でたる芽を著けて分つやう注意すれば、翌年花を開くに至るものなり。

土質栽培　球根類を植込むべき土質は概ね砂壤土を宜しとす。かくて植込み後二三回肥料を施し、開花の前に止肥すべし。ヒヤシンスは常に濕氣を十分に與ふるを要す。

鉢植法　鉢植となすには、排水よき土を鉢に盛り、之に二寸位の深さに植込み、鉢の上部が地平面より一寸ほど出づるやうに土中に埋めて霜除をなし、花蕾の出でたる後、鉢を掘出して止肥をなすべし。又鉢は漸次大なるものに植換ふべし。

二　チューリップ（鬱金香）

性狀　チューリップも亦球根性多年草にして、罌粟に似たる花形をなす。

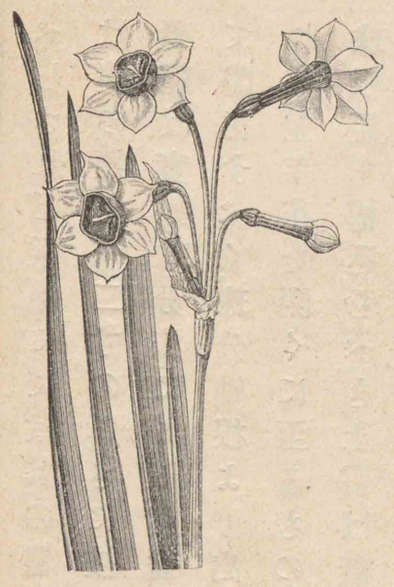
種類甚だ多く、四月より五月初旬迄を開花期とす。花色は黄・白・赤・紫・緋・絞・褐色などの八重・一重あり。種類によりて花形を異にす。

着色挿畫第(6)圖

蕃殖

蕃殖は根分法なれど、實播として新種を得るに勗むべし。栽培は容易にして、花壇・鉢植ともに施肥も少量にて可なるべく、其の他保存法等もすべてヒヤシンスに同じ。球根を植うるは十月中旬頃を宜しとす。

水仙



三　水仙とナーシッサス

水仙は、早きは十二月より新春に亙りて白・黄の八重及び一重などの花を開く。水仙の栽培は砂壌土に培養土を混入し、夏八月頃株分して花園または鉢に定植するを常とす。而して成るべく二三年間は移植せざるを宜しとす。性強健なるが故に防寒容易なり。

唐水仙

唐水仙はこの一種にして、水盤に球根を入れ、下部に砂を敷き、陽光の透射十分なる南窓に置くときは、芳香ある花を賞し得らるべし。

ナーシッサス

ナーシッサスは洋種の水仙にして、佳香ある白・黄等の一重・八重の花を早春に開く。蕃殖・栽培等水仙に同じ。

四　フリージア

性狀

フリージアも球根性多年草なり。三四月頃純白又は黄白色の瀟洒なる筒狀の花を開き、香氣頗る高し。九月下旬頃日當りよき花壇に一寸の距離に、又は培養土を盛りたる鉢に五六球を植ゑ込むべく、冬間の防備は他球根の如くにすべし。開花前迄に二三回と、止肥とを施し、落花後葉の黄變するを度として球根を掘取り貯ふべし。

着色挿畫第(3)圖

栽培

蕃殖

蕃殖は普通株分法によれども、亦種子を播下して蕃殖せしむることあり。種子を播くには砂質土を良しとし、施肥培養に注意すると

きは、翌年開花するに至る。

五　アネモネ

性狀　アネモネは四五月頃、白・紅・紫・藍・絞・緋・桃色等の八重・一重の花を開く。一莖一花なれども、次々に數莖を生ずるを以て花期長く、甚だ美觀なり。花壇または鉢植に適す。栽殖の時季及び防寒・貯藏・施肥等はラリージアに同じ。

（着色挿畫第(1)圖）

蕃殖　普通實播によりて新種を得べく、また地下莖を別けて分株することを得。

六　天竺牡丹（ダーリア）

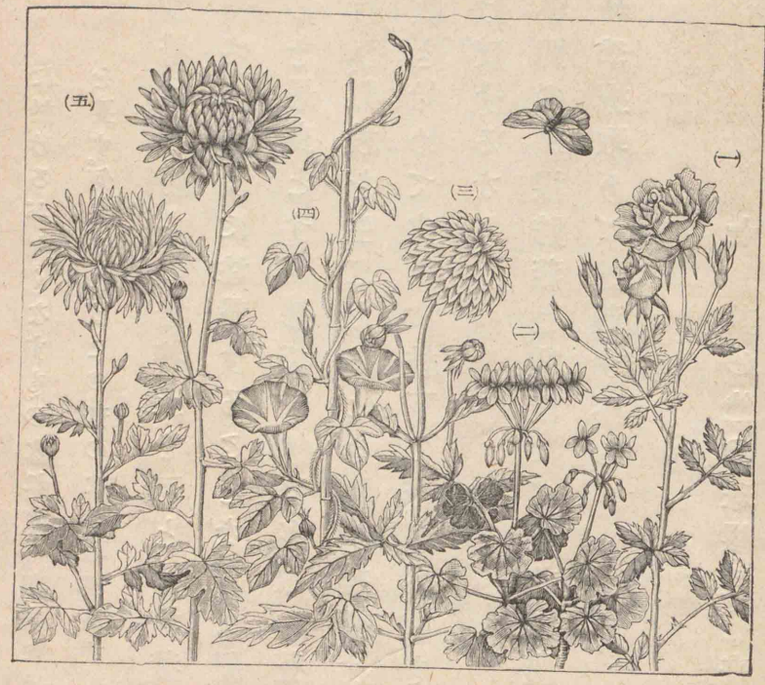
性狀　天竺牡丹は、球根性多年草にして、其の種類の多きと、栽培の容易なると、花期の長きとにより、近來は殆ど菊花にも比すべきほど盛に培養せらる。花には八重・一重の白・紅・紫・黃・樺・絞などありて、美大なるもの、花形の奇なるもの等、實に八百種以上に達す。

蕃殖　蕃殖は挿木・株分共に行ひ得れども、優良なる新種を得るには實播法によるを宜しとす。

實播　實播は豫め培養土を作り、表土を深くし、四月頃之に撒播し、發芽後二三寸に成長せる頃一度假植し、六月頃に約一尺五寸の距離にて園地に定植すべし。普通は二年目より開花す。

挿木法　挿木法は四五月頃枝または根元より發芽せる嫩莖を切り、砂勝ちの地に挿入して培養す、この法によるときは、早きは七八月頃より開花すべし。

一、ばら
二、てんぢく
三、ダーリア
四、牽牛花
五、菊



株分

株分法は、春發芽前に根球を別けて分植すべし。また鉢植となすにはヒヤシンスに於けるが如くなすものなれども、親根には必ず前年の莖の一部を殘留し置くを要す。何となればこの部のなき球根は決して發芽せざるものなればなり。

栽培

栽培は砂勝ちの培養土を可とす。培養中最も肝要なるは水分を絶やさぬやうに注意することなり。又肥料は下肥を稀薄にしたるものを最良とす。而して一株に多數の花蕾を生ぜしむるには摘心を行ひ、數枝を生じたるとき再び摘心すべし。花は枝先きの花蕾より

摘心

有限花序

咲き始めて次第に枝下の花蕾へ咲き下るものにて、普通の花卉とは反するなり。

冬間の球根貯藏は、暖地にては其の儘藁の類にて被ひ、寒地にては秋季掘取りて貯藏すべし。

七　其の他の球根性花卉

名稱	適土	蕃殖法	植付期	場所	開花期	花色	特徴
オキザリス（はなかたばみ）	腐植質砂壤土	實播（床）	春秋彼岸	花壇・鉢・溫室	春・秋・冬	淡紅・黃・紅・白	球根種と一年草とあり、後者にも種類多し。
スノードロップ（雪待草）	濕潤なる壤土	實播（床）	秋季	花壇・鉢	一・二月	一重・八重にて白花簇生	性強健、培養容易
アイリス	砂質壤土	實播（直）根分	九・十月	花壇・鉢	三月・六月	紫・白・赤等芳香を有す。	菖蒲の類にて種類多し。
イキシヤ	肥沃なる砂質壤土	實播（床）株分	三月・十月	鉢植・木框・溫室	四月・五月	桃・薔薇色・紅・樺・黃・白	草姿約二尺、一花二三週間を保つ、種類多し。
クロコスミヤ	砂質壤土	實播（鉢）子球	三月・九月	花壇・鉢	夏・秋	白・黃・紫・淡紅・綾	草姿三尺、形狀クロコスに似たり。性強健
チュベローズ（月下香）	肥沃なる砂質壤土	株分	九月	冷花壇・溫室	七・八月	白・淡黃色佳香を有す	夏水仙ともいふ。培養は稍〻水仙に同じ。
ネーゲリア	腐植質壤土	挿莖・芽球分（切）	五月・六月	鉢花・木框壇	秋・冬	深紅・赤・白・黃	葉は美麗なる斑點を有す。
アマリリス（ベラドナン百合）	肥沃なる腐植質壤土	實播・床・鉢	八月・九月	鉢花・溫室壇	三月・四月	白色美大軸部薄紫色	種類約五十餘種あり、いづれも百合に類す。
カラディム（錦芋）	腐植質砂壤土	球分（切）	三月	鉢花・溫室壇	（觀葉）夏	葉は濃綠色に鮮紅・白・桃等の斑	觀葉植物中の最美なるもの種類數百種以上
シクラメン	肥沃なる砂質壤土	實播（鉢）	四月	鉢・木框・溫室	九月	純白に紅の斑、赤紫・桃の一重八重	千島草に似て馨容共に愛すべし、

第十章　觀賞花樹

一　牡丹（ぼたん）

牡丹は專ら花を觀賞すべき灌木（くわんぼく）なり。四五月の頃紅・白・紫色等の一

重又は八重の美大なる花を開く。花徑凡そ六七寸に達し、艶美豐麗にして、花の王の名實に空しからず。種類甚だ多く、二百種以上に及ぶ。

蕃殖

蕃殖法には實播・接木・根分等あり。實播法は九月頃十分成熟したる種子を培養土中に埋め置き、翌春四月頃苗床に播下し、發芽後四五寸に成長したる頃園地に定植するものなり。土質は砂質の壤土を可とす。肥料は開花迄に三四回施すべし。

栽培

接木法は多く切接とす。其の法、八月頃、老株のものを砧木とし、接合部を堅く縛し、接穗の見えぬ迄土を被ひ、其の上に空鉢を伏せ置くなり。

培養

根分法は秋彼岸に行ふ。根元を高くし、堆肥・油粕等を多量に施すべし。

開花中は、午後には覆ひをなし、毎夕白水または日向水を灌ぐを要すれども、元來性乾燥を好み濕地を忌むものなれば十分注意すべし。又落花の際は、莖を二三節目より剪定し、根元に茶滓・馬糞等を積み、且霜除けをなすべし。

鉢植

鉢植となすには、播種後一二寸に成長したるときか、又は九月頃に於てすべし。

二　薔薇（ばら）

性狀

薔薇は、馥郁たる芳香、艶麗なる花姿、ともに心目を樂しむる灌木なり。其の種類甚だ多く、培養により四季花を絶たず。八重・一重・千重・大輪・小輪等の別あり。

蕃殖

蕃殖法には實播・接木・挿木等あれど、樹性強健なるを以て、挿木は最も安全にして且簡易なり。

栽培

實播とするには、秋彼岸頃瓦鉢に下種し、翌春發芽したる後、床地に移植すべし。

床地は砂壤土を可とす。又接木は春秋の彼岸頃に於て切接とすべく、挿木は梅雨中を最も宜しとす。

薔薇を移植するは何時にても可なれど、成るべくは春秋彼岸頃を

鉢植

好期とす。肥料等は花卉に同じ。また大輪花を得るには適宜花蕾を摘取るべく、鉢植となすには十分根を剪り、枝を剪りて、培養土中に植うべし。何れも霜除けをなすを要す。

三　躑躅（つつじ）

性狀

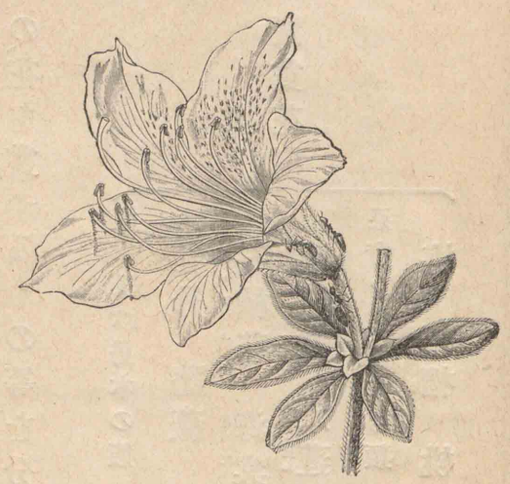
躑躅は古來より愛翫せらるゝ落葉性の灌木にして、その幹は高さ三四尺より丈餘に達するものあり。五月頃紅・白・紫・黄・桃色等の花を開きて美觀を呈す。種類甚だ多く、杜鵑花・石巖花等もこの類なり。

品種

石巖花は一に霧島ともいふ。花は小なれども躑躅に次ぎて一齊に開くを以て甚だ美なり。花色には淡赤色・深赤色等あり。

杜鵑花は幹の高さ五六尺、花は紅・紫・白等ありて石巖花よりも稍〻大なり。舊五月に開花するを以てこの名あり。この一種に白杜鵑花あり、花大にして且花より粘液を分泌す。

山躑躅は山野に自生するものにて、幹高三四尺、紅色の花を開く。



羊躑躅は高さ六七尺、幹堅く、恰も喬木の如し。初夏の頃黄又は黄赤色の花を開く。

其の他滿天星・粘躑躅・えうらく・青海波・金絲・淀川など有名なり。

蕃殖

蕃殖は壓條法または挿木法による。樹性強健なるを以て、いづれも容易なり。寒暖肥瘠いかなる土地にても生育すれど、適土は腐植土なり。

栽培

移植は春秋の彼岸前後を宜しとし、肥料は石巖花・青海波等は寒肥を多量に施すを要し、其の他は下肥・堆肥の少量を與ふるのみにて宜しとす。但し鉢植となすものは培養土を用ふべし。

剪定

躑躅は花を賞する外、枝條を剪定して種々の形態を作出し、以て庭園に一種の雅趣を添へしむ。

病害　躑躅の餅病は「つつじ・きりしま等の葉及び枝に發生し、全葉新枝等を枯死せしむ。この病葉枝を口に入るときは中毒を起す故に、決して之を口にすべからず、また羊躑躅の葉及び花も中毒を起すといふ。

四　觀賞花樹の分類

觀賞花樹は、右に擧げたる外なほ種類多し。其の他葉姿を愛するもの、花を賞するもの等を分類すれば左の如し。

觀賞花樹

- 灌木及び喬木の類
  - 牡丹　薔薇　躑躅　紫陽花　山吹　山茶花　えにしだ　石楠花　海棠　嬌竹桃　瑞香花　溲疏　櫻　椿　木蓮　辛荑　百日紅　落霜紅　凌霄花
- 果實を需用する類
  - 梅　柘榴　桃　杏　木瓜　朱櫻

觀賞葉樹

- 灌木及び喬木の類
  - 楓　梧桐　やつで　交讓木　滿天星　衛矛　蘇鐵　黃楊
- 盆栽（鉢植）として賞する類
  - 松　眞柏　扁柏　欅　樅　南天　檜　黃櫨

農藝教科書　園藝篇　終

農藝教科書（園藝篇）

定價　金四拾五錢

大正七年度臨時定價　金五拾貳錢

大正三年十二月十日印刷
大正三年十二月十三日發行
大正四年三月廿八日修正印刷
大正四年三月卅一日修正發行

著者　小倉延足

發行者　東京市日本橋區鐵砲町三番地　合資會社六盟館

右代表者　杉本七百丸

印刷者　東京市京橋區弓町二十五番地　高橋郁

發行所　東京市日本橋區鐵砲町三番地　合資會社六盟館
電話浪花二七六四番　振替口座　東京一二五五〇番

關西大販賣所　大阪市南區心齋橋筋二丁目　合資會社六盟館
電話長南九番　振替口座大阪四三二番　松村文海堂

印刷所　東京市京橋區弓町　三協印刷株式會社

合資會社 穴盟館
發行圖書
大販賣所

東京市京橋區南傳馬町二丁目　目黑書店
電話京橋一一六三番　振替口座東京二八〇九番

東京市日本橋區鐵砲町　榊原書店
電話神田一三一三番　振替口座東京三〇九〇番

東京市日本橋區本石町二丁目　杉本書店
電話本局一六九八番　振替口座東京五六一三番

長岡市表四ノ町　目黑十郎
電話長長岡一八番　振替口座東京三六一九番

長野市大門町　西澤本店
電話長長野一二四番　振替口座東京一〇七〇番

本三 水野モモエ